

地域別小中学校教育環境整備検討協議会及び
協議会以外での意見等の概要

目次

第1 田浦地域

1 田浦地域小中学校教育環境整備検討協議会での意見等の概要

- (1) 田浦地域小中学校教育環境整備検討協議会の開催状況…………… 3
- (2) 田浦地域小中学校教育環境整備検討協議会（第1回～第6回）において検討された方策案…………… 4
- (3) 方策案ごとの意見
 - ア 方策案1 田浦小学校区を長浦小学校区へ編入する。
 - (ア) 通学や通学路について…………… 5
 - (イ) 学校規模について…………… 7
 - (ウ) 方策の検討について…………… 8
 - (エ) 地域について…………… 10
 - (オ) 跡地利用について…………… 11
 - イ 方策案1（参考） 港が丘1丁目を除く田浦小学校区を長浦小学校区に編入し、港が丘1丁目を船越小学校区に編入する。…………… 12
 - ウ 方策案2 長浦小学校に中学校を併設する。また、田浦中学校に小学校を併設する。…………… 13
 - エ 方策案3 田浦小学校を現地で建て替える。…………… 14
- (4) 答申内容に関する田浦地域小中学校教育環境整備検討協議会の意見（第7回）
 - ア 田浦小学校区を長浦小学校区へ編入することについて…………… 15
 - イ 通学や通学路について…………… 17
 - ウ 地域について…………… 18

2 地域説明会における意見

- (1) 田浦小学校区を長浦小学校区に編入することについて…………… 19
- (2) 通学や通学路について…………… 31
- (3) 学校規模について…………… 33
- (4) 跡地利用について…………… 35
- (5) 地域や環境について…………… 36

3 メール、FAX等での意見

- (1) 方策の検討について…………… 39
- (2) 通学や通学路について…………… 44
- (3) 地域について…………… 47

第2 走水・馬堀地域

1 走水・馬堀地域小中学校教育環境整備検討協議会での意見等の概要

- (1) 走水・馬堀地域小中学校教育環境整備検討協議会の開催状況…………… 48
- (2) 走水・馬堀地域小中学校教育環境整備検討協議会（第1回～第6回）において
検討された方策案…………… 49
- (3) 方策案ごとの意見
 - ア 方策案1 走水小学校区を馬堀小学校区に編入する。
 - (ア) 方策の検討について…………… 51
 - (イ) 通学や通学路について…………… 54
 - (ウ) 学校規模について…………… 56
 - (エ) 跡地利用について…………… 57
 - (オ) 地域や環境について…………… 58
 - イ 方策案2 走水小学校区を現状のまま存続し、定住促進策を講じる。
 - (ア) 方策の検討について…………… 59
 - (イ) 地域や環境について…………… 60
 - (ウ) 学校規模について…………… 61
 - ウ 方策案3 小規模特別認定校として走水小学校を存続する。…………… 62
- (4) 答申内容に関する走水・馬堀地域小中学校教育環境整備検討協議会の意見（第7回）
 - ア 走水小学校区を馬堀小学校区に編入することについて…………… 63
 - イ 通学や通学路について…………… 65
 - ウ 跡地利用について…………… 66
 - エ 地域や環境について…………… 67

2 地域説明会における意見

- (1) 走水小学校区を馬堀小学校区に編入することについて…………… 69
- (2) 通学や通学路について…………… 75
- (3) 学校規模について…………… 77
- (4) 跡地利用について…………… 79
- (5) 地域や環境について…………… 80

3 メール、FAX等での意見

- (1) 方策の検討について…………… 83
- (2) 通学や通学路について…………… 88
- (3) 学校規模について…………… 90
- (4) 跡地利用について…………… 92
- (5) 地域や環境について…………… 93

第1 田浦地域

1 田浦地域小中学校教育環境整備検討協議会での意見等の概要

(1) 田浦地域小中学校教育環境整備検討協議会の開催状況

内容	開催年月日	審議事項等
第1回 協議会	令和4年5月26日	対象校の現状・課題について 方策案の検討について
第2回 協議会	令和4年7月13日	対象校の現状・課題について 方策案の検討について
第3回 協議会	令和4年10月3日	対象校の現状・課題について 方策案の検討について
第4回 協議会	令和5年1月31日	対象校の現状・課題について 方策案の検討について
第5回 協議会	令和5年3月29日	対象校の現状・課題について 方策案の検討について
第6回 協議会	令和5年5月19日	意見のとりまとめ
第7回 協議会	令和5年11月16日	答申内容の説明

(2) 田浦地域小中学校教育環境整備検討協議会（第1回～第6回）において検討された方策案

方策案1	田浦小学校区を長浦小学校区へ編入する。
趣旨	田浦小学校・長浦小学校ともに全学年が単学級の小規模校となっており、今後も児童数の減少が見込まれます。 また、田浦小学校については、校舎の建築年数が70年と市内で最も古く、建て替えの検討時期を迎えています。校地面積が狭隘であり、土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）や周辺道路の状況から同一敷地内での建て替えは困難であるため、田浦小学校区を長浦小学校区へ編入するものです。
懸案	編入後の通学については、距離だけではなく、トンネル、道幅、人通り、防犯などの課題があるため、児童が安心安全に通学できるように対応策を講じる必要があります。

方策案1 (参考)	港が丘1丁目を除く田浦小学校区を長浦小学校区に編入し、 港が丘1丁目を船越小学校に編入する。
趣旨	港が丘については、港が丘1丁目が田浦小学校区、港が丘2丁目が船越小学校区と別れている状況があるため、町内会・自治会区域と小学校区を合わせる観点から港が丘1丁目を船越小学校区に編入するというものです。
懸案	各地域の歴史や地域性、実情などを考慮し、検討する必要があります。

方策案2	長浦小学校に中学校を併設する。また、田浦中学校に小学校を併設する。
趣旨	通学距離や小中一貫教育の観点から、長浦小学校の場所と田浦中学校の場所に小中一貫校を設置し、子どもたちの気持ちが前向きになるように新しい教育環境を整備するというものです。
懸案	長浦小学校に中学校を併設するには、運動場面積の基準を満たさないため難しい状況です。 田浦中学校に小学校を併設するには、敷地の形状から実現には工夫が必要となります。

方策案3	田浦小学校を現地で建て替えする。
趣旨	田浦小学校は、田浦に住む多くの人々が通ってきた歴史ある小学校であり、地域活動や避難所など地域の拠点となっているため、現地での建て替えを行い、田浦小学校を存続するというものです。
懸案	田浦小学校の敷地が狭いため、運動場の面積や形状が確保できないなど、同一敷地での建て替えは難しい状況です。

(3) 方策案ごとの意見

ア 方策案1 田浦小学校区を長浦小学校区へ編入する。

(ア) 通学や通学路について

No.	内 容
1	田浦小学校と長浦小学校が統合した場合の通学距離が最長で約3kmとのことですが、低学年が心配です。
2	自転車や自動車等の交通量が多い国道を通らなければならないため、安全対策をどのように行うかが課題になると思います。
3	老朽化が進むトンネルが、地震にどこまで耐えられるのかが不安です。
4	学校が遠くなることで、障害のある子どもが自力で登校できなくなることも考慮しなければいけないと思います。
5	バス通学が自費負担となると、田浦地域に住むという選択肢が取られなくなり、地域の存続にも関わります。小学生を対象に公共交通機関を無料とする施策を講じてもらえれば、人口増加につながると思います。
6	長浦小学校の通学路にトンネルの狭い歩道がありますが、歩道と車道の境のガードレールの構造が、身体との接触時に怪我をしまいやすいようなものとなっています。国道のメンテナンスについて細心の注意が必要ではないかと思いました。
7	現在、長浦から通う田浦小学校の児童は、自費で通学定期を購入している状況ですが、こうした部分とその条件が違ってくると思いますので、その点は行政で保障していくことが大事だと思います。
8	スクールバスを導入していただきたいと考えます。公共交通機関を使った通学は児童にとって難しい部分があるので、例えば田浦小学校の跡地まで来てもらってからスクールバスで通うという形も考えられますし、スクールバス等で通学路の安全を確保していく必要があると思いました。
9	仮にスクールバス等が出るとなったときに、子どもたちは何時に家を出発すれば良いのかが気になりますし、具体的にどのぐらいの距離でどのぐらいの時間がかかっているのかを知りたいです。
10	通学距離の問題もそうですが、トンネル内を子どもに歩かせるのはあり得ないと思います。道路も国道であるため、市のみで対応できるものではないと聞いていますし、この環境がすぐに改善されるとは思えません。
11	スクールバスの導入または路線バスの利用という議論も出てくると思います。ただ、例えば小学校1年生が一人でバスに乗ることは安全面で不安がありますので、こうしたことへの対策として、登校ボランティアを配置するのが良いと思います。
12	地域福祉の中心的な役割を担っている民間施設のお力を借り、例えば高齢者の送迎に使用している車両を使わせてもらうことも考えられると思います。
13	田浦駅から田浦小学校まで歩くのにトンネルを通る必要がありますが、トンネルの歩道も狭く、人とすれ違うことも大変ですので、児童の安全面を考えると、児童にトンネルを歩かせる選択肢はどうかと思います。

No.	内 容
14	スクールバス以外の選択肢であれば、バスの交通費に対する補助を申請するスタイルも提案したいと思います。
15	通学区域についてですが、学校を選択できるようにしていただければと思います。
16	小学生が通学でトンネルを通ることについての話がありましたが、そもそも自転車は車道を走らなくてははいけませんし、そうするように指導するのが基本だと思います。その点を考えていただきたい
17	田浦町3丁目から1丁目に抜けるトンネル、田浦町1丁目から長浦に抜けるトンネルがあり、長浦から田浦と安針塚に抜けるトンネルは非常に長いです。徒歩経験のある方は分かると思いますが、これらの3つのトンネルを通過するのに、子どもの足で約10分～20分はトンネルの中にいる時間が出てきます。通学や通勤等でロードバイクを含め自転車を利用する方も大変多いです。ロードバイクで車道を走る方はいいですが、年配の方が車道を平気で歩いているという状況もよく見かけます。その場合、3つのトンネルにそれぞれ上りと下りがありますので、トンネルを通る道が6つあることになります。こうした場合、これらの道を子どもたちにどのように通過させるかという検討が必要ですし、スクールバス以外で、例えば、仮に京急バスの通学費の補助が半分しか出なくなったときに、中には経済的な理由から徒歩で通わせるご家庭も出てくると思います。それぞれの通学路の出口と入口にボランティアを配置する必要があります。
18	自転車は歩道を通ってはいけないと思いますが、そうした部分での安全管理をする方を12名配置することも考えられます。ただ、こうしたときにボランティアの配置とスクールバスの導入のどちらが安いのかということも検討課題の一つになると思います。
19	仮に補助が難しいのであれば、田浦地域の方は、田浦中学校方向へ上った方が現実的かと思えますし、統廃合であれば、船越小学校、田浦小・中学校という形の方が良いと思います。
20	スクールバスをどれだけ充実させられるか、またはスクールバスでできない部分を公共交通機関の併用という形で補う等、さまざまな方策はあると思いますので、そうした部分をクリアできれば、田浦4、5丁目と港が丘地域については現状のままで問題ないと思います。
21	田浦警察署と交通安全協会等と調整し、例えば通学時間帯において、上りは一般の方、下りは通学の方に限定するといった制限をつけることもできるのではないかと感じています。
22	小学生は予想のつかない動きをしますので、トンネルを徒歩で通学させるのは現実的ではないと感じていますし、こうした危険にさらされなくて済むような方法は絶対必要ですし、ぜひそうした方法を強く望みたいと思います。
23	どれだけ柔軟にスクールバスを走らせるかだと思いますし、道が狭いからできないというのは不安に感じてしまいます。例えば、田浦小学校を起点としても、ワンボックスカーを田浦泉町、田浦大作町へ走らせるという検討も必要になると思います。また、田浦小学校以外の候補先として社会館の駐車場、その他に田浦4、5丁目の大通りも道が広いので、そうしたところで乗降はできると思います。ただ、広い場所というよりも狭い場所へいかにしてどこまで入れるかということだと思いますし、通学の時間も含めて第一に考えていただきたいと思います。
24	田浦3丁目の寺の裏で開発が行われており、その多くが私有地ですが、その中で事業者が所有している土地があります。こちらについては通行許可を頂いており、津波や地震の際、避難のため上り上がらせてもらえるという話も事業者から頂いていますので、地域協力の一環として協力を仰げるとと思います。

(イ) 学校規模について

No.	内 容
1	両地域には児童が少ないですが、クラスにある程度の人数がいることは、子どもの学びや成長に必要な不可欠なことだと思います。
2	田浦小学校の子どもたちが、長浦小学校に来た時にさまざまな心配があると思います。ただ、そのような変化を乗り越えられる子どもは、より成長できると思います。各学年1学級のところが2学級になると、より良い教育を目指す余地が生まれると思います。男女数のアンバランスが解消されることも教育的にメリットだと思います。
3	教職員は、学校生活を充実させるために知恵を絞っています。人数が少ないからマイナスだとは思っていません。田浦小学校の一番の課題は、校舎の安全面であり、良い教育環境を提供できればと思います。
4	田浦地域の小学校の現状において、他の地区と一緒にすることで、子どもたちの集団での学びに繋がると思います。
5	昔と比べると、子どもたちが弱くなっています。特に小規模校では、小規模の良さもある一方で、人間関係が固定化されることでストレスを経験する機会がなくなっていると思います。問題が起きない学校が良い学校ということではなく、起きた問題について教師と一緒に乗り越えることで、さまざまなことを学べると思います。
6	田浦小学校と長浦小学校と統合するのが良いと考えています。その理由として、男女比も含めて少ない児童数でいろいろ取り組む必要がある点において、教育を効果的にやる上で厳しいと感じることがあります。
7	仮に田浦小学校と長浦小学校が統合し、今後においても、逸見小学校、沢山小学校、桜小学校、汐入小学校の統合の話も出てくると思います。こうした中で、西逸見1、2、3丁目に住む人の中には長浦小学校の方が近いという子どもも出てくると思いますが、そうした場合は学校を選べるような形になるのでしょうか。
8	教員の指導力の向上についてです。新しく教員が入ってくる中で、お互いに先生方が成長し合う、あるいは場合によっては学年で授業を交換し、学年全体を見ながら成長していくという場面が非常に作りづらい点がデメリットだと感じます。
9	小規模校のメリットはありますが、子どもたちを見てみると、たくましさの部分が少し不足しているように感じます。理由はいろいろあると思いますが、子どもたち自身が育ってきた環境に左右される部分が非常に大きいと思います。本来であれば、子どもたち自身がさまざまな部分で競争したり、時には喧嘩したりすることで成長していくと思いますが、小規模校ではなかなかそうした経験を積むことができない部分も考えられます。
10	できる限り多くの人数がいる環境下で育ってほしいと思いますし、単学級のメリットよりも複数学級のメリットについてしっかり考えてあげたいという思いがあります。
11	人間関係が固定化することで、仮にその関係がうまくいかなかった場合に、このことがデメリットになり、子どもたちの今後に大きく影響することが考えられます。
12	実際に単学級ではない別の学校に転校したいとの相談を受けたことがあるというものがありましたが、これとは真逆のケースも経験したことがあります。小規模校についてはさまざまな意見がありますが、その児童にとってはこうした小規模校が合っていたというご意見も頂いていることを紹介しておきたいと思います。
13	教員の研修という意味では多くの教員がいた方が良くと思いますが、小規模校においては、子どもたち一人一人と向き合う時間が充実しているのではないかと思います。

(ウ) 方策の検討について

No.	内 容
1	一番重要なことは、学校教育の質を上げることだと思います。
2	田浦小学校の建築年数及び子どもの安全性を考えると、田浦小学校区を長浦小学校区に再編する案が有力だと思います。
3	学校の統合により、学童クラブが家や学校から遠くなってしまふことと、1カ所の学童クラブに子どもが集中することが懸念されます。
4	学校がなくなることによる、心情面のケアが必要です。
5	小学校の統合は、基本的には反対です。
6	地域への説明や意見を聴く機会が不足しているように感じているので、説明会やパブリックコメント等の機会を設けてほしいです。
7	第2回資料のシミュレーションは、人数と面積を合わせた点では良いアイデアだと思いますが、町内会や自治会の区割りにも関わる話になるので、該当地域の住民の理解も含め、深く掘り下げて検討していかなければならないと思います。
8	田浦小学校と長浦小学校を単に合わせるだけでなく、全ての近隣地域を巻き込んだ計画を進めていければいいと思います。
9	田浦小学校と長浦小学校の再編だけでなく、近隣地域の小中学校も含めて広いエリアで長期的に検討することも必要だと思います。
10	将来的に同じような議論が繰り返されるのが目に見えていますので、学校の建て替えも含め、市全体ないし県全体、そして長いスパンで検討していただければと思います。
11	0歳の子どもと小学校1年生の子どもがいる家庭は、例えば子どもが田浦小学校から長浦小学校へ移動した後でも、推計上、長浦小学校が小規模校になる可能性が大きいですし、数年後になればまた違う小学校へ移動するという家庭が出てくることも考えられます。もう少し視点を広げた形で検討できないか提案させていただきます
12	築年数の限度は80年だと聞きました。より広域でより長いスパンで検討することはできないかと思っています。
13	今後も、市内各地域で教育環境整備の検討を進めていく場合、スクールバスが各地域で必要になってくると思いますし、それを踏まえて市でスクールバスの予算計上を検討していただき、子どもたちのためにスクールバスを出すという形が適切だと思います。このようにすることで、各地域における教育環境整備の検討についても地域住民からのご理解を頂けると思います。
14	行政区を超えて統合することについて、例えば、田浦1、2、3丁目が長浦小学校で、西逸見と東逸見も長浦小学校が良いのではないかと考えます。
15	町内会の役員会にて、地域住民への周知が不足しているのではないかとのご意見も頂きました。また、この計画に関するご意見に対して教育委員会がどのような回答をしたかも含めて、地域住民へフィードバックしていただければと思います。
16	田浦地域の方々に長浦小学校の状況を一度見てもらう機会を作っていただくことも考えられると思います。

No.	内 容
17	現在田浦小学校に通っている児童が長浦小学校または船越小学校に通うことになった場合において、特別支援学級の児童がしっかりと学校生活を送れるような環境を整えることをお約束していただきたい。
18	小学校の校庭は、放課後に子どもたちが友達同士で集まって遊ぶことのできる一番大きなスペースとなっていますが、仮に田浦小学校が長浦小学校に編入した場合、スクールバスもしくは公共交通機関の時間の関係上、学校で集まって遊ぶことができなくなる可能性が出てくることについて考えていただきたいと思います。

(エ) 地域について

No.	内 容
1	通学区域の範囲の検討については、地域の実情を考慮する必要があり、非常にデリケートな問題だと思います。
2	田浦地区は広い集会場がなく人口が多い割に不便です。検討に当たっては、この状況をくみ取っていただきたいと思います。
3	通学区域の検討に当たっては、各地域の歴史など地域の実情を踏まえていただく必要があると思います。
4	協議会の内容を教育委員会でまとめてもらった資料を回覧していますが、計画に対する反応がなく、ただ回覧を回しているだけになっているのが現状です。町内会、自治会、連合町内会等も含め、本件についてどのように考えるかを投げかけることも必要だと感じます。
5	長浦小学校区のうち、吉倉町と安針台は逸見行政センター管内で、長浦は田浦行政センター管内という状況になっています。各管内の催し物の通達は各管内にしか行かないので、例えば田浦警察署関係の催し物の情報も安針台には行きません。このため、小学生にポスターを描くようお願いしても、その話が通っていないので対応できませんし、このような弊害があります。

(オ) 跡地利用について

No.	内 容
1	田浦小学校を廃止するのであれば、跡地の活用として、現在、田浦地域にはないコミュニティセンターや集会スペースなどを新設していただきたいです。また、広域避難場所としての利用の継続についても望みます。
2	学校がなくなった場合の地域への対応について、まちづくりの観点を踏まえた検討をしていただきたいです。
3	田浦小学校は、地域の皆さまの土地の一部を提供してできたと聞いていますので、跡利用を検討する場合は、地域の子どもたちあるいは地域住民のコミュニティの場として活用することも検討していただきたいです。
4	学校がなくなることによる人口減少と田浦地域のアーティスト村といった、行政としての地域活性についてどのように考えているのかを聞きたいです。また、年配の方が増える一方で子どもが少なくなる中で、誰がどのように利用していくのかについての施策も聞かせていただきたいです。
5	現在、近くにある善隣園保育センターの子どもたちは、運動会等広いスペースを必要とする行事の際に田浦小学校を使用していると思います。そのため、その子どもたちが使える場所を整備することで、こうした行事はもちろん、善隣園保育センターのふれあいの場として利用すること等を検討できれば、若い世代の呼び込みにもつながるのではないかと思います。
6	田浦青少年自然の家が今年3月末で廃止と聞いていますので、地域の方のコミュニティの場についても考えていただければと思います。
7	地域活性化等を考える上で、子どもたちから高齢者まで皆が集まれる場が絶対必要だと思います。船越地域には田浦行政センターがありますが、田浦地域にはこうした施設がありませんので、検討に当たっては十分考慮していただきたいです。
8	買い物ができるとか、役所屋のようにさまざまな手続きができるような場所があれば便利ではないかと感じました。
9	学校が持つ役割の一つとして、地域の防災拠点があると思います。田浦小学校もこうした役割を持つ場所ではありますし、一方で土砂災害特別警戒区域に入っている現状もありますが、土砂災害だけでなく地震等他の災害を見越しても地域の防災拠点は必要ではないかと思っています。
10	田浦小学校の体育館にはテントが8張しか張れませんので、1張4人とすると32人しか入れません。そうなりますと、田浦地域の避難地の責任者を決めるように言われても、近隣の住民が多く体育館に入ったら何もできなくなります。こうした状況を考えると、今後のためにも、広域避難地の整備はお願いしたいです。

イ 方策案1（参考） 港が丘1丁目を除く田浦小学校区を長浦小学校区に編入し、港が丘1丁目を船越小学校区に編入する。

No.	内 容
1	田浦小学校区を分割することは考えられないのでしょうか。例えば、田浦町4・5・6丁目を船越小学校区としたり、中間をとって半分半分にしたりなどの案はありますでしょうか。
2	田浦小学校と船越小学校を統合し、長浦小学校は逸見小学校と沢山小学校と統合するとバランスが取れるのではないのでしょうか。
3	今後の児童数の減少が見込まれている中で、船越小学校についても建物の一部がレッドゾーンに該当しています。令和10年度の田浦小学校、長浦小学校、船越小学校の児童数の合計が435人と見込まれています。長浦小学校と田浦小学校が統合しても300人未満のため、将来的な部分を見て船越小学校も含めて検討したほうが良いのではないのでしょうか。
4	自治会及び町内会の思いもあると思いますが、田浦4、5、6丁目の児童にとっては船越小学校に通学の方が便利かつ安全だということです。港が丘1丁目についても、3つのトンネルを超えて長浦小学校に通わせるよりも、船越小学校に通わせた方が便利ですし、安心感が生まれると思います。
5	田浦小学校の運動会や祭りは田浦地域で行って来ていますが、これによって学区が分かると、運動会や祭り等の行事に子どもたちが出てこなくなってしまうので、反対です。
6	行政区に関することですが、安針台と吉倉は逸見管内であるため、田浦地域での行事に関する情報が入っていきませんし、逆もまた然りです。同じ長浦小学校でも、児童が住む場所によって行政区が異なることで、お互いの地域の情報を知らないという現象があります。行政区と学区が異なってしまうと、地域としてもなかなか悩ましいところがありますので、これは非常に難しい問題ではありますが、慎重に検討を進めていただきたいと思います。
7	可能であれば、港が丘地域は田浦連合町内会に属したままにしてほしいと思います。
8	現在、港が丘2丁目が船越小学校区で、港が丘1丁目が田浦小学校区ですが、仮に港が丘1丁目子どもたちを船越小学校に通わせるとなった場合、自治会は田浦連合町内会に属しますが、港が丘2丁目の子どもたちは、田浦の行事には参加しないでしょう。そうした状況の中で、港が丘1丁目が船越小学校区となったときに、自治会は田浦のままにしたいとしても、おそらく難しいですし、大人の方は来るかもしれないとしても、子どもたちはまず来ません。また、港が丘地域よりも遠い地域もありますので、このことも含めて考えないといけないわけですが、港が丘地域はできてから20年経っていない新しい町内ですので、その点も含めて考えていただきたいと思います。

ウ 方策案2 長浦小学校に中学校を併設する。また、田浦中学校に小学校を併設する。

No.	内 容
1	子どもたちの気持ちが前向きになるような形が良いと思います。例えば、長浦小学校の場所と田浦中学校の場所に小中一貫校ができれば、子どもたちも新しい教育環境で気持ちが前向きになると思います。
2	小中一貫の教育に関して言えば、小学校高学年の専科制が積極的に進められている中なので、非常に魅力的な学校スタイルだと思います。
3	長浦・田浦の小中学校併設校のシミュレーションに関しては、長浦には無理に中学校を作らず、逆に小学校の児童数を学区編成の部分でしっかりさせるようにしていけば、必ずしも両方同時に併設校を作る必要はないと思います。
4	費用面に関して言えば、併設校に建て替えた場合に多額な費用を調達できるのかという心配があります。
5	学校現場では、学力向上や施設改修でいろいろな予算をやりくりして対応していただいています が、例えば体育館のLED化やトイレの洋式化など、実際に予算の順番待ちになっている状態の中で、風雨の際に雨漏りする学校がとても多い中で、多額の費用捻出が厳しいのではないかと思います。
6	多額な費用を使うことで他の予算を削るような状況は避けたいと考えています。

エ 方策案3 田浦小学校を現地で建て替える。

No.	内 容
1	田浦小中学校のシミュレーションの中で、行政の壁を越え、狭小ながらもわくわくするような小学校づくりを提案できれば面白いと思います。
2	田浦小学校については、少子化という状況なので、老朽化した部分だけを取り壊せば教室は足りるのではないですか。
3	田浦地域の児童数の減少に伴う教育環境整備の話であるため、その場での学校の建て替えは、児童数の減少の解消にはつながらないと思います。
4	現地での建て替えをするという方策の中で、まちづくりという大きなランドデザインの中で小学校のあり方というものを再構築していただくようにして欲しいです。もしかしたら田浦小学校はこれで統廃合になってしまうかもしれませんが、いろいろなところで出てくる問題にもなりますので、大きな視野で、小さな学校づくりといいますか、設計士さんを交えて、その狭小のところでもできる工夫というものをしっかり作り上げていかなければ問題の解決にならないのではないかと思います。この田浦小学校のあり方というものが、横須賀市内、県、全国での学校の統廃合のベースになるというような思い切った舵取りをできるようにするということが大切なのかなと思います。

(4) 答申内容に関する田浦地域小中学校教育環境整備検討協議会の意見（第7回）

ア 田浦小学校区を長浦小学校区へ編入することについて

No.	内 容
1	答申において、編入という言葉のイメージが、統合とは少し違うように感じます。統合と言うと、新しい学校ができるので、校名や校歌をどうするか、といったことまで検討できますが、編入となると、ニュアンスが違うように感じます。
2	長浦小学校区の保護者や地域の方は、長浦小学校は受け入れる側なので、特に影響はないと考えている方が大多数だと思います。その中で、地域説明会でそのことに触れないと、決定してから、実は校名等が変更となり、時期は令和7年であるという話が出てくることになるので、ハレーションの元になると思います。地域説明会の順序も含めて再考が必要かと思います。田浦小学校の地域説明会があって、長浦小学校の地域説明会があって、その上で、合同の地域説明会があった方が、効果的なアナウンスができると思います。
3	統合ということで打ち出していくのか、それとも、答申のとおり学区の編入ということで、今後学校をどうしていくかについては、別で決めていくのでしょうか。そこを整理しないと、地域説明会の際に混乱すると思います。
4	統合された後の校名について、事務局の言う「しかるべきプロセス」というものの想像がつきません。長浦の人たちは、長浦小学校の名前は変わらないと思っている人が多いと思っており、今後の検討次第では、校名や校歌が変わる可能性もあるというのは驚くと思います。
5	長浦小学校の名前がなくなるのはとても悲しく、150周年を迎える伝統のある学校です。また、校歌は有名な方が作曲、作詞をしているので、できれば残して欲しいと思います。地域の皆さんも、残して欲しいという声が多いのではないかと思います。
6	年明け以降に、市長が出席する総合教育会議及び教育委員会定例会議で決定するということが、ゴールから逆算して、最終的にいつ完成するのかといったところが分かると、委員の皆さまも動きやすいと思います。
7	新しい学校ということになると、教育課程を作り進めていくに当たり、交流をいきなり始めて試行錯誤しながら進めるというわけにはいかないのと思います。令和6年度の1年間は、統合に向けての計画の年、そして次の1年間は、その計画に則って必要な交流等をしていく年にする必要があると思います。交流した方が良いこともあれば、それぞれの学校でやった方が良いこともあると思うので、そのようなことを単発的に判断しないためにも、1年間は十分に計画し、その次の1年間で、必要な準備を進めていくというスケジュールが良いと思います。
8	これまで、田浦地域と長浦地域で温度差を感じていました。長浦地域の方は、あまり関係ないと思っていたと思うので、丁寧に説明していただければと思います。
9	総合教育会議及び教育委員会定例会で方策と時期が決定した後に、通学路の問題や子どもたちの安全安心、地域の活動についてといった課題に対する地域の意見を聞きながら準備をするということだと思います。最短で令和7年4月ということでしたが、4月になった段階で準備ができなかったということはないということをお願いします。
10	準備について話し合う場合は、子どもと保護者の安全安心を第一に考えて、地域の意見に耳を傾けて準備していただければと思います。
11	P T Aで学校へ行った際に職員室の人数が少ないことが気になります。教職員の人数に余裕をもって配置していただきたいです。児童数が増えると良い面もありますが、教職員の負担は増えると思いますので、教員だけでなく、事務職員等も含めて余裕がもてるようにしてほしいです。

No.	内 容
12	方策決定後に、当初予算だけでなく補正予算も含めて、子どもたちの安全安心の面等についての対策がとれる体制をとれるようにお願いします。
13	学校、ご家庭、地域も含めた準備も必要です。準備も含めて時期を決めますというのは、教育委員会の準備に限ったことではないかと思えます。
14	教育委員会から、今後学校でどういったことが必要かという資料もいただいていませんし、現場には何も伝わっていない状況で、方策と時期を決定するという事は心配です。
15	統合時期についてはまだ決定していないと思えます。今回のケースは、今後の横須賀市の教育環境整備のモデルケースのようになると思えます。編入、統合ということを進めていく中で、何が必要か未知数な部分もあるので、丁寧に、どういった取り組みをする必要があるのかを検討し、焦らずにやっていただくことが必要だと思えます。
16	答申の付言について、両校の児童が円滑に新たな関係で学べるようにすることが大事だと思えます。そのためには、急に統合するのではなく、合同の運動会や校外学習といったように、両校がいろいろな形で交流をしたいと思います。両方の児童がお互いに、自分たちで学校を作っていくんだと思えるような取り組みが大事だと思えます。そうしたことを取り組むに当たり、予算や教職員に係るバックアップが教育委員会からあると良いと思えます。その上で、小学校におまかせするだけではなく、過去の事例を示すなどしていただきたいです。中学校としても何ができるのか考えて、中学校も含めた検討をする必要があると思えます。地域全体で何ができるのかを考え、そこに教育委員会が協力することが大事だと思えます。
17	統合時期について不安があり、PTAでも、何を準備する必要があるのかも分からず不安といった話が出ています。子どもの6年間は、子どもにとって大きな影響を与えるので大事だと思っており、大人の都合ばかりで話し合っているように思えます。教職員に不安があると、子どもたちはより不安だと思えますので、納得のいく説明をしていただきたいです。未来の子どもたちのことを考えると大きな問題だと思い、教職員に不安がある中で進めていくということについては、不安を感じます。
18	方策が年明け以降に決定するという事ですが、反対意見が多ければ統合できないと思えます。
19	老朽化の問題もあり、全員が納得するということはないと思えますが、丁寧に説明をしていただいて、納得できる時期に答申に沿って進めていただければと思います。
20	統合についてどの程度の作業が必要なのかまだ分からない状況です。ただ、統合を令和7年ではなく令和8年にすることは、余裕を持って準備できるという面もありますが、統合が遅れることのデメリットもあると思えます。また、答申が出たということで、年明け以降の決定を待たずに、学校現場としては統合を想定しなければいけないと思えます。校名や校歌等についても、いろいろな意見が出ると思いますが、いずれにせよ、子どもの気持ちを考えなければならないと考えます。例えば、田浦小学校という名前になったときに、長浦小学校の子どもたちはどう思うか、逆の場合はどうか、といったことを大切にしなければならないと思えます。そういった点からも、統合については地域の方や保護者の支援、協力が必要だと思えます。働き方改革によって時間外を少なくしようとしている中で、統合の準備にかかる業務があると思うので、加配はありがたいと思えます。両校が長年培ってきた教科の中での独自のカリキュラム、行事、特別活動といったものをすり合わせるということを考えても、相当な時間が必要だと考えています。
21	高校の話にはなりますが、逗子・葉山高校の統合の際は生徒同士で話をして、校歌を作ろうという意見が高まり、時間をかけて一緒に作ったそうです。また、逗子・葉山高校の校舎の中に、逗子高校のライブラリーのような部屋があり、これも生徒の発想であったと聞いています。このように、今後いろいろと考えられるものがあると思えます。

イ 通学や通学路について

No.	内 容
1	年明け以降に方策が決まり、その後に交流等を考えていくということですが、方策が決まったら、まず通学路に係る環境整備だと思います。通学路に係る環境整備は1番の課題なので、具体的に、通学の安全について、何ができて、何を整備していく予定があるのかということにも触れていただければと思います。
2	スクールバスについては、昨今ドライバー不足と言われている問題があります。定期券の補助については、子どもたちだけで路線バスを利用するのか、田浦小学校の約130人の児童に係る輸送能力が路線バスにあるのかといった心配もあります。トンネルを歩くということはありませんので、通学にかかる安全の整備は、保護者が安心できるように、具体的に示していただければと思います。
3	バス代の補助という話がありましたが、無料にしてほしいです。
4	学校に通うために家庭がお金を負担しなくて済むようにしてほしいです。以前、他の地域で補助をしていないので難しい、といった話もありましたが、是非お願いします。不登校の問題を考えたときに、補助が出たとしても、家から学校まで距離があるということが一つの原因になってしまうのではないかと心配です。教育委員会にはそういった点も考えてほしいです。
5	田浦地区、長浦地区ともに学童クラブがあります。統合した場合に、田浦地区の子が長浦地区の学童クラブを選ぶということも、各ご家庭の判断によってあり得ると思います。バスがあるとしても、学童が終わった後に安全に帰ることができるような方策を考えていただきたいです。仮にスクールバスだとすると、どうしても時間に制限があります。一方、路線バスであれば安全に帰れるのか、もしくは保護者が迎えに行くのか、といったことが心配です。田浦にある社会館の学童クラブを利用しており、高学年は1人で帰ることになっているので気になります。
6	教職員や子どものことを第一に考えて欲しいと思います。通学路の問題について、長浦小学校のPTAは旗当番等に関わっています。その中で、数年前からPTAは全員強制的に入るという状態ではなく、入りたくない人は入らなくても良いという形をとっているため、統合したことによる登校時の見守り等をPTAに頼まれても難しいと思います。朝の時間帯に協力できる保護者はあまりいません。
7	登下校の見守り等を地域のボランティアに任せてほしくありません。
8	令和7年に向けて、教育委員会では、子どもたちの安全についてどういった方策を持っているのかをお示しいただきたいと思います。子どもを通わせる親として、子どもの安全は非常に重要な部分だと思います。方策と時期が決まってから検討し始めるのでは、保護者として不安です。この場だけでなく良いので、横須賀市として、教育委員会として、統合に向けてどのようなことを考えているのかということを示していただければ、保護者としても安心できます。

ウ 地域について

No.	内 容
1	<p>田浦小学校の土地を寄付した方がいると伺いました。その子孫の方々にはもう土地についての権利はありませんが、先祖が寄付した土地で小学校ができたということをお大変誇りに思っています。そういった方がいる中で、田浦小学校の跡地が今後どうなっていくのかということは地域説明会の際にご説明いただきたい。また、学校がなくなることで、幼稚園、保育園、学童、店舗等に関わるまちづくりという観点において、行政としてご説明していただける部署の方が来るのでしょうか。小学校がなくなることによる地域への影響について、どのような考えなのかを伺いたいと思います。</p>
2	<p>地域説明会に担当部署の方も出席し、地域のご意見等を直接聞いたほうが良いと思います。教育委員会の方は教育の面の担当であり、まちづくりとなると担当が異なると思いますが、学校が一つなくなるということが、地域にとってどのような影響があるかということについて、直接担当部署の方々に聞いていただくのが賢明だと思います。</p>
3	<p>まちづくりといってもいろいろあり、担当部署も違うので、今後検討が始まり、具体的なご意見やご心配が出る中で、それに関係する部署が出席してご説明する、といったことはあると思います。</p>
4	<p>学童クラブは保護者のお迎えが原則ということですが、徒歩でお迎えに行く保護者もいるので、お迎えに係る距離が延びる方もいます。年明け以降に方策が決定し、その時点で時期も決まるということは腑に落ちません。方策が決まってからそれに向けて必要なことを話し合った上で時期を決めるべきだと思います。</p>
5	<p>来年度から、長浦小学校の学童クラブの運営事業者が変わると伺っています。市立民営のようなイメージを持っていますが、二つの学校が統合して児童数が増えるので、学童クラブの定員も増えるのか確認してほしいです。</p>
6	<p>最短で令和7年ということですが、教育委員会が学校に対して統合に向けて進めていく一方、地域が住民に対して説明をして、子どもたちを一つの学校に通わせる準備期間も必要だと思います。ボランティアの話も出しましたが、地域の中で、子どもたちや地域の関わりというものが変わっていきます。そういった中で、ボランティアはどうあるべきか、地域としてどういったことが協力できるのか、ということを検討していかなければならないと思います。そういった点から、令和7年という時期は拙速だと思います。地域説明会があり、その後に地域がどのように考えていこうかという話し合いが持たれると思います。その中で、地域が話し合って答えを出していくには、少し期間が必要だと思います。方策や時期の決定に関しては地域説明会での意見も反映していただければと思います。</p>

2 地域説明会における意見

(1) 田浦小学校区を長浦小学校区に編入することについて

No.	内容
1	<p>田浦小学校が引っ越しすることについてアンケートをとりました。3年生23人に配り、17人が回答しました。</p> <p>まず、田浦小学校が引っ越しすることについてどう思うかというアンケートをとりました。長浦小学校に行きたい人は0人、田浦小学校に残りたい人は15人、どちらでも良い人は2人でした。</p> <p>次に、距離が遠い場合にどうしたら良いかについてアンケートをとりました。車は2人、歩きは0人、スクールバスは13人、京急バスは0人、無回答は2人でした。</p> <p>次に、長浦小学校に行くことについて心配なことはあるかというアンケートをとりました。田浦小学校から引っ越しすることが心配、通学のトンネルが心配、友達関係が心配といった意見がありました。</p> <p>次に、田浦小学校から引っ越しすることに何か意見があるかというアンケートをとりました。とても嫌だ、引っ越しは悲しい、長浦小学校に行きたくない、引っ越しを延ばしてほしい、100周年なのでもっと続けてほしい、といった意見がありました。</p> <p>アンケートの結果は以上です。私たちは家から長浦小学校が遠いので、スクールバスを出してほしいです。また、できる限り引っ越しを避けてほしいです。</p>
2	<p>先ほどからのご意見やアンケートについて、事務局は、意見を受け止めました、ありがとうございます、といったことばかりです。懸案についても、対応を講じる必要があります、検討する必要があります、といったことばかりです。私たちもいろいろな資料を見て、非常によく分かっています。皆さまにお集まりいただいているのだから、今現在どのように考えているのか、1月に方策が決定されるということなので、もう少し具体的なお話をいただけたらと思っています。詰めた話をいただきたいと思います。</p>
3	<p>方策案1に関して、港が丘1丁目を除く田浦小学校区を長浦小学校区に編入し、港が丘1丁目を船越小学校に編入する、という参考が記載されていますが、なぜ方策案1だけ具体的な参考が付いて方策案2や3に関しては何もないのかということや、統合時期がいつなのかということも含めて、これだけ多くの意見が地域別協議会で出ています。それは私たちがすごく真剣に考えていることを、委員の方にあげてもらっていると思っています。それに対して、三つの方策案という形ではかあがってないということは、教育委員会に対する私たちの疑念や疑問、不安があるという原因だと思います。本日の受け答えからも非常に感じる場所があります。もう少し具体的に、私たちが不安になっているというところに関して寄り添った、真摯な対応をいただけないかと思っています。とうとうとご説明いただきましたが、資料を見て十分把握しています。先ほどスクールバスや路線バスの補助にかかる課題を聞いていましたが、それは私たちが考えることなのか疑問です。他の地域のこともある中で、今後全市的にこのようなことを進めていこうという事務局がこのようなことで良いのか疑問に思い、この地域説明会を意味のあるものにしていただけるような態度を期待します。レッドゾーンに関する質問にもスルーして、ご意見として承りますと言っていました。審議会等に関してもそのようなことばかりでしたので、会議自体がブラックボックス化していると思っています。このような意見がある中でこういった答申が出てくるというのは、どのような検討がなされたのか、もう少しクリアにしてほしいなと思いました。</p>

No.	内 容
4	今ある施設を使って十分運営できると思います。校舎が全て70年経っているわけではないので、古いところがあれば補修しながら使えば良いと思います。教育委員会が結論ありきでやっているように思います。
5	今回の案件に関しては、教育環境整備計画というものに則って進んでいるということ、教育環境整備計画に関しては、予算ありきではない計画であるということ、小規模校が赤字だから閉鎖するという問題ではないということであれば、やはり子どものことを考えて話し合っている時間であるし、子どものために決めていくことだと思います。
6	横須賀市には、子どもの権利を守る条例というものがありますが、条例の中で、子どもたちは何があっても差別があってはいけないという文言があります。その中で、今回の統合に関して、あるいは全市的に統合が進んでいく中で、距離や時間、金銭面での差別というのは生まれませんでしょうか。
7	答弁の中で最短で令和7年ということがありましたが、時期尚早に聞こえます。環境整備がしっかりと整わずに、期限の話を一きなりしていくというのは、少し乱暴だと感じています。そこはしっかりと整備してからでない子どもを持つ世代としては、分かりましたとは言えない状況があるので、そこは理解していただきたいと思います。また、予算も含めて議会での決議だということですが、その議会で採決する方々にも、この状況は子どもたちのためであるということを伝えていただき、理解していただきたいと思います。予算ありきではないという話でしたが、他の意見を聞いていると、予算、計画、日数の期限の話ばかり出てきて、本質の話が少し欠けているのではないかと思います。是非ともそこは、念押しで伝えていただければと思います。
8	小規模校であっても、田浦小学校を存続させた方が良いと思います。小規模校であればこのような大きな校舎は必要なく、小規模な校舎等で十分足りると思います。今までの校舎を建て替えるという概念を捨てて、小さい校舎を建てるという方向で検討されてはどうかと思います。そうすれば、レッドゾーン、道路の幅といった問題もクリアできるのではないかと考えます。
9	田浦小学校が長浦小学校に編入という形になっているかと思いますが、住んでいる場所や保護者の考えによっては船越小学校に行かせたいというご家庭もあるかと思いますが、その場、船越小学校の方が近い方もいらっしゃるって、船越小学校に行く児童が増えた場合には小規模の解消にならない可能性があるのではないかと思います。そういった点はお考えでしょうか。それに当たって、田浦小学校の児童が長浦小学校と船越小学校で別れてしまう可能性もあるということもお考えなのではないでしょうか。
10	学区外から通わせている親としてどのような結果であれ伝えたい意見があります。地域別協議会、審議会の内容は、議事録や学校からのプリントで確認していました。田浦に住まないけれど田浦で子どもを育てたい保護者として、今回の流れは大変残念に思います。地域別協議会、審議会を経て答申を決定したということですが、感覚としてはこのような当事者が意見できる機会がやっと開催され、ただ1年半過ぎていったように感じています。
11	予算が関係している話ではないとのお話でしたが、例えば個別指導と大人数指導で学費が異なるように、小規模教育を問題視する口ぶりは、校舎の建て直しや移転、教員不足、少子高齢化の田浦に予算がつかないことのカモフラージュにしか聞こえません。

No.	内 容
12	<p>小規模教育にこだわる理由は3組や縦割り教育という関わりにあります。私の祖父は敗戦後、横須賀米海軍基地で働き、父は当時田浦に校舎があった栄光学園で学びました。私は幼少期、父が田浦で学んだ英語教育の話聞いて育ちました。父の先輩には養老孟司先生をはじめ教養人が多くおり、日本のブレーンの教育的故郷は田浦にあると理解しています。時代は変わりましたが、今でも田浦には多くの国籍の方がいらっしゃいます。日本中で見ても国際的な視点を持っている特別な地域だと思います。宗教も越えて子育てをできる世界にも類を見ないダイバーシティが実現された地域です。田浦は日本のロールモデルとすべき、誇るべき地域です。マイノリティに関する悲しいニュースが多い現代、田浦で子育てをできることに大きな可能性と希望を見だしていました。時代は変わり、国籍の違いは日本の義務教育に追いつけない問題を生じることもあります。しかし、外国籍のご家庭からは、多くのことを学ぶことができます。また、縦割りの教育の中で、子どもたちは年上に学び、年下に教える社会性を身につけ、個性を尊重する余裕が感じられます。子どもたちも地域も自分ができることをして、弱者を助け、時には逆に支えてもらう環境が整っているのが田浦小学校と田浦の町です。毎年、学区外からでも田浦小学校の3組への進級を希望される方がいらっしゃいます。ダイバーシティの中で子どもたちの内面が豊かになっており、子どもをやさしく大きく育ててくれている田浦の方々には感謝の気持ちでいっぱいです。親としても3組の保護者の立派さ、大きさにいつも助けられています。今回少人数教育に予算がつかないことはつまり、田浦の地域で養うことができるダイバーシティの可能性を奪うことを意味します。神奈川県が掲げる、ともに生きるという言葉は、垣根をなくし、それぞれの地域でそれぞれの個性や特徴を大切にすることを目指していると理解していました。</p>
13	<p>今回の学校の引っ越しがなければ生じなかった悲しみがありました。長浦小学校より船越小学校を選ぶという意見も聞かれ、子どもは卒業以外の別れを、田浦で育ったばかりに経験することになります。子どもをもって意見を述べたり、勇気を出して行動を起こした大人同士の対立も、市政や教育委員会は責任を取ってくれるのでしょうか。田浦小学校に通わせる将来を当たり前のように描いて田浦に住むことを決めたご家庭の方も、学区外から通わせる私と同様、統廃合の計画を知ったのは1年半前と聞きました。学区外からでも複数の家庭が通わせたいと思う田浦小学校で、子どもが安心してハロウィンのトリックオアトリートができる田浦の町で、お金では買えない、子どもたちの無限の可能性を伸ばす教育より、他の分野を優先する市政には相応の代償があるでしょう。</p>
14	<p>今までの説明では子どもも私も納得いきません。政治を動かすことはできないかもしれませんが、もしこのままの説明で統廃合を進めるのであれば、教育委員会には、小学校教育という無限の可能性を秘めた分野で、田浦小学校の統廃合に値する結果を出していただきたいと思います。</p>
15	<p>答申が出てしまっており、決定ではありませんが重く受けとめるというご発言も他の説明会であったので、ここで意見を言って統廃合が中止になるのかというと、あまり希望が持てません。地域別協議会、審議会を通じて、やっと私たちの意見言えるのがこの地域説明会なので、流れについても不信感があります。</p>

No.	内 容
16	私の自治会エリアで空き地が目立ちます。建売住宅を売る際、小学校に何分とか何百メートルといったキャッチフレーズで売ることを考えると、ますます過疎化が進むと思います。横須賀市全体でも過疎化が進んでいると報道されていますが、田浦小学校と長浦小学校だけではなく、これが終わると、またどこかの学区でも統廃合を検討するような話が出ているので、横須賀市全体でそのようなことを進めていったら、ますます魅力がない街に横須賀市がなり、誰が住むんだということになります。統合問題は、横須賀市全体のことを考えて、出して欲しくないです。反対の意見が出ていても、教育委員会はやりたいから平行線で落としどころがありません。民主主義なので、選挙でやれば良いと思っているのでよろしくお願いします。
17	地域別協議会の委員としていろいろとお話をしてきました。田浦小学校がなくなるのは、非常に寂しいです。ただ、もし統合することが決まるのであれば、まずは子どもの安全安心、地域のあり方、跡地の利用などを整理して、しっかり統合をしていていただきたいと思います。
18	田浦小学校ができたときに、土地を寄付された方々の子孫の方や関係者の方がいらっしやると思います。今回の件について、その方への説明や理解を求めた経緯がないというのはとても残念です。筋を通すのが大事だと思います。今更ですが説明するなど、ご理解を得ることを考えた方が良いと思います。
19	安全性の確保や地域のあり方、跡地利用、子どもたちのための教育環境整備というものについて、いろいろな意見が出ておりますし、今後進めていくにつれて、まだまだ問題は出てくると思います。その中で、教育委員会と地域の方たち、保護者の方たち、学校の先生も含めての関係性が非常に大事になってくると思います。こちらも意見を言いやすい、教育委員会もしっかり耳を傾けていただいて、丁寧に、誠実に対応していただけるような関係性が、合併が決まった暁には、スムーズな施策の進め方に影響してくると思います。
20	田浦小学校に子どもを通わせているものです。小規模校が問題というように、教育委員会の方はおっしゃられていますが、少なくとも私は、生徒数が少ないことが問題だとは思っておらず、むしろ、きめの細かい教育をしていただけて、大変ありがたい環境だと思っています。また、田浦小学校は、インクルーシブ教育に力を入れており、支援級と通常級の垣根が大変低いです。また、アーティスト村との交流も盛んという稀有な環境であり、現時点でもこの環境に惹かれて、学区外から通っているお子さんが多くおられます。小規模特認校に指定しても良いのではないだろうかと思っています。
21	統合の時期として、最短で令和7年度を予定しているという記載がありました。子育て中のご家庭におかれましては、各家庭ごとに人生設計があり、田浦に住んでいたり、田浦小学校に通われていることと思います。今まで田浦で新築が建てば、子育て世帯の方が引っ越してくることが多々ありました。田浦から学校がなくなると、そのようなことは全くなくなるのではないかと危惧しています。学校から遠いからと、引っ越す家庭もあると思います。仮にどうしても統合するしかないとしたら、なるべく長く準備期間をいただきたいです。
22	統合の理由の一つとして、校舎の老朽化が挙げられていますが、横須賀市が制定している学校施設の長寿化計画によりますと、田浦小学校は鉄筋コンクリート造で耐震工事を行っていますので、校舎の目標耐用年数は80年ということになっています。古い方の校舎は築70年ということですので、理論上は残り10年寿命があるということになります。もちろん補修が必要となってくる箇所があると思いますので、適切な修繕をし、なるべく長く小学校として使用していただきたいと思います。
23	なるべく長くの準備期間をいただければ、その分多くのご家庭が柔軟に対応することが可能だと考えています。田浦の子育て中の保護者のために、田浦の地域のために、なるべく長く小学校として活用していただけますようお願い申し上げます。

No.	内 容
24	トイレの改修の話がありました。平成26年に行われたということで、まだとても綺麗な状況ですので長く使っていただきたいと思っています。
25	適正規模校というお話が先ほどありましたが、小学校の学校規模の状況を見ますと、田浦小学校は児童が6番目に少ないということなので、統合も6番目でも良いのではないかなと思うのですが、そのあたりはいかがでしょうか。
26	逸見、沢山、汐入の話がありましたが、何年か後に後半の計画が予定されているということですが、それまでに田浦と長浦を統合しなければならないというわけではないのですか。この時期が、例えば5年延びるとか、そのような可能性はあるのですか。
27	決定のやり方について、今回のこの地域の説明会というのは、方策の決定に当たって、この地域の意見を聞くということになっているのでしょうか。答申があって、教育委員会の方で最終的に決定するのではなく、決定に当たって、この地域の説明会での意見が反映されるということがあるのか、それとも形だけ行っているのか。
28	審議会の答申では編入という言葉が使われていて、先ほどの説明ですと、編入という言葉があるけれどもイメージとしては統合ですというような説明がありましたが、編入と統合というのは全く違うことだと思います。そこは大きな問題だと思います。それは、審議会の方で編入と言ったにも関わらず、教育委員会の方で統合という解釈をされているのか、審議会の方で統合という意味で答申をしているのか、どうしてここで統合という言葉が使われていないのかということをお聞きしたいです。
29	編入と統合というのは、考え方そのものが違うと思うのですが。審議会の方で、統合ですということになったのか、言葉の問題ですとおっしゃっている教育委員会側なのか、大きく違うと思います。
30	長浦小学校側なのですけれども、長浦小学校の方は編入というように考えていたので、田浦の方々が来るという形で、全く長浦小学校としては変わらないものだとはばかり思っていたのですけれども。
31	編入と統合は全く別のことだと思っていて、答申の内容に編入と書かれていて、資料の上でも編入と書かれていて、でも実質は統合ですというのは、非常に理解に苦しむ内容だと思います。
32	中学校区で協議をするというのは当然のことだと思うのですが、その中で置かれた当事者が、市全体のことが見えにくいということで、自分のところだけどうしてという気持ちになりがちになってしまうということだと思います。今のお答えからもやはり、全体としてこのような計画があるからという未来の姿が見えにくいというのは、そうなのかなと思います。
33	統合は完全に対等の立場で行わないと成功しないという話を聞いたことがあります。その場合は、一旦両方の小学校を廃止して、校章も校歌も新しいものにして、授業の学校の運営の仕方とか宿題のやり方を綿密にすり合わせてしっかり準備しないと成功しないという話を聞きました。先ほど長浦小学校の名前を残す場合もあるというような発言があったと思うのですが、そうすると、元田浦小学校の児童が長浦小学校に行くといった場合に遠慮と言いますか、長浦小学校に行くのだから長浦小学校のやり方に合わせなければいけないとか、長浦小学校の児童に合わせなければいけないとか、そのような負い目のようなものを感じてしまう場合もあると思います。

No.	内 容
34	<p>長浦小学校も田浦小学校もなくなりますよ、校舎はそのまま使うけれども別の小学校になりますよ、校歌も別々になりますよということを、よりきちんと長浦小学校の地域にご説明をいただきたい。先ほどの方のご質問のお話にもありましたけれども、長浦小学校の校区にいる保護者及びOB、あるいは、これから通う方はあんまりこだわりはないかもしれませんが、そういった方の中で、長浦小学校ではなくなるのだ、校歌も変わるのだというイメージを持っている方は、ほぼ皆無だと思います。PTAに深く関わってきて、以前から会議に関わりがある方、及び極めて親しい方に関しては、ご存知の方もいるのかもしれませんが、この会議に参加して、周りに話そうと思った、あるいはPTAの書類として、このようなことが検討されています、小学校の名前が変わるかもしれません、校歌が変わるかもしれませんということを、PTAのお便りとして出そうとしたところ、誰とは言いませんが、それは少し控えましょうというご意見をいただいたためにそういったお便りが出せなかったり、もう少し表現をやわらかくしてくれないかという圧力とまでは言いませんがそのような強いご意見があってそのようなことが出せなかったという背景も私は把握しています。もう少し、地域、田浦の方への配慮ももちろんそうですけれども、長浦小学校も長浦小学校でなくなるのであれば、長浦小学校の地域への配慮、周知、もう少しいただきたいし、長浦小学校がなくなるんです、校歌がなくなるんですということがもし決まっているのであれば、それを前提として、なくなりますよ、それで良いですかという意見の聞き方をしていただきたい。統合は決まりなのだという回答も、言葉の使い方として、いささか不親切なのではないかなと思いますので、そこについても、今後の検討会等の時にもご配慮いただけると分かりやすいのかなと思います。</p>
35	<p>今回の答申を重く受けとめて、長浦小との統廃合を進めるのであれば、先日の説明会に参加した際の反対意見の勢いや、まだ提案されている案に参加者の多くが納得できていない状況からは少し違和感を覚えざるを得ないです。メールやFAXで事務局へ意見をすることはあったと理解していますが、金曜日の田浦小学校での説明会で反対意見で時間いっぱい過ぎていったということを考えても、意見の募り方や問題点の提示の仕方に問題があったのではないかと思います。</p>
36	<p>少子化が市内全体に生じていて、レッドゾーンについては横須賀市の地形の影響というようにお伺いしていますけれども、統廃合に反対の意見が少なくない中で、生徒数や築年数で順番に走水と田浦の統廃合を進めるのではなく、市全体の問題として、同時並行で市全体として教育方策を前向きに考えるべきではないでしょうか。</p>
37	<p>統合して、生徒からアンケートを取ると、友達が増えたとか新しい先生がやさしいとか、大人に配慮したようなアンケート結果が出てくるそうなのですが、実際には学級崩壊が起きてしまった、あるいは学校に行きたくないと嫌がるようになる子が出てきたとか、そのような場合があったそうです。校長にそのような事態を訴えると、それは教師の力量不足である、生徒個人の問題、保護者に問題があるなどと、統合を原因としない傾向があるようです。それによって、学校の乱れのようなものに対して全校的な対応が遅れるというようなことがあったという話を他都市の事例で聞いたことがあります。</p>

No.	内 容
38	<p>先日の説明会、そして本日の説明会、そして審議会、協議会でさまざまな意見が出ている中で、やはり期限の問題が非常に気になっているところであります。さまざまな課題が出ている中で、本件を1月に決定をしなければいけないと。さらには最短で令和7年度からスタートできるという発言も記録に残っている中、現状、これだけの質問が皆さまから出ていて、感想でも構わないのですが、令和7年でいけると思えますか。本当にそのように感じているとなると、異常に感じるのは私だけでしょうか。かなり複雑な案件だなと思っています。常識感と言ったらきりのない話になってしまうのであまり話したくはないのですが、ここまで皆さまが危惧されているものが解決されず、さらにはそれに対しての具体的な説明がない中で、期限がいけるといのは、何を根拠にそう思われているのか。耐震性云々の話を含めて、慌てて決めるものではないと私は思いますので、ぜひ期限に関しては慎重に皆さままでご検討いただきたいと思えます。</p>
39	<p>この教育環境整備計画について、令和7年というのが前期計画の結論のような、前期後期とありましたけども、それに合わせて話をしているのではないかなというのが、やはり前回からの説明会でも感じてしまったところがあります。市議会議員もこの案件については急ぎなさいというお話もあると先ほどありましたが、もう一度確認したいのですけれども、なぜ走水と田浦がまず選ばれたのか。他の地域の学校も検討をしなければいけないようなところがあるにもかかわらず、今回田浦と走水が選ばれたのはご説明いただいたとおりなのかなと感じるのですが、それと同時に、私のただの感覚でしかないのですが、ちょうどその走水と田浦地区というのは市議会議員さんが網羅されていないエリアなのですね。ここで市議会議員さんがどうこうという話ではないと思うのですが、それはどうなんだと言える代弁者というのが、今までいなかったのかなというのも、何となく感じてしまいました。ぜひそういったところは関係なく、子どもたちの未来のために考えているということを一貫して進めていただきたいと思えます。</p>
40	<p>全国ではこのような統廃合の話が多くあると思うのですが、スモールスクールという観点の話は出なかったのでしょうか。先ほども保護者の皆さまがお話されているように、学区外からでも田浦小学校に通いたいという意見が多くありました。そういった観点から、小規模校は作らないということとなると、それは片手落ちなのではないかなと考えています。児童数と耐久性の両輪で考えなければならないという話はもう重々承知していますけれども、魅力ある学校づくり、地域づくり、まちづくりという点では、そちらの方の考え方が欠けているのではないかと考えていますので、ぜひご検討の可能性があれば考えていただきたいと思えます。</p>
41	<p>市全体でこの案件を進めていくということで、全市的に考えてという話だったのですが、これは画一的にどの学校も同じようなやり方で今後進んでいくものなのでしょうか。画一的な魅力のない学校づくりではなく、魅力のある、あの地域に住みたいというような学校づくりを心がけていただきたいと思えます。さらには具体的な質問が多く出ていますので、その質問をないがしろにせず、決議をしていただきたいと思えますので、是非ともそちらは具体的な対応をしていただきたいと思えます。よろしくお願ひします。</p>

No.	内 容
42	<p>うちの子が少し特別な支援が必要な子でして、今回の統合の件に関しまして、統合される前に正直転校させたいと考えています。学区外の方から来ているお子さんもおられるということですが、うちはそのように考えています。子どもを第一に考えて、支援が必要な子なので、統合は100%混乱が生じないということはないと思いますので、その前に転校させたいのですが、その場合、自己都合の転校扱いになってしまうのか、もしくは、支援していただけるのであれば支援していただきたいと考えているのですが、その件に関しましてはどうでしょうか。支援が必要ない子も転校したいという家庭も当然いるとは思いますが。</p>
43	<p>今まで協議会や審議会で数回にわたって議論をしてきて、その構成員としては、学校側とかPTAとか地域のそういったさまざまな人が出ていますので、それぞれの大きな問題が出てくるのは当然だと思います。地域の皆さまはかなり子どものことを心配していますので、いろんな意見が出てくると思うのですが、ベストな回答を求めることも必要なのですが、それぞれの参加者、地域、学校、PTAなどそういった人たちがいろんな意見を出し合って、ベターな結論を出して落ち着いていくということが必要ではないかと思います。準備内容をしっかり教えていただき、準備期間がどのくらいかかるのか、早く令和7年4月ということにこだわらずに地域の皆さまの意見を十分に聞いた上で今後の会議等を進めていただければと思います。</p>
44	<p>皆さまの意見が平行線をずっとたどっていくのかなという感じもしております、その中で、先ほどの方からもありましたように、100%全てを満足することは難しいかもしれないですけど、100に近づける努力は必要だと思います。令和7年4月からということにこだわらないとありましたけれど、ここの期間を定めてということは、市では後々の計画を進めていく上で重要なものなのかなというようにも感じています。そうは言っても、この田浦と走水を最初の編入統合として、進めていき、後へとつなげたいというのは分かるのですが、十分な説明、納得のいく説明というものが、全員がベクトルを同じ方向に向けて進めていくのは不可能だと思います。その辺のところは十分に議論を重ねていただいて、今後も進めていっていただきたいなと思います。今日の皆さまの意見の中でも、第7回の協議会の意見にあったものが結構多く出ていますので、やはり地域の方は同じことを、教職員含めて感じていらっしゃるなと思いますので、十分この意見に耳を傾けていただいて検討していただければと思います。</p>
45	<p>保護者として、田浦小学校の建て替えを行うのが困難であるということは理解をしましたが、レッドゾーンにかかっているのは体育館だけのように見えます。築年数が長いのも、1つの校舎だけです。他の校舎も築64年と船越小学校と6年しか変わらないです。さらに、この田浦小学校の学区を見ると、この広範囲なところに小学校がなくなるというのは、なかなか考えにくいところなのかなと。私は長浦小学校区に住んでいるところではありますけれども、田浦の人としては容認できないことであることは想像に難くないです。私も同じ立場であれば、少し考え直してくれというところだと思います。教室もまだ使える設備がありますよねというところと合わせての話ですが、すでに答申のところまで来てしまっているというところを考えるとなかなか難しいのかなとは思いますが、例えば、1年生に30分歩かせる、あるいは公共交通機関を使わせるというのは保護者として抵抗があるのであれば、学校の校舎の中でまだ耐用年数の残っているところに対応可能な児童数まで、1年生から3年生か4年生までを田浦小学校の中に残し、5、6年生なら交通機関に乗れるでしょうということで、5、6年生から長浦小学校へ動かすかどうか。学校という制度から外れて難しいかもしれませんが、そのような形であれば、まだ田浦小学校も残る地域として、小さいうちは近くにある小学校に通える、大きくなると、もう色々な問題があっても多少しょうがないのかなと考えられるというところで、最後まで通いたいよというのは絶対的な意見として強いとは思いますが、まだ妥協のできる場所なのかなというところだと思います。</p>

No.	内 容
46	船越小学校も耐用年数が遠い話ではなく、検討しなきゃいけないときに、レッドゾーンが一番、小学校の敷地に関わっているのが船越小だというように資料では見えています。であれば、船越小学校をどうするのかという問題も含めて本来今回考えるべきだったのではないのでしょうか。3校合わせてどうしていくのかということを考えるべきだったのではないかなというところがあります。
47	田浦地域の市営住宅が放置をされている地域、あるいは、耐用年数の問題で、そろそろというようなお話があったかなと思うのですが、そういったところを活用して、まだ10年、耐用年数的に田浦小学校が使えるのだということであれば、すでに使われていない市営住宅を、例えば、地理的にどれぐらいの距離にあるものなのか把握をしてないでしゃべっているの、とんちんかんなことを言っていたら大変恐縮ですけども、そこを資材置き場として活用し、田浦小学校を建て直すであとかんといったことの検討を、10年あれば十分検討できるのではないかなと思うのですけれども、そういったことは答申が出ている段階まで来ているとなかなか検討は難しいことなのではないでしょうか。
48	編入という言葉が、途中から統合という言葉に変わっていますが、編入と統合では全く違うことだと理解しています。今の説明では表現の違いであり、編入とは統合だという説明のように聞こえたので、説明をお願いします。また、統合にかかる説明の中で、二つの学校が新しい学校になるということでしたが、田浦小学校と長浦小学校が廃校となり、全く新しい学校が新設されるということで間違いはないのでしょうか。廃校になるかどうかは学校名によることなのではないでしょうか。長浦小学校は150周年記念式典を行いました。151年、152年と続いていくのか、廃校になるのかということは大きな問題だと思います。
49	統廃合によって長浦小学校が廃校になるかどうかではなく、新しい学校名をどうするかによって長浦小学校が廃校になるかどうかが変わるということですか。
50	資料に小学校の学校規模の状況一覧があります。走水小学校、逸見小学校、沢山小学校、汐入小学校、追浜小学校というように、児童数が100名を切っている学校が並んでいます。その中で、なぜ130名いる田浦小学校と長浦小学校を先にやるのでしょうか。この順番でいけば、一番から順番にやっていくのが本来ではないのでしょうか。逸見小学校は狭いところで子どもたちが運動しています。どうしてそのようなところを、より広い場所に変えてあげられないのでしょうか。そのような順番ではないですか。
51	編入ではなく統合になるということですが、統合というのは地域別協議会の中でほとんど話題になっていなかったと思います。自治会においていろいろな資料を町内に回覧をしている中で、あまり意見が出てこなかったというのが実態です。というのは、田浦小学校区が長浦小学校区に編入という言葉を見て、あまり前向きに捉えなかったのではないかと感じています。田浦地域の方はご苦労されるという思いばかりで、長浦地域としては受け入れる立場というニュアンスだったのではないかと考えています。地域別協議会で話してきた中で、両校を廃止するということは、私の頭には毛頭浮かんでいなかったです。編入がどのようにして統合ということに変わってきたのか、過程をご説明ください。また、そうした場合の長浦地域の住民感情としては、校名や校歌などいろいろな話が出てきています。地域別協議会で論議してきた中で考えると、さらに時間をかけることで相当な意見が出てくるのではないかと考えています。田浦地域の方々のご意見を直接聞く機会はありませんでしたが、12月1日、3日の田浦地域の方のご意見も参考にしたいと思っています。
52	編入と統合についてですが、答申については統合という言葉が書いていません。これでは、後からこう知らされたような感じで受け取る方が多くいらっしゃるのではないかと考えています。統合という考え方であれば、答申内容に入れるべきではなかったのでしょうか。

No.	内 容
53	<p>二つの学校を一つにすることには、いろいろな不安があり、子どもたちの教育に大きな支障が出るのではないかとことを一番に思います。今の状況でも、学校の先生の人数が非常に少なく、職員室に行っても、授業中はほとんどの先生がいないという状況です。また、感染症等で先生が休んでいるときに、教頭先生など、普段は授業に出ていない先生が授業に出ており、本当に人が足りないと感じています。このような状況で二つの学校が統合することは不安だということを以前伝えた際には、1年間先生を増やすというお話でしたが、1年間だけということも不安です。このようなことによって子どもに影響が出るのが一番不安です。</p>
54	<p>田浦小学校の建物の築年数にかかる問題は、市の定めによると耐用年数限度まであと10年程度あり、80年というのは一つの目安であり、数字上は使えていてもおかしくない数字だが、田浦小学校は建築基準法やその他法令等、市の判断の及ばない領域において、現行の土地で建て替えることは難しく、小規模校の問題についても含めて考えると、田浦小学校の場所にある小学校と長浦小学校のある場所にある小学校の二つで再編を行うしか手段はないのだと考えているということで理解をしました。</p>
55	<p>学区の編入、小学校の統合が決まったという時点で、全ての住民が知ることができるような手段で広く周知をし、十分な周知期間を持っていただきたいと思います。田浦地域にお住まいの方の感情等も考慮して7年という期間を要求したいと思います。田浦小学校の広大な範囲から小学校がなくなるということは、その地域の住民にとって非常に大きな問題であり、特にここ数年で引っ越してきた方、あるいはこれから引っ越してくることを検討している方にとっては、人生設計に大きな影響を及ぼすことだと思います。来年や再来年から最寄りの小学校まで徒歩で30分以上かかる、距離にして3キロ以上かかるようになるというのは、スクールバスや路線バスの通学補助があったとしてもそれは苦肉の策であり、安心して住むことができるということではありません。7年というのは、すでに在学中の児童及び、周知時点で就学が決定している、次年度入学の児童が卒業する年数という考えです。長浦小学校という名前がなくなって欲しくないという住民感情はあります。ただ、児童が優先であり、転校してくる田浦小学校の子を元からいる長浦小学校の子が受け入れるというのでは問題が多く起こる、ということにも理解は示します。最短で令和7年4月になくなるということを、長浦地域に住んでいる方が理解しているのでしょうか。随分前から田浦小学校がなくなって長浦小学校に来るかもしれない話はありませんでしたが、決まったわけではありませんでした。ましてや、長浦小学校という名前がなくなるかもしれないということは、住民は考えたこともないと思います。考えたこともないことは意見を言うこともできていないので、話し合うための期間として7年という期間を要求します。</p>
56	<p>船越小学校の建物もさほど長く持ちません。おそらく10年程度で今回と同様の話が出てきますが、船越小学校もレッドゾーンの点を考慮すると、そのままの土地で建て替えというのは難しいのではないかと思います。船越小学校の学区で似たような土地、小学校に適するような土地を別で用意するのは難しいのではないかとことと、船越小学校の建物の問題が出てくる頃には、田浦小学校と長浦小学校で再編される小学校もまた小規模化していることを考えると、船越小学校と、田浦小学校と長浦小学校で再編された小学校がもう一度再編するという話が出てくることは想像に難しくありません。今回再編するときに新しい名前を考えて新しい学校ができたとしても、船越小学校と統合するときにまた同じことをやるかもしれないということを考えると、船越小学校の問題も一緒に考えることで問題が起こる機会が減ると思います。そういったことも考えて、最終的にどうしたいのかということ踏まえて考えていくためにも、令和7年4月というのは余りにも拙速にすぎるのではないかと思います。</p>

No.	内 容
57	<p>児童数の推計で6年先まで人数が示されていましたが、そうすると今の小規模化は6年前に分かっていたことだと思います。6年前に、6年後に統合しますと提示していただいて、地域住民にも説明を繰り返してきてから今回があるというようなことをされなかったのは、市の責任だと思います。田浦地域の方は切実な思いを述べられていました。本当に反対されているということを感じました。編入されてくる側だと思っていたので問題意識を持っていませんでしたが、田浦地域の方はずっと反対運動をされていたんだと思いました。通われている小学3年生の方も参加されていて、クラスでアンケートとり、みんな反対です、ということを発表していました。ニュースで反対が賛成を上回っているということも出ていましたが、そういった田浦地域の方の反対の状況があったとしても、このまま2年後に強行されるおつもりですか。どの程度の反対があれば、今回の計画は先送りや中止になるのでしょうか。地域の反対の状況によっては、この計画が先送りになることもあり得るということですか。</p>
58	<p>人口減少に伴う少子化ということで、統合というはやむを得ないと思います。統合による影響が大きいのは子どもです。その子どもの意見はどのように聞いていますか。一番大事なところが抜けているように感じます。教育の中で、相手を思いやる気持ちというものを子どもが持ってくれば問題はありません。その大事なものを、親が子どもを炊きつけて壊しているかもしれません。統合せざるをえないというのであれば、もう少しステップを踏み、子どもの意見を十分聞くべきだと思います。長い時間をかけて、しっかりと意見聴取していただきたいと思います。全国の統廃合では最終決定が議会です。横須賀市の場合も議会になると思いますが、それはやめていただきたいです。地域に出ている議員がいれば良いですが、いないところがどうなるかという問題があります。議員がいるところは強いですから、このような順番でやっているのも全て議員が口を出すからです。そのようなところをきちんと整理して、住民の声を聞いた上で実施していただきたいです。</p>
59	<p>たくさんの会議を経て、このような説明会になったのだと思っています。地域別協議会は、事務局が教育委員会ということで、率直な意見が出ないという感想です。また、事務局の進め方が統合ありきの進め方だったと思います。先日の走水地域の説明会でも、反対の声が粘り強く出ておりました。昨年、横須賀市では、子どもの権利を守る条例というものが施行されました。子どもの声を聞く必要があるといった条例ですので、このような件にも生かしていただきたいと思います。これからどのように統廃合が決まり、進んでいくのかということについて、市議会に報告し、総合教育会議、教育委員会議があると思います。そういったことをもう少し説明する必要があると思います。今月号の広報よこすかに、総合教育会議の日程が令和6年1月11日とあります。市議会に報告される日や教育委員会議の日程は広報よこすかやホームページにはありません。どのような流れで、それは何日なのか、どこに記載があるので、どのように地域の皆さまへ周知していくのかということをもう少し説明してほしいと思います。地域の皆さまは反対の方がいらっしゃいますので、より丁寧に、真摯に声を聞いていただきたいと思います。</p>
60	<p>市議会の環境教育常任委員会で報告した際の様子はどうだったのでしょうか。報告について質問があったのか、特に反対はなく市議会ではこの件は終わりになるのか、そのようなことを市民は知りたいと思う。</p>
61	<p>12月6日に議会へ報告されたということは、今日（12月7日）の地域説明会の意見は伝えられません。形だけの開催だったということですか。</p>

No.	内 容
62	保護者として、ここへ来て初めて長浦小学校が廃校になるという言葉が出てきたので、反対意見がこれから出てくるのではないかと思います。どのようにして反対運動をしようかと考えたときに、どのタイミングまでなら反対意見を伝えられるのでしょうか。署名活動を行った際には何月何日まで提出すれば間に合いますか。決定した後に提出して、それが覆ることもあるのでしょうか。
63	子どもの声を聞くというのもタイミングを見てとおっしゃっていましたが、今のスケジュールからすると、どのタイミングで子どもの声を聞くのでしょうか。日程的には、どの程度の期間を考えているのでしょうか。
64	決定事項であり、このままスケジュール的に進めていくということだと思います。これから反対運動をしても署名活動をしても、影響はないということでしょうか。どれだけ地域住民が反対をしてもこのまま強行するというのであれば、地域の方に統合させてくださいとお願いしたらどうでしょうか。どうして私たちが統合を先送りしてくださいとお願いしなければならないのでしょうか。
65	長浦小学校にとっては、廃校になるかならないかというところで反対意見は大きく変わると思います。統廃合が決まってから学校名が決まり、それによって長浦小学校が廃校になるかどうかが決まるということになるので、なかなか反対運動の取り組み方も難しいと思っています。
66	長浦小学校が廃校になるというのは誰が決めたことですか。
67	教育委員会が子どもに問いかけることは難しいと言わんばかりのことなので、我々が子どもに問いかけて、その結果を報告しようと思いますが、いかがでしょう。
68	長浦小学校だけ、田浦小学校だけではなく、全ての横須賀市の小学生の満足度アンケートをとって、大きな学校の子が満足していて小さな学校の子たちが不安を覚えているのかどうかということを探ることは可能だと思います。保護者アンケートも学校に対してどう思っているかというのを受けたことがあります。小規模校の保護者はみんな困っていて大きな学校の保護者が困っていないということになっているのでしょうか。小さい学校はかわいそうだということに聞こえますが、もう少し調べられると思います。
69	小規模はメリットがあるので、今すぐに統合しなくても、他の地域から人口が増えるような政策をとっていただくこともできると思います。いろいろなことが急すぎて納得いかないと思います。
70	保護者が独自にアンケートをとることは、教育委員会としてはやぶさかではないというので、長浦小学校としては、児童にアンケートをとりたいと思い、PTAにも伝えようと思います。ぜひ田浦地域でも何かしらの形で、そういったお話を伝えていただき、田浦小学校の児童がどのような思いでいるのか伝えていただければと思います。
71	子どもの声は聞かずに方策を決定するということがよろしいですか。

(2) 通学や通学路について

No.	内 容
1	田浦小学校が廃止されて、田浦町の児童が長浦小学校へ通学する場合の通学路を実際に歩いてみました。田浦1丁目から長浦小学校まで20分程度かかりました。児童は子どもで、重い荷物を持って歩く場合もありますので、さらに時間がかかると思います。田浦6丁目からの場合は33分程度かかりました。長浦小学校の位置は、田浦と長浦の中心ではなくかなり偏っているので、田浦から通学する場合は、田浦町の児童が徒歩通学をするとかなりの負担を強いられます。スクールバス、路線バスの補助という案がありますが、どちらも問題が多く、実現が難しいと思います。そうすると、結局徒歩通学になると思います。子どもたちにとっては負担が大きく、これは非常に重要な問題だと思いますが、これから考えるという答申になっており、後回しになっています。これは、順序が逆ではないかと思います。かなり重要な問題なので、しっかり考えていただきたいと思います。
2	スクールバスについては、運転手の確保やバスの台数の確保等、非常に難しいと思います。また、他の地域で40分以上徒歩通学をしている児童がいる場合、そのような地域から、そちらにも導入してくれという意見が出る場合があると思います。路線バスについても、同じように通学時間が長い児童がいる他の地域から、不公平だというような批判が出るのではないかと思います。
3	スクールバスに関して、谷戸の深いところまでカバーできるでしょうか。泉町のように高さのある場所は、スクールバスどころか普通の自動車ですら入っていくのが難しいと思います。
4	子どもを持つ世代として、通学距離が増えることによって、金銭面で負担を感じる世帯も増えると思います。ぜひそこはしっかりと捉えていただきたいと思いますし、同時に、安全面は第一優先だと思います。計画ありきで進んでいるのではなくて、まず安全面が確保されてから、この話があったべきだと思います。
5	小学生といって1年生と6年生では体力的に違います。1年生が40分から50分も徒歩で通学することはかなり負担です。
6	京急バスの小児定期券は、全ての区間、小学生以下が購入可能であり、1か月の料金が2,440円です。これを補助していただけるかどうかという問題ですが、市議会では拒否されると思います。各家庭で負担するというのが現実的に予想される事態だと思います。
7	安全面を考えればトンネル一つで済む船越小学校の方が良いと思います。田浦小学校にいられるのが一番良いとは思いますが、子どもの通学のことを考えると、船越小学校に通わせた方が安全ではないか、負担がないのではないかと考える保護者は多いと思います。
8	今回の統廃合のことについて、子どもたちの通学が大変だということ、トンネルを三つも越えていかなければならないという話で、大変だという認識を持ちました。
9	方策の決定が、年明けになるということで、最短の統合の時期として令和7年の4月というのと、あと1年と3ヶ月しかないということです。安全な通学が第一だということで、二つの案を考えてらっしゃるということです。市の予算の都合や市議会での決定事項もあると思いますが、現在考えていらっしゃる通学支援の決定スケジュールについて伺いたいと思います。

No.	内 容
10	<p>長浦小学校と統合ということになりますと、適正な通学距離である2キロメートルを超える遠距離通学であり、トンネルなどの課題があるため、通学に関する何らかの対応が必要というのはもっともなことと思います。路線バスの補助という話があるようですが、特に低学年の児童については、路線バスの乗り降りに不安がつきまとうこと、乗り過ごした際や予期せぬ事態が起きたときに、どのように対応すべきか、児童だけでは判断が難しいことを鑑みると、スクールバスでの通学が児童や保護者にとって最も安心できる通学手段となることと思います。ぜひ、全学年の行き帰りのスクールバスの運行をお願いします。また、統合するのであれば、児童や保護者のために、通学に関する対応策を明確にした上で、統合を決定していただけるようお願い申し上げます。</p>
11	<p>田浦小学校側から、スクールバスというか、交通手段に関して、かなり前に同じ地域の施設から送迎バスの貸し出しが可能であるという提案書をそちらにお出ししていると思うのですが、そちらはどのように協議されているのでしょうか。</p>
12	<p>長浦小学校に通うようになると、30分ぐらい通う時間が長くなるということは、子どもたちは30分早く家を出なくちゃいけない、30分早く起きなくちゃいけないということになります。そのようなことを考えると、1年生や2年生の小さい子どもたちを30分早く起こしてというのは大変なことだと思います。</p>

(3) 学校規模について

No.	内 容
1	<p>過小規模校、小規模校、適正規模校、大規模校、過大規模校というように、五つに分類されており、12学級から24学級が適正であるとしています。クラス替えということが強調されているようですが、あまりクラス替えに大きなメリットを感じません。ずっと同じクラスでも十分教育効果はあげられると思います。適正規模校という考え方が古い考え方ではないかと思います。小規模校には小規模校のメリットがあります。体育祭や文化祭において、大人数でやった方が効果がある場合は、そのときだけ長浦小学校と合同で行うということも考えられると思います。</p>
2	<p>家の一番近くの学校が通常通う学校になると思いますが、指定変更はそういった状況での変更の制度だと思います。今回、市が諮問をして、田浦小学校を統合するということになった場合には、近くの学校がなくなってしまいます。そうなった際、船越小学校はトンネルが一つしかなくて距離が近いというのは、十分にそちらの学校へ行きたいという理由になると思います。</p> <p>そういった方々が増えると、長浦小学校の児童数が減っていきます。また、田浦には小学校があるから引越してくるという人がいましたが、そういった若い人も減っていきます。そうすると、田浦小学校の児童数はさらに減っていき、例えば資料にある令和11年度は93人という数がありますが、これが半減、三分の一になったとします。そうすると、長浦小学校も小規模になりますが、今やろうとしていることと同じことを長浦小学校で考えるのでしょうか。統合することによって全体の人数が減ってしまうということもあると思います。</p>
3	<p>少子化について全国同様なのであれば、田浦は田浦の特徴を生かせれば良いだけだと存じます。小規模教育が問題である前提で話が進んでいましたが、私はかねてから、低学年から高学年まで顔の見える小規模教育に魅力を感じ、田浦小学校に就学させました。</p>
4	<p>少人数制より効率化を重視する田浦小学校と長浦小学校の統廃合は、時代の流れに逆行しているように感じます。多くの場面で合理的な見直しが必要な中、個性を伸ばす教育の現場だけは、効率化に疑問符を打つ場であるべきではないでしょうか。大好きな地元を貴重な小学生時代に作ることで、大人になったときの心の豊かさに繋がると思います。大勢との交流はこの時代、学校以外でも十分行うことができます。</p>
5	<p>適正校という枠組みについては、少子化が進んでる中で、この12クラスから24クラスにこだわらず、教育委員会の方針を変えなければならないのではないかと思います。小規模クラスで運営する方向に変えた方が楽なんではないでしょうか。横須賀市内の小学校を見ていると、小規模の予備軍がたくさんあります。すでに11クラスのところあります。何回も統廃合を繰り返すという話になると、ますます小学校区が遠くなります。学区が広がって子どもの負担も増えます。少し根本的に考えてほしいという思いがあります。</p>
6	<p>小規模校には魅力を感じて学区外から通わせていただいている親として、日々田浦小の先生方にはさまざまな工夫をしていただいて大変感謝しています。</p>
7	<p>先生方には本当にお世話になっていきますので、このままの教育を受けたいというのが一番の希望です。</p>

No.	内 容
8	<p>クラスが多いメリットもあると思いますが、田浦小学校も長浦小学校も、今は1クラスでも非常に良い雰囲気だと思います。たくさんの児童がいる方が良い面もあると思いますが、関わってきた先生からは、長浦小学校はすごく良い雰囲気だという声を聞いています。おそらく田浦小学校もそのような感じだと思います。また、クラスに居づらい子について、学年が変わったときにクラス替えで解消するという考え方もありますが、それで解決するというのは安易だと思います。子ども同士のトラブルは学年が変わる際にクラス替えをすることによって、解消する手段もあるとのことですが、例えばいじめに遭っている子がいた場合にはターゲットが変わるだけでまた別の子がいじめられる、というような問題があります。子どもが増えると先生の人数が増えるという話ですが、クラスが増えるので担任の先生の数は当然増えると思います。それとは別に、担任の先生が体調不良等になってお休みされた時に、級外の先生や教頭先生が授業をしていると思いますが、そういった担任を持っていない先生の割合はどのようになるのでしょうか。長浦小学校の場合、6クラスしかありませんが、先生がお休みのときには数が足りないという声を聞いているので、これはクラスが増えて担任の先生自体が増えた時にどうなるのか心配です。先生が休みにくい状況は、先生にとっても非常に良くないと思いますし、先生にとって働きやすい学校であることが子どもの教育に繋がると思います。</p>

(4) 跡地利用について

No.	内 容
1	前広にご検討いただきたいと思います。小学校は地域と密着しており、特に田浦地区においては避難場所や公園が少ないという中で、地域活動の拠点になっています。先ほどお話がありましたが、統合が決定した場合の跡地については、地域の意見も十分酌み取っていただき、検討をしていただきたいと思います。
2	老朽化で道が狭いから工事ができないので田浦小学校は直せませんというお話でしたけれど、跡地を利用する際にどのようなことにするかについても、工事は必ず必要になってくると思います。そのときに、道路が狭いから工事ができません、跡地も利用できませんということになってしまうと、単なる廃墟になってしまいます。そのようなこともよく考えて検討していただきたいという意見を申し上げたいと思います。

(5) 地域や環境について

No.	内 容
1	戦後、旧軍港市転換法という法律が、横須賀市民80パーセントの賛成を得て制定されました。軍の施設を民間にしていく方針です。田浦中学校の場所には栄光学園があり、6丁目には関東自動車があり、田浦地域にはいろいろな産業がありました。それが自衛隊と米軍に接收されてしまい、産業がなくなり、若い人が少なくなってきました。それを容認してきたのは横須賀市だと思います。一番良い場所に、米軍基地があります。横須賀市の民間産業が逆に衰退しており、旧軍港市転換法を制定したときの趣旨とは全く違うものになっています。
2	レッドゾーンについて、70年程度この地域に住んでいて、学校周辺の崖が崩れたという話は聞いたことがありません。レッドゾーンの決め方というのは、どういったものなのか疑問に思います。
3	100年以上の歴史があり、お寺の場所に小学校があったという、このような伝統的な小学校を潰してしまうと、この町の衰退がより進むのではないかと思いますので、是非とも再検討をお願いしたいと思います。
4	この体育館は70年近く経っているのに、一度も崖が崩れてきていません。レッドゾーンとはどのような基準なのでしょう。レッドゾーンというからには70年もあれば何度か崩れていると思います。
5	走水・馬堀地域でも話が出たと思いますが、今後この町には、子育て世代は住まないと思います。私たちは、子どもの話、未来の話をしています。この町に住む若者はおのずと減っていくと思いますし、そうすると学校教育だけではなく、まちづくりの問題にも大きく影響を与えると思います。そういった観点で、まちづくりや地域、自治会を管轄している部署の方のご意見も含めて検討を進めているのでしょうか。
6	レッドゾーンについては、横須賀市の地形の影響ということですが、では多くの住宅について引越が必要かといえばそうではないと思います。
7	小学校がなくなるということで、この地域に対していろいろな影響があると思います。保育園があり、幼稚園があり、そして学童保育があります。また、地域の商店街だったり、それぞれの町内会であったり、いろいろなところに、いろいろな影響が出ると思います。その地域に対する影響は、ある程度お考えでしょうか。小学校がなくなるということに対して、この地域に住みたいと思う人間が減ることや、すでにもう高齢化している田浦の街をこれからどうしていけば良いのかみんなが悩んでいるところで、いろんな影響が出てくるということになります。
8	田浦地域は市営住宅が多くあった地域でありました。1つは今アーティスト村ということに変容していて、もう1つは6丁目に新しく個人の高齢者の方たちが住まわれている市営住宅になっています。もう1つは老朽化ということで閉鎖されたのですが、その後どうなっているか、どうにもならない状況で放置されているのが現状だと思います。もし、田浦小学校が廃校となったとき、跡地の問題についてはまた別の問題だということで置き去りにされているような案件になっていますけれども、その後どのようにしていくのか。さらには、災害避難所となっている場所でもありますので、そのことの検討についてはどこまで進んでいるのかをお聞かせいただきたい。

No.	内 容
9	地域の皆さまとお話をさせていただく機会があったのですが、決定しなければ分からないことが多く、みんな疑念を抱いているところでもあります。できればこういった説明会に関して見れば、教育委員会の皆さまだけでなく、関係部署の皆さまの意見もお伺いしたかったというのが率直な意見です。ぜひ検討する際は、教育の観点から、まちづくりの観点から、防災の観点から、さまざまな検討を図っていただきたいなと思います。もちろん学校は子どもたちの教育の場というのが最大の目的、目標ではありますが、地域の真ん中である学校ということをもう少し考えていただいて、この町はこの後どうなっていくのだろうかということを考えていただければなと思います。
10	たまたまなのか分かりませんが、買い物困難者がいる高齢者が多く、高齢者に手助けをしてくれる方が少ない地域というのは、学校がない地域です。そうすると、市営住宅がそのままになっているような、さらには学校がなくなって、新たな定住者がいらっしやらないような地域には、おそらくそういった課題も出てくると思います。全市的に考えていかなければならないということもお話がありましたし、さらには、これからモデルケースにもなり得るという観点で本案件を進めているという話も前回伺ったのですが、そういったまちづくりの観点が欠けているなとも感じています。これは教育委員会の皆さまにお話することではないかもしれませんが、この学校の廃校という観点では同時期に進めていかなければならないものだと思いますので、ぜひそちらの意見もお伺いしたいと思います。
11	田浦小学校を長浦小学校に統合することについて反対という立場でお話をさせていただきます。子どもが少なくなって、生産年齢人口が減ってくるというのは当たり前のことで、横須賀市に限ったことではないとお考えなのかどうか。あまりにも生産人口が減るのが多すぎるのではないかと、横須賀市の方でもうちょっと流出を減らすことを何とか考えていくということもしていただきたいと思います。
12	レッドゾーンがありますというお話ですが、あそこは避難場所になっているわけですから、学校の敷地云々よりも前に、レッドゾーンというのはきちんと整備していただければ、我々も避難するといっても怖くて避難できないと思います。大きな地震があった時にそこが崩れてしまったら避難場所にならないわけですから、何よりも早くそのレッドゾーンというのをきちんと整備していただきたいと思います。
13	広大な田浦小学校区の中に小学校がなくなるということの重大さを、多分皆さまも感じていただいていると思うのですが、お住まいの住民の間には、かなり切実な思い、有り得ないという気持ち、気持ちではないのかなとすら思うような内容でございますので、重々配慮をいただきたいと思います。
14	学校統合を賛成する立場です。この地域説明会は教育委員会事務局の主催ということですが、田浦小学校が100年、長浦小学校が150年ということで、学校の歴史は学校教育とは別に、長い歴史がある地域の拠り所といった部分があると思います。自分が通っていた頃、隣の逸見小学校区の吉倉からも同級生が来ておりました。火災のときに、ここから田浦小学校まで歩いて通いました。そのようなことを考えて、地域の学校が持つポテンシャルのようなものは別の角度で、理解が得られるように考えていただきたいと思います。

No.	内 容
15	<p>統廃合するというやり方もあるかと思いますが、横須賀市内の中で、とても児童数の偏りがあると思います。便利なところに住みたい人が多いので、便利な地域の人口が増えると思います。例えば、空き家問題等とも絡めて、お子さんをお持ちの、これから家族が増えるような家庭を優遇するような施策をしていただくなど、人口が増えるような別のアプローチから、児童数の減少について取り組んでいただきたいと思います。また、商店が少ないので、出店しやすいような優遇政策を出していただくなど、横須賀市内での人口の偏りを解消できると良いと思います。非常に多くの空き家があるので、新しい人たちが入ってこれるようなことをしていただくと、とてもありがたいと思います。人が少ないところは統合していこうということですが、そのような場所は過疎化していくと思います。若い世代が入ってこなくなってしまうと人口が減ってしまうので、そうなる则別の問題が出てくると思います。郵便局なども減っていますが、そのようなやり方がいろいろなところで起こってくると、より偏りが強くなるのではないかと思います、別の視点からアプローチしていただきたいと思いました。</p>

3 メール、FAX等での意見

(1) 方策の検討について

No.	内 容
1	<p>学校の統廃合が児童数だけで決められるのであるなら、小規模校の統合はやむを得ないかもしれない。しかし、ますます少子化の進む中では、いつでも、どこでも児童数の減少は起こりうることで、その都度、統廃合を続けていかなければならなくなる。1学級の人数を減らすことも考えられている中で、少人数は本当に良くないのか。行政効率が良くないことはわかるが、教育は将来に向けての先行投資である。</p> <p>そこで、教育面から小規模校の存在意義を十分検証し、存続させる方策はないものか、その可能性や条件について議論されることを期待したい。</p> <p>なお協議会ニュースや会議録では統合後の校舎の利用方法や通学方法が協議されており（これも大事なことである）、すでに統廃合が決まったかのような印象を強く受けています。</p>
2	協議会ニュースを回覧で見ると統廃合のメリットばかりが強調されているように感じます。
3	子育てと仕事の両立ができると思ってこの場所に家を建てましたが、教育環境整備計画の存在を知り、とても不安な気持ちになっています。
4	土砂災害警戒地域や人口減少については以前から分かっていたことですし、最初から分かっていたら田浦に家は建てていません。5年という期間はあまりに乱暴だと感じましたし、毎晩不安で眠れない日々を過ごしています。
5	これまで、様々な観点から協議してこられた中間報告として各協議会ごとに統廃合のメリット、デメリット、課題について整理されていると思うので公表してもらいたい。
6	田浦6丁目や港が丘1丁目から長浦小学校までは遠すぎると思います。小学校 1年生の児童が重いランドセルを背負ってトンネルを通ったり山を上り下りしたりすることを考えただけでも涙が出てきます。せめて、田浦4、5、6丁目と港が丘1丁目は船越小学校と長浦小学校を選べるようにしてほしいです。
7	船越小学校に行けるよう教育委員会にお願いしたが、前例がないとの事で却下されました。境目に住んでいて指定校よりも近くに学校がある場合は、どちらか選べるようにしていただきたいです。
8	今仕事をしなくても船越小学校を選べるなら、すぐにでも仕事を辞めて妊活を始めたいですし、学区の事でこんなに悩んでいる人もいることを知ってほしいです。
9	住む地域によっては、長浦小学校あるいは船越小学校が近いこともあると思いますので、田浦地区全体を長浦小学校に編入するのではなく、どちらか選択制にしてはいかがでしょうか。
10	子どもを田浦小学校に通わせることを前提に、この地に家を建てた方が他にもいると聞いています。会議に参加しているメンバーだけで全てを決められては困りますので、今後、我々のような一住民の思いや意見を行政の方（特に市長）に直接生で聞いていただける場を設定していただくことは難しいでしょうか。
11	建て替えにはいくつかの問題点があり、それが難しいそうです。それならば、リフォームでの対応はいかがでしょうか。今後、生徒数の大きな伸びは期待できないので、現在の校舎の小規模化と補強工事や設備の交換など、リフォームで対応できないでしょうか。

No.	内 容
12	田浦小学校の脇には急傾斜地があるために、校庭の確保が難しいそうです（レッドゾーン・イエローゾーン）。それならば、田浦泉町の旧市営住宅跡を運動場として利用するのはどうでしょうか。都市部には十分な校庭を確保できず、学校外に運動場を用意した学校があるそうです。それ以外にも、市の既存の施設を利用して、体育の授業を行うこともできるのではないのでしょうか。
13	田浦小学校を廃止して、田浦学区と長浦学区を統合しようという案があるそうです。これには問題が多いと思います。田浦町と長浦町はいくつかの尾根で隔てられており、田浦の中心部（3丁目付近）から長浦の中心部（京急安針塚駅付近）まで、国道16号線沿いに3つのトンネルを通過しなければなりません。1つの学区にするには、地形的に適しておりません。これは、地図や想像でのみ考えていると実感することが難しいと思います。リーダーの方々は、是非現地を視察されることを望みます。
14	田浦小学校存続には大きな問題があるのは分かりました。しかし、いろいろ知恵を絞れば、存続の道が見つかるはずですよ。リーダーの方々には、存続の方向で、ご努力をして頂くことを希望します。
15	既存の学校に統合するのは楽かもしれませんが、子どもの事を本気で考えるのであれば、2校の中間地点に新規に校舎を建設するのが良いのではないのでしょうか。そもそも、日本の小中学校は一度建てたらそれっきり（建て増しや微々たる改築のゴマカシ）ばかりで、本気で子どものためを考えているように見えません。前世紀の遺物のような校舎で、未だに学習しなければならない子どもたちが不憫でなりません。伊勢神宮の式年遷宮ではありませんが、20年毎に新しい校舎に建て替え、学習環境を刷新していくのが良いのではないのでしょうか。市内の経済振興にも役立ち、一石二鳥だと思います。また、建て替えは、学校以外にも市役所や行政センターも対象とすべきです。今のザルのようなセキュリティの施設をいつまで続けるのでしょうか？横浜市のようにセキュリティを真剣に考えた施設こそが市民の事を本気で考えた施設だと思います。（お陰で市民団体様からは、批判的のようですが、これは喜ぶべきことですよ）
16	現在、田浦小学区の小学生数の減少は止まっている。しかし、田浦小学校区を長浦小学校区へ編入すると、田浦地区の小学生数の減少が再発することが予想される。令和5年5月現在、田浦小学校130（16）名、長浦小学校140（5）名（カッコ内は支援学級の生徒数）なので、両校を合併すると、単純計算で270名規模の小学校ができる。しかし、田浦地区で、通学に不便を感じて他地域に転出する世帯が発生し、または、他地域からの転入する世帯が減り、生徒数減少に拍車がかかる。数年後に216名規模に減少することが予想される。通学問題への適切な対応がなされないと、この減少幅はさらに拡大する可能性がある。
17	田浦小学校の廃止の大きな原因は、校舎の老朽化に伴う建て替えが、急傾斜地や周辺の道路への高さ制限のために難しいことである。しかし、今後田浦地区の小学生の大きな増加が起こる可能性は低いので、1学年1学級、全校で6学級あれば足りる。そうすると、校舎は平屋または二階建てで済む。そうすれば、急傾斜地問題や隣接道路に対する高さ制限をクリアできる。また、田浦1丁目には、市営住宅の跡地があり、そこへ小学校の新築も検討の余地がある。
18	田浦小学校を存続させることが、地域にとって、または横須賀市全体にとっても望ましい。田浦町は横須賀市の中で北部に位置し、横浜や東京に近く、この地域の活性化は横須賀市にとって重要だ。田浦小学校廃止は、その趣旨に反する施策だと思う。どうか検討をお願いしたい。
19	田浦小学校の生徒数減少は、現在下げ止まっている。しかし、田浦小学校の廃止により、田浦町において、これから子育てをする世帯の流出が起こり、また、子育てする世代の流入が減り、生徒数の減少が再発する。田浦小学校と長浦小学校を統合すると、田浦町の生徒数減少の影響で、長浦小学校の生徒数減少が起こることが予想される。

No.	内 容
20	現在、田浦小学校の生徒数は130名で、今後、大きく増える可能性は低い。したがって、1学年1学級、全校6学級で足りる。そうであれば、新築校舎は平屋または2階建てで十分足りる。そうすれば、北側隣地や道路による高さ制限をクリアすることができるのではないかと。校舎の新築は可能であると思う。
21	田浦町1丁目に市営住宅の跡地がある。そこに小学校を新築し、移転することが可能だと思う。もちろん、建築費用はかさむと思うが、それは将来の投資として、決して無駄にはならないと思う。
22	今回の答申は、教育学者によって行われ、小学校側の立場・視点から審議されたと思う。地理特性や、地域の文化活動や、地域の人口動態に対する視点が不十分だと思う。地域にとって、小学校の存在は、単に該当生徒と保護者の問題だけではないことを考慮して欲しい。教育学者のみならず、社会学者・経済学者などの意見を聴き、それらを参考とすべきだと思う。また、答申では、通学の安全と遠距離通学の問題点を指摘しておきながら、その具体的方策を示していない。それも考慮して答申すべきだった。
23	小学校校舎の建て替えは多額の予算が必要だが、それは投資である。将来必ず地域住民や横須賀市全体に恩恵をもたらす。決して無駄な支出ではない。
24	田浦小学校存続と廃止の両案を多方面から考えると、存続の方が妥当であると思います。存続のためには、校舎の建て替えまたは移転が必要であります。それには多くの予算が必要であるが、それは投資であって、決して無駄にはならないと思います。市教育委員会においては、熟慮の上、最善の施策を決定して欲しいと思います。
25	<p>12月1日説明会の感想です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会全体の雰囲気としては、参加者は田浦小学校の廃止には反対で、この説明会で廃止に納得できたというものではなかった。これでは住民への説明責任を果たせたとはいえない。再度の説明会の開催が必要だと思う。 ・今まで協議会を7回開催し、十分協議を尽くし、その内容は公表してきたので、それを閲覧してくれれば済むという発想は、今回の説明会参加者には通用しないと思う。多くの人は情報弱者であり、協議会の協議が自分の知らない間に行われていたという印象を持ったと思う ・35ページに及ぶ資料を短時間で読み合わせただけ（読み飛ばした部分が多かった）では、事前に情報（資料）を見ていない人や、検討していない人にとっては、即座に内容を把握し、質問をまとめるのは難しかったと思います。資料を持ち帰って、精読し、質問を練りたいと思った人もいたと思います。 ・資料の説明が不十分だった。資料は短時間でざっと読み合わせただけで、ポイントとなる所での詳しい説明や、その都度の質問の受付がなかったので、ポイントがぼやけた感じになり、一方的な感じを受けた。 <p>(No.26へ続く)</p>

No.	内 容
26	<p>(No.25からの続き)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・司会者は、田浦小学校の廃止、田浦学区の生徒が長浦小学校へ編入されて通学することをもっと強調すべきだった。まだ正式決定ではないが、ほぼ覆ることはない、実際の動向を明言すべきだった。 ・通学方法（生徒単独の徒歩・各家庭の自家用車による送迎・路線バスの自己負担での使用など）を各家庭の任意にするのか、それともスクールバスにするのか、路線バスの運賃補助（全額なのか、一部なのか）にするのかの教育委員会の方針が示されるべきだった。もちろん、予算が了承されなければならないが、それを前提とした方針だけでも示すべきだった。 ・長浦小学校か船越小学校か、自由に選べると誤解していた参加者がいたが、答弁があいまいで、申請すれば可能であると誤解されたかもしれない。公立小学校は原則教育委員会が策定した学区の小学校へ行かなければならないという事実を明言すべきだった。 ・教育効果による学校の統合には説得力がなかった。校舎の老朽化と建て替え不可、今後の生徒数減少予想、隣町に同様な問題を抱えた小学校が存在すること、コストとパフォーマンスのバランスから、統合が最善であるという結論に至ったと明言すべきだった。それによって反対意見を引き出し、それに付いて反論すればよかったと思う。
27	<p>昨日長浦地区の説明会に参加いたしました保護者です。説明を聞くまで長浦小学校は受け入れる側で、長浦小学校は名前も変わらないと思っていました。田浦小学校の（一部を除く）学区を長浦小学校学区に編入し、長浦小学校と田浦小学校の両校を統合により廃校にすると聞いて、びっくりいたしました。説明会の案内文にもその様な事は記載されていなく、説明会参加しないとわからなかった事になります。子供にとっても、保護者地域の方、卒業生含め、すごく大事な事が、参加しないとわからないという事は間違っていないと、ずるいやり方だと思います。先日長浦小学校で150周年記念式にて、各学年で長浦小学校の歴史他を一生懸命考えて発表したばかりです。長浦小学校は、昔から小規模校です。子供を通わせる前はやや不安がありましたが、他学年同士仲が良くとても良い学校だと思っています。今では、学年にかかわらず生徒同士仲が良く、各生徒、先生の顔が覚えられる長浦小学校に通わせて、各学年1クラスで良かったと思っています。昔から小規模なので、小規模学校の教育は不十分と言われることには疑問になります。子供の事を思うならこんなに短期間での決定ではなく、子供も保護者も入学した学校名で卒業したいし、覚えた校歌も6年間歌いたいと思います。問題点の田浦小学校の老朽化はコンクリートの耐久年数的にあと10年は使用可能と言われていましたので、あと6年から7年間で具体的に計画、通学整備を行ってから統合するのが望ましいと思います。緊急性があるなら別として、なぜ2年の短時間で実行するのかわかりません。</p> <p>※問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田浦小学校 建物の老朽化（基準によると10年使用可能）、小規模化 ・長浦小学校 小規模化（以前から変わらない） <p>以上の事ふまえてもなぜ2年なのわかりません。説明会に出席者のみに説明を行い2年後に実施予定する教育整備は、思いやりにかかる計画だと思いました。</p>

No.	内 容
28	<p>田浦地域教育環境整備についての説明会に参加して訴えたいこと 説明会参加日：令和5年12月7日（木）</p> <p>1）長浦小学校区の保護者・地域住民の参加人数が少なかったのは何故か。協議会ニュースを9回にわたり回覧したが、当初から田浦小学校区を長浦小学校区に編入すると承知していたことに起因していると思われる。自治会の役員会、会報で意見を求めてもまったく出て来なかった。田浦小学校の生徒が長浦小学校に通うようになるぐらいの認識だったと思う。</p> <p>2）「田浦小学校区を長浦小学校区に編入する方策」は協議会で審議の過程で編入の具体的な仕方は「統合」であり両校を廃校とし、まったく新しい学校として校名、校歌を選定することとなると表明して欲しかった。そうであれば長浦小学校区の住民の取り組み方も違ったものとなったと思う。</p> <p>3）校名、校歌を決める場合は現在の協議会構成員に加え学校運営協議会委員、長浦小学校生のすべての自治会町内会代表者、PTA代表者で絞り込んだ後に同様に田浦が絞り込んだ（案）を田浦・長浦が合同で決めてはどうか。 (No.29へ続く)</p>
29	<p>(No.28からの続き)</p> <p>4）地域説明会開催通知について 通常、横須賀市で主催する会議・イベントの通知については地域コミュニティ支援課、担当の部・課より自治会長に通知があるが今回の地域への説明会のような大事な案件は通知すべきであった。情報が届かない地域もあり学校運営協議会委員は怒り心頭であった。行政区の違う安針台・吉倉町も柔軟に対応すべきである。</p> <p>5）田浦小学校と長浦小学校が統合されるまでに決定して欲しい課題 田浦小学校の跡地利用は田浦町のコミュニティ事業の最重点事項 田浦小跡地をコミュニティセンターを設置し、震災時避難所指定・運動場整備</p> <p>6）長浦小学校は本年6月で創立150周年により去る11月18日に記念式典を在校生・保護者・教職員・各種地域住民対象で学校で開催され祝賀会も場所を移し開催された。江戸時代末期に寺子屋から産声を上げた伝統を簡単に消し去ることに懸念を感じる。田浦民生児童委員会長の意見を考慮してほしい。</p>
30	<p>田浦小学校の校舎の老朽化、レットゾーンの問題点、児童の減少、教員の育成等で田浦小学校と長浦小学校の統合が論議されています。当自治会エリアでは、空き地が目立つようになりました。不動産業者が建売住宅を販売するときに小学校まで〇〇メートル、徒歩〇〇分といったキャッチフレーズの技法を使い販売をするケースが見受けられます。住宅を買う人は、ほとんどが子育て世代と判断します。小学校が遠くなるとそれだけで、購入することを控え、小学校が遠いということだけで転居する世帯もあり得ます。教育委員会は、田浦の町をこれ以上に過疎化にしたいのかといたくなります。若い世代が生活しにくいエリアになれば、ますます、高齢化が進み、自治会役員を担う人材がいなくなります。将来的に自治会組織の運営ができなくなるという懸念が残ります。よって、自治会組織の継承・発展のためにも田浦小学校と長浦小学校の統合（案）の白紙撤回することを要求します。</p>

(2) 通学や通学路について

No.	内 容
1	通学路が最大3kmとなり、子どもの脚力で毎日往復2時間も通学させるのは酷ですし、近年の酷暑から命の危険も考えられます。親として子どもに徒歩で通学させることはさせたくありませんし、反対します。
2	田浦駅発着のスクールバスあるいは公共バスを利用するのであれば、その分の交通費を市に補助していただきたいです。
3	田浦町の生徒が長浦小学校へ通う場合、最長3kmの距離があります。大人の脚で40分ぐらいかかります。長浦小学校は丘の上にあり、最後に上り坂があるので、45分ぐらい見れば良いでしょう。これを子供が重い教材を背負って歩くと、高学年で55分ぐらい、低学年だと1時間ぐらいかかると思います。これを1日2回、毎日歩かなければなりません。特に低学年(6, 7歳の子ども)には、かなりの負担になると思います。
4	国道沿いのトンネルは、幅が狭く、一般人や自転車の通行が多いです。そこを生徒が通るのは事故の危険が大きいと思います。また、トンネルは薄暗く、そこを毎日子供が通るとなれば、犯罪者を誘発する恐れがあります。
5	田浦町と長浦町は隣町だが、「谷戸」と呼ばれる尾根で隔てられている。トンネルを通過しなければ行き来できない。平野部で言えば、飛び地のようなものだ。田浦6丁目から長浦小学校までは、3つのトンネルを通過し、2.5kmの道のりを歩かなければならない。重い荷物を持って小学1年生(7歳)の子どもが歩けば、1時間ぐらいかかるだろう。スクールバス、または公共バスの運賃補助が必須である。しかし、これらには多くの問題があり、実現することは難しい。
6	田浦小学校が閉校したら、小学校1・2年生がうす暗いトンネルを幾つも通って通学することになる。歩道も狭い。自分も実際歩いてみたが、25分以上かかる。安全性や子どもの気持ちなどに十分配慮して、今後進めてほしい。
7	田浦町と長浦町は隣接した町だが、尾根で隔てられており、トンネルを通過しなければ通行できない。両町は、平野部であれば、飛び地のような位置関係となる。統合するには適さない位置関係である。具体的には、田浦小学校と長浦小学校は3つの尾根で隔てられており、3つのトンネルを通過しなければたどり着けない。生徒のみならず、保護者の交流にも障害が大きい。
8	もし、田浦小学校を廃止し、田浦町の生徒が長浦小学校へ通学すると、田浦1丁目以外の生徒は、長浦小学校まで3つのトンネルを通過しなければならない。田浦6丁目からだと、2.4kmの距離がある。健脚の大人でも35分ほどかかる。これが、重い荷物を背負った小学生が行くとなると、45~55分ぐらいかかると思う。まして、低学年(6~8歳)の子供だと、1時間を超える可能性もある。通学の危険性と生徒の体力の問題があると思う。

No.	内 容
9	<p>遠距離通学の対策として、公的交通機関の運賃補助と、スクールバスの運用が考えられる。それぞれの対策の問題点を考えてみた。</p> <p>公的交通機関の運賃補助は、具体的には、京急バスの池の谷戸、田浦郵便局、田浦駅の各バス停から、田ノ浦バス停までの定期券を支給する。(参考)小児定期券(小学生以下の生徒が購入可能。すべての区間で同一料金。2023年9月1日時点)(1か月2,440円、3か月6,950円、6か月13,180円)。問題点は、田浦町全域の生徒に定期券を配布するのか。全学年の生徒に配布するのか。紛失した場合はどうするか。長浦町や他の地域の生徒・保護者の理解を得られるのか。</p> <p>スクールバスの運用は、田浦町の生徒をスクールバスで送迎する。</p> <p>問題点は、有料とするのか、無料とするのか。田浦町全地域の生徒を対象とするのか。全学年を対象とするのか。もし、全域・全学年を対象とすると、現在130名であるが、その生徒を送迎するのに何台のバスが必要なのか。往復それぞれ1回ずつにするのか。駐車場や運転手の確保ができるか。学年クラスによる終了時間の差をどうするのか。学校の授業にイレギュラーが出た場合、それに対応できるのか。緊急の場合、生徒の帰宅にどう対応するのか。長浦町や他の地域の生徒・保護者の理解を得られるか。乗り遅れた生徒への対応はどうか。</p>
10	<p>通学補助を行わない場合の問題点は、家計の負担。私が保護者なら、田浦3丁目から長浦小へ我が子を通学させるとしたら、バス通学をさせます。そのために、小児定期券(小学生以下購入可能)を購入する。おそらく、6か月の定期券を購入する。13,180円なので、1か月当たり2,197円の出費になる。これが6年続く。高学年になっても、安全面を考慮すると、バス通学が必要だと思う。家計の大きな負担となる。バスの混雑については、田浦から田ノ浦を通るバス路線は、普段から割と混み合う路線だ。それに小学生の通学が重なると、乗り切れない一般乗客や通学生徒が出てくると思う。これをどうするか。また、道路状況によって、遅刻が出る可能性がある。徒歩通学の問題点は、徒歩通学を行う場合、体調が悪いときは通学が困難である。熱があるとか、痛みがあるといった体調不良はもちろん、だるいとか、気分がすぐれないといった軽症でも、通学をあきらめなければならない。通学後、学校内で体調不良になった場合、徒歩帰宅は難しい。</p>
11	<p>田浦町3丁目から長浦小学校まで歩いてみました。田浦町から長浦小学校へは次の2つのルートがあります。A:安針塚駅経由(トンネルを3つ経由) B:吉倉町経由(トンネルを4つ経由)。長浦小学校近くに坂があるので、往路は上り坂、復路は下り坂になります。Bルート復路(自宅玄関~長浦小学校校門)。Bルート復路(下り坂) 23分56秒。私は64歳の男性です。何も荷物を持たないで、速度を緩めたり、立ち止まったりすることなく歩きました。校門までの時間なので、教室まで行くには、あと数分かかります。国道近くではなく、国道からもっと離れた地域(2, 3丁目の奥、田浦泉町、田浦大作町)や4, 5, 6丁目、港ヶ丘はさらに時間がかかります。それらの時間は今後実測して報告します。</p> <p>感想:やはり長浦小学校までの道のりは長いですね。半分以上がトンネルです。トンネルは車道と歩道が完全に分離されているので、自動車との事故の可能性は低いと思います。その代わり、道幅が狭いので、一般の歩行者や自転車とのトラブルが予想されます。邪魔者扱いされたり、接触事故が起きたりすることが予想されます。道を急ぐ大人に罵倒されるということはないと言い切れません。この道を、荷物を持った生徒が毎日歩くと考えると、かわいそうだと思います。朝の往路はまだいいのですが、帰りの復路は、往路や授業の疲れがあるので、大変だろうなと思いました。例えば、片道40分かかる生徒がいた場合、往復1時間20分の通学時間が必要です。往復20分の生徒と比べて1日あたり1時間のハンデを負うことになります。習い事や学習塾に通う時にも不利です。</p>

No.	内 容
12	<p>田浦町各地点から、長浦小学校正門まで実際に歩いてみました。私の歩く速さは分速80mぐらいです。速度を落としたり、立ち止まったりすることなく歩きました。生徒は、道路事情や交通事情で速度を落としたり、停止したりすることがあると思います。また、荷物を持ち、体力的に大人より劣ると思います。よって、私より時間がかかると思い、私が実際にかかった時間に1.3をかけております。さらに、雨天時は傘をさして歩くために、より時間がかかると思います。私が歩いた時刻は、人通りが少なく、スムーズに歩けましたが、通学時間は、人通りが多く、すれ違いややり過ぎのためのロスタイムも加わると思います。1回歩くのも大変ですが、これを週5回往復し、それを年がら年中続けるとなると、生徒も大変だなあと思いました。でも、逆に強い人間が育てられるかもしれません。欧米では、生徒に長時間の徒歩通学を強いるのは、避けるようです。行政は田浦小学校廃止の方向で動いているようですが、もう一度検討して頂くようにお願いします。小学校の廃止によって、子育て世帯が、他地域への転出を考え、他地域からの転入することをためらうことが予想されます。一度廃止してしまうと、もう後戻りできません。慎重な判断をお願いします。</p> <p>長浦小学校正門までの徒歩推定時間（実測時間）</p> <p>田浦町1丁目50番地より26分14秒（20分11秒）</p> <p>田浦町2丁目45番地より35分52秒（27分36秒）</p> <p>田浦町3丁目17番地より31分30秒（24分14秒）</p> <p>田浦町3丁目45番地より35分43秒（27分29秒）</p> <p>田浦泉町103より44分21秒（34分7秒）</p> <p>田浦大作町138-7より44分36秒（34分19秒）</p> <p>田浦町5丁目47番地より40分55秒（31分29秒）</p> <p>田浦町6丁目33番地より43分1秒（33分6秒）</p>
13	<p>田浦小学校に通う子の保護者です。田浦小学校が廃校になった際、現在の在校生に近隣の長浦小学校若しくは船越小学校へ転入希望を聞かずに教育委員会側で転入する小学校を決定するのは何故でしょうか。具体的に、田浦小学校に通うほとんど児童が船越小学校に通う方が通学距離も短く、安全に登校できるのは明白です。当たり前ではありますが、廃校にするのも教育委員会側の都合であり児童、保護者には何ら責任はありません。せめて、田浦小学校の児童、保護者に廃校後、通う小学校の希望調査を行うべきです。今後の教育委員会の真摯な対応に期待します。</p>

(3) 地域について

No.	内 容
1	今回の計画で一番ダメージを受けるのは、我々のような「これから田浦小に子どもを通わせるつもりでいる」方々ですので、ぜひ我々の声を生で聴いていただく機会を設定してください。
2	新入生は、5年前に大きく減りましたが、それ以降は20人前後で推移しています。田浦小学校の新入生の減少は止まったと思われます。しかし、小学校の廃止が決定されると、小学生年齢の子どもを持つ家庭のみならず、これからその年齢になる子供を持つ家庭も、他地域への転出を考えると思います。また、小学校が無い町という風評によって、他地域からの転入がなくなってしまう恐れがあります。小学校の廃止が、人口減少を加速させるという結果を招く恐れがあります。私の家の近所にアパートがあって、そこには1歳のお子さんを持つご夫婦と、4歳と3歳のお子さんを持つご夫婦がいらっしゃいます。もし、田浦小学校の廃止を知ったら、小学校がある街への引っ越しを考えるのではないのでしょうか。学校は、居住地を決める重要な要素です。
3	田浦郵便局、田浦警察署、JR田浦駅、京急田浦駅など、多くの公共施設に「田浦」が付いているように、田浦町はこの近辺では中核的な町である。そのような町の小学校を廃止するのは適切ではない。
4	高校の統廃合は、生徒数増加に対応して一時的に増設した高校を整理したものである。これに対して、小学校の廃止は、もともとあったものを廃止するので、地域に与えるダメージが大きい。小学校は、地域の教育の象徴となっている。130名規模の小学校は存続させる方が、メリットが大きい。
5	小学校は、単に地域の小学生の教育機関にとどまらず、地域の教育の象徴となり、小学生教育以外の活動にも利用される。それを廃止することは、「小学校が無い町」として、地域の文化レベル低下につながる。

第2 走水・馬堀地域

1 走水・馬堀地域小中学校教育環境整備検討協議会での意見等の概要

(1) 走水・馬堀地域小中学校教育環境整備検討協議会の開催状況

内容	開催年月日	審議事項等
第1回 協議会	令和4年5月30日	対象校の現状・課題について 方策案の検討について
第2回 協議会	令和4年7月19日	対象校の現状・課題について 方策案の検討について
第3回 協議会	令和4年10月14日	対象校の現状・課題について 方策案の検討について
第4回 協議会	令和5年1月23日	対象校の現状・課題について 方策案の検討について
第5回 協議会	令和5年3月17日	対象校の現状・課題について 方策案の検討について
第6回 協議会	令和5年5月25日	意見のとりまとめ
第7回 協議会	令和5年11月9日	答申内容の説明

(2) 走水・馬堀地域小中学校教育環境整備検討協議会（第1回～第6回）において検討された方策案

方策案1	走水小学校区を馬堀小学校区に編入する。
趣旨	<p>走水小学校と馬堀小学校の小規模化が進んでおり、特に走水小学校は全校児童数が32人と市内で最も規模が小さい小学校となっています。今後も本市において人口減少・少子化が見込まれる中で、隣接する地域の小学校においても小規模化が進んでいることから、通学区域の変更や小規模校同士の統廃合のみでは、将来にわたって本質的な教育環境の改善が難しい状況となっています。</p> <p>本案は、通学距離や中学校区との関係を考慮し、走水小学校を馬堀小学校へ編入するというものです。</p>
懸案	<p>編入後の通学については、距離だけではなく、人通りや防犯、越波、内水氾濫などの課題があるため、児童が安心安全に通学でき、帰宅困難にならないように入念に対応策を講じる必要があります。走水小学校の学区では、今後、若い子育て世帯の入居が見込まれる集合住宅が馬堀小学校から最も遠い位置に存在するため、将来的に多くの若年層に経済的負担を強いる学区の設定になります。</p>

方策案2	走水小学校区を現状のまま存続し、定住促進策を講じる。
趣旨	<p>走水地域は、自然、歴史、文化など子どもを育てるには良い環境であり、走水小学校は、それらを基盤にした魅力的な教材が身近なところに揃っている全国的にも他に類を見ない貴重な教育施設の一つといえます。走水小学校は、このような地域教材を十二分に活用した教育を工夫しながら数多く導入実践しており、横須賀市の特色ある小学校教育の拠点として極めて重要です。委員からは、走水小学校は、横須賀市内の教育施設として存続すべき宝であるとの意見も出されております。走水小学校は、地域住民との関わり、つながりが歴史的にも深く、スポーツや地域活動、避難所など地域の拠点となっていることから、教育の面だけではなく地域の面からも考える必要があります。方策案2は、この観点から走水小学校をこのまま存続し、若年層世代の移住と定住の促進策を講じるというものです。</p>
懸案	<p>本案では、事務局から示された「教育環境整備計画においては、小中学校の適正規模を12～24学級としており、小規模化の課題への対応策が必要です。」に対応できないといえます。</p>

方策案3	小規模特別認定校として走水小学校を存続する。
趣 旨	<p>走水地域は、自然、歴史、文化など子どもを育てるには良い環境であり、走水小学校は、それらを基盤にした魅力的な教材が身近なところに揃っている全国的にも他に類を見ない貴重な教育施設の一つといえます。走水小学校は、このような地域教材を十二分に活用した教育を工夫しながら数多く導入実践しており、横須賀市の特色ある小学校教育の拠点として極めて重要です。委員からは、走水小学校は、横須賀市内の教育施設として存続すべき宝であるとの意見も出されております。走水小学校は、地域住民との関わり、つながりが歴史的にも深く、スポーツや地域活動、避難所など地域の拠点となっていることから、教育の面だけではなく地域の面からも考える必要があります。</p> <p>方策案3は、方策案2を講じるとともに、小規模特別認定校制度を活用するというものです。不登校の子どもや小規模を希望する子どももいることから、小規模特別認定校制度を利用し、走水小学校の教育環境等を有効に活用しながら本小学校区を存続します。この案は、教育環境整備として他都市でもいくつか実績のある有効な方策の一つです。</p>
懸 案	<p>本案では、事務局から示された「教育環境整備計画においては、小中学校の適正規模を12～24学級としており、小規模化の課題への対応策が必要です。」に対応できないといえます。</p>

(3) 方策案ごとの意見

ア 方策案1 走水小学校区を馬堀小学校区に編入する。

(ア) 方策の検討について

No.	内 容
1	走水小学校の統合により、走水地域の衰退につながると思います。
2	走水小学校の長い歴史を踏まえると、他の小学校との統合は受け入れがたいです。
3	走水地域は小学校と地域が一体となって支えられているので、検討に当たっては、教育の面だけではなく地域の面からも考えていただきたいです。
4	馬堀小学校も小規模化が進んでいるので、仮に走水小学校と統合したとしても、学校の規模はそれほど大きくなりません。
5	教育環境整備に関する検討協議会では、現在のように小学校統廃合の是非を中心に議論するのではなく、各地域の小規模校が有する教育資源、教育環境をお互いに共有しながら利活用するような方策を検討すべきです。例えば、スポーツや合唱、意見交換など、大人数でのグループ活動が適している教育、少人数で実施した方がよい教育、多くの児童に経験させるべき体験型教育など、適材適所で柔軟に対応できるような教育の仕組み、システムを開発すべきです。本地域は、市内小学校間の連携教育に関する試みを行いやすく、魅力的な教材が数多く揃っているため、そのモデルケースとしての教育環境の整備を検討してはいかがでしょうか。
6	審議会では学校の適正配置を検討する場であって、地域の発展と過疎化問題について議論する場ではないことは分かっていますが、ただ児童数が少なくなったから統合するという点を延々と続けるということではなく、今まで築いてきた地域のアイデンティティと伝統等をどのように守るかという点で、何か答えを出してもらえないかと感じています。
7	走水の環境で学校に通ってほしいという気持ちがある一方で、今のように少ない人数で良いとは全く思っていませんし、クラス替えができる規模まではいかなくても、できるだけ多くの友達と過ごす学校生活を過ごしてほしいというのは、皆も同じ気持ちだと思います。
8	教育に適した児童数は、学級の担任教師が全員の心情、人間関係までを含めて目が行き届くぐらいが適当といえます。
9	今後の小学校施設の活用を考えたときに、走水地域に住む、あるいは今後住みたいという方には、当然共稼ぎの世帯が多いと思いますので、小学校で放課後も預かっていただければ、生活プランを立てやすいと思います。
10	過去の話ですのでどうしようもないことですが、もし、5年前からこうした放課後児童クラブのようなものがあれば、走水小学校の児童数は今よりももう少し多かったのではないかと考えています。

No.	内 容
11	教育環境の整備には多大な費用がかかると思いますし、やはりお金が一番なのかと思いました。同時に、市の財政も厳しい状況であるとも感じました。今後も少子化が進んでいくという認識だと思えますが、そうであれば、今後、小規模校でなければできない地域が出てくる可能性もありますので、それを前提とした制度に方針転換することがあっても良いと思います。当然、学校生活でのさまざまなふれあいもあると思いますが、これからの時代に、例えばオンラインを活用したり、近隣の学校との交流の時間を設けたりすることで、学校の教育を少しずつ変えられれば良いと思いました。
12	走水・馬堀地域以外でもこうした話し合いを進めていると思いますが、何年か経てばまた別の地域で統合に関する話が出る可能性もあります。こうしたことを考えたときに、現在は支援策を行っていないからということではなく、全市的な視点でどのような対応が必要かを考えれば、特定の方たちだけに利益あるいは不利益を被るといった事態の解消につながると思いますので、ぜひ検討していただきたいと思います。
13	走水の県営団地の建て直しもありますし、今すぐにできるものではないとしても、若い世代に来てもらうなど他にも考えることはあるのではないかと思います。
14	現在の走水小学校が馬堀小学校に統廃合された場合、走水小学校の学区の最も遠い位置にある県営団地や防衛大学校官舎の児童とその家族に対して大きな経済的負担や労力を強いることとなります。本案は、国策として示されている少子高齢化対策にも反する可能性があるといえます。
15	子どもをどのように教育し、育てていくかが優先されるべきだと思います。もちろん地域のことも大切なことは十分承知していますし、その上で、小学校6年間で子どもたちがどのような思いをし、学習をしていくかなどを見据えた上で中学・高校へとつなげていくかを重視していく必要があると思います。少人数では活躍の場が得られる児童も、大人数の中では存在感が無くなり埋もれてしまうこともあります。クラスの入れ替わりが頻繁に行われることで、新しい交流や苦手な相手から距離を置く機会が増えるというメリットもありますが、希薄な人間関係しか形成できない、という見方もあります。少人数で長い時間を共に過ごしながらか、お互いの良い点と悪い点を知り、理解し合いながら付き合っていくことも、社会に出るまでに学ぶべき大切なことです。
16	仮に学校を統合する場合でも、いきなり統合と決めるのではなく、小規模特認校制度などをいろいろ試行した上で、最終的に住民が納得するような形で行った方が受け入れやすいと思います。
17	本検討で統廃合に伴う通学距離の延長を許容するならば、馬堀小学校の学区から特色のある魅力的な環境教材が整った走水小学校に通学していただくというプラン（選択肢）もあり得るのではないかと思います。
18	12から24学級を適正規模とすることは腑に落ちません。
19	地域に存在する学校を統廃合するという方策のみではなく、走水小学校、馬堀小学校、望洋小学校の近隣三校を姉妹校として連携させて、それぞれの特長を活かしてより魅力的な教育を展開していく共存共栄の道を議論するべきだと思います。
20	走水に来てまだ日が経っていませんが、小さくて良い学校で、子どもが卒業した学校は残してほしい気持ちですが、現状を鑑みると個人的な願望では難しいと思います。少子化は全国的な問題であると思います。先行して合併している小中学校で、起きている問題や成功事例のデータを集めて、このような場で生かしていけたら良いと思います。

No.	内 容
21	<p>先日、走水小学校で教育環境整備計画に関するアンケートを取りました。無記名方式で、教育環境整備計画を知っているかどうか、本計画を読んだかどうか、そして統廃合についての意見の3点について質問しました。まず、37世帯のうち31世帯から回答を頂きました。その中、28世帯が本計画を「知っている」と回答があり、さらに「読んだ」と回答したのが24世帯で、「読んでいない」と回答したのが7世帯でした。次に統廃合については、肯定的な意見が7世帯、否定的な意見が13世帯であり、残りの11世帯は分からないという回答でした。回答内容については、少子化で仕方がないとする意見、統合により友達が増えることを歓迎する意見、そして、財政負担を理由に統合はやむを得ないとする意見がありました。一方で、走水小学校は少人数で一人一人に目が行き届いており、学年を超えて子どもたちの仲が良い点が特徴です。また、走水地域を生かした行事教育が行われており、小学校を統合した場合は、走水地域の衰退につながるという意見がありました。小学校が地域と一体となって地域を支えている実態があるので、教育の面だけでなく地域の面からももう少し考えていただきたいと思います。</p>
22	<p>すでに統合した学校でのアンケート調査結果によると、賑やかで楽しい雰囲気になったという児童達からの回答とは裏腹に、特に教職員から教育環境が悪化し、負担が増大したとの回答が多く出されていることが委員から指摘されました。小規模学級での教育効果は、学術的な研究成果や調査結果が国内外で数多く報告されていることが委員から示されており、文部科学省でも「少人数教育の実現」について検討が進められていることは周知されているとおりです。各調査報告書には、横須賀市内小学校の統合後のアンケート調査結果（教職員の回答）を裏付ける結果も存在します。少人数教育への取り組みについて、本市は、他の先駆的な自治体に比べて検討が進んでいないことから、小規模化の課題への対応策そのものについて再検討を要する時期にあるのではないかと考えられます。すなわち、教育環境整備として、現在、市が推し進めようとしている小規模校の整理統合を中心とした対策が有効かどうかを慎重かつ柔軟な姿勢で見極める必要があります。</p>

(イ) 通学や通学路について

No.	内 容
1	保護者は、統合後、低学年が通学できるか、スクールバスなのか、路線バスなのか、通学補助は出るのかなどを心配しています。
2	通学区域が変わることで、通学距離が遠くなるのが心配です。
3	走水地域から馬堀小学校まで実際に歩いてみると、途中で坂があったり、雨や強風など天候に左右されたりすれば、時間は更にかかるので、通学距離だけでは分からない部分もあると感じました。
4	走水小学校の通学路の一部が海に面しているため、風が強いときなど、長時間にわたって子どもを歩いて通わせることに不安を感じます。
5	走水地域の保護者のアンケートの中で、賛成か反対かを問わず、通学距離及び通学の安全面を心配する意見が多かったです。
6	走水地域における通学距離の3 kmは、通常の3 kmとは事情が異なります。
7	走水地域には信号のない横断歩道がありますので、安全対策の検討が必要だと思えます。
8	バス代を出して遠方の学校（私立小学校、学童保育施設を有する学校等）へ通わせている家庭は、それを分かった上で住んでいると思います。子どもの教育を考える際、本統廃合によって新たに生じる交通費程度は、自己負担すると言われてしまうと何とも言えません。
9	今の環境を変えるようにと言われて、交通費は自己負担ですと言われるのは違うのではないかと思います。
10	走水地域の実情において通学面で難しさがあるのは十分理解していますので、その点は市で考慮していただき、子どもたちが安全に通える形にしていきたいと思えます。
11	通学で家と学校を行き来する時間は、子どもたちがお互いにコミュニケーションをとれる点でとても大事な時間だと思いますし、これがバス通学になることで、バスの中で静かにしなければならなくなると思いますし、結果として子どもたちのコミュニケーションが奪われてしまうとかわいそうだと思います。
12	放課後に馬堀地域の友達と遊ぼうとしても、低学年の子どもにとっては通学距離の面で厳しいと思いますし、自分も仕事をしているので子どもの送迎もできないため、結果として我慢させることになるのはどうかと思います。また、習い事をしているところでは、学校が終わった後にかなり急いで準備して行く形になるので、宿題をする時間がなくなる状況にならないか不安に思えます。
13	走水から馬堀にかけての国道が海から近く、トンネルも非常に狭いという現状がありますし、加えて、地元住民、観光客のどちらなのか分かりませんが、ゴミもかなり捨てられており、歩いていて気持ちの良いものではありません。そうした部分でさまざまな問題があると思えます。
14	バスが減便となったことで、バスに乗り遅れたことで遅刻となるのが心配ですし、そうなった場合の対応として徒歩という手段はまず無理だと思います。
15	仮にスクールバスを出す場合でも、車内に子どもが残っていないかどうかも含めて学校側でしっかり把握してくれるのかという心配もあります。

No.	内 容
16	走水小学校まで歩いて通えていたところ、仮に統合によって走水小学校がなくなった場合、その通学費用が自己負担となってしまうと、その住民の方にとっては負担になります。現状、通学費の補助や無料化はありませんが、その点については考えていただきたいと思います。
17	バスについては、市として京浜急行に交渉し、バスの増便をお願いしてもらえたらと個人的に思っていたところです。
18	学年によって下校時間が異なるところがあるので、それも踏まえて全てスクールバスで対応するのか、それが難しい場合は路線バスの方が使い勝手が良いという話になると思います。
19	路線バスによる下校で懸念される点は、信号付き横断歩道と歩道橋が少ない点だと思いますし、下りのバス停から家に帰るのに道路を渡らないといけないのがやはり心配です。
20	市内全体の最長通学距離が4 kmということで、例えば、学校の統廃合ないし別の問題によって通学距離が3.5～4 kmを超える場合、費用はかかりますが、スクールバスないし通学に対し一定の補助をするという基準を全市的に適用する方法も考えられると思います。
21	通学の安全も配慮が必要ですが、やはり通学距離の点で不公平感が出ないようにするのであれば、通学距離が3 kmの場合、こうした通学支援を申請すれば可能であるとか、あるいは基準の距離を超えた人数が何人であればスクールバスの運用もあり得るといった基準を設定してもらうのも良いと思います。
22	走水地域での人数規模を考えたときに、幼稚園バスよりもワンボックスカーのようなもので良いと思います。また、路線バスとスクールバスの併用も考えられると思います。
23	小学校低学年の児童に幼稚園バスと一緒に乗ってもらうことも考えられるのではないかと思います。
24	仮にスクールバスを出す計画が実現した場合、走水地域における乗車場所については、中通りの神社の下辺り、観音崎ホテル側の中通りの入口辺り、そして走水上町で言えば、中通りが切れて国道16号へ曲がる辺りの3か所が有力候補だと思います。
25	バス代を徴収するのかどうかにもよりますが、仮に徴収する場合、馬堀小学校と馬堀中学校までは行く方向が一緒ですので、バスを出す際に中学生も乗せることができれば、コスト面でも安く済ませられるのではないかと思いますし、ぜひご検討いただければと思います。
26	国有地を売却し集合住宅が建つ場合において、地域に小学校がない場合は物件が売れなくなり、地域住民を増やす機会が失われますし、市や地域に入ってくるはずだった利益が損なわれてしまうことがあります。国有地の跡利用の状況を見てから小学校の統廃合について整理する形の方が良いと個人的には思います。
27	馬堀小学校周辺の海岸側一体は、洪水（小規模な内水氾濫※横須賀市ハザードマップあり）が数年に一度発生しているため、児童が帰宅困難になり、保護者による引き取りもできなくなる可能性があります。実際に、防衛大学校から馬堀海岸経由で帰宅できなくなったことが何度もあります。

(ウ) 学校規模について

No.	内 容
1	馬堀小学校も児童数が減少しており、これまでの活動ができるか心配です。教職員の努力や工夫だけでは難しいこともあると感じており、児童の学習面、集団活動等において活性化した授業を行うには、ある程度の人数が必要であると思います。生活面においても価値観や人間関係が固定化してしまうことが心配です。
2	人数の多い小学校に通うのを辛く感じ、小規模校のような環境を必要としている子どももいることを認識してほしいです。
3	走水小学校に通う子どもたちは、小規模校ならではのデメリットを感じているとは限らないと思います。
4	世界保健機関（WHO）が、小学校は100人以下が望ましいとする記事があったり、学校や学級が小規模であれば、教育効果が高まることを実証した報告もあったりするので、学校にはある程度の規模が必要だとする市の考えと食い違っているように思います。
5	文部科学省をはじめとする国内外の機関などでも少人数教育の有効性が研究論文や調査報告書の形で数多く示されています。
6	一定程度の児童数がいれば、児童同士でさまざまな考え方に触れることで、コミュニケーション能力の向上が期待できると思います。
7	児童数が増えると、個々の心情や考えに対して、周りの者や教師が丁寧に対応できなくなることもあります。大人数で力を発揮する子と、そうでない子がいることを考慮する必要があります。

(エ) 跡地利用について

No.	内 容
1	仮に統合によって走水小学校を使用しなくなった場合、廃校舎をリニューアルして宿泊施設にする取り組みができないか。現在、走水小学校ではワカメの種付けとホタルの里など特徴のある活動をたくさん行っていますので、市だけでなく全国から臨海学校のような形で宿泊者を受け入れることで、自然体験プログラムなどを実施できればとても良いのではないかというご意見がありました。
2	最新版のハザードマップでは、走水小学校が震災時の避難所として指定されています。跡利用ということではありませんが、現時点でそのような運用になっていますので、震災時の資材の倉庫や乾パンなどを残していただきたいと思います。
3	学校施設としての建物については、震災時の地域の避難所としてそのまま残していただきたいと思います。
4	施設が残されたとしても、それを管理して活用していくことは難しく、小学校跡地が有効に活用された事例は多くないといえます。
5	避難所で実際に人が泊まる機会がありますので、その場合、もちろん体育館がいつまで使えるかというところもありますが、簡易ベッド等の物品が使える点検や施設装備の点検などの方法でノウハウを築いていくこともありではないか。
6	統合後に走水小学校を売却した場合の懸念ですが、現在、走水小学校を利用しているスポーツ少年団が複数あると思いますし、私が知る限りでは野球、空手、剣道があると思います。統合によって走水小学校が使えなくなれば他の場所に移るわけですが、さまざまなスポーツ少年団の間での場所取り調整が大変ですし、団体自体の存続にも影響する可能性があります。子どもの人数が少なくなっていく中で、子どもの活動場所としてのスポーツ少年団の存在はとても意義のある団体だと思えますので、こうした観点からも踏まえて検討していただければと思います。
7	もし走水小学校を避難所として残すとして、今後校舎が老朽化したことで取り壊すこととなった場合、走水地域の住民はどこに避難したらよろしいですか。

(オ) 地域や環境について

No.	内 容
1	走水は、子どもを育てるにはよい環境です。走水小学校には、他の小学校にないものがあります。プールが無いために海で泳いだり、海の幸集会やサツマイモを育てて食べたり、ホテルの里の整備や稲作なども行っています。地域との関わりが減ってしまう不安もあります。
2	馬堀小学校は、地域づくり協議会有り、地域の方々が集まり、草刈りや見守りパトロールなどを行っています。馬堀は温かい方が多く、高齢の方も参加しています。
3	馬堀小学校区と走水小学校区に関して言えば、例えば走水海岸でのキャンプであったり、遠足の目的地となっている観音崎公園であったりと、通学区域は異なるものの、走水は身近な地域だと考えています。もし走水小学校と馬堀小学校が統合ということになれば、その学区の中に教育的資産及び地域教材があるという自慢が増えるという点で、本当に嬉しいことだと感じています。
4	2月には学校側で給食の献立を考える自校献立というものがありますが、ここで走水のかめを使って地産地消することを通じ、学習の一環へと変えていくような学校です。
5	自衛隊官舎や防衛大学の土地の件については、もっと前から市でも把握していたと思いますが、協議会を始める前にそれが分かった時点で、市の方でどのようにすればその土地を市で購入したり、新しく人を迎えたりすることができるかの話をしてほしかったです。
6	国有地の問題に関しては、2棟の防衛大学の旧官舎、南谷戸に位置する3棟の自衛隊の官舎、その他1か所の合計3か所について、管轄とされる関東財務局と横須賀事務所に対しての署名活動をやってほしいとの意見が出ました。これらの面積は、狭い地域の中でかなりの割合を占める土地ですので、早めに民間に払い下げるよう市で働きかけることをしてもらい、新しく子育て世代に入っていただければ良いのかなと思います。
7	馬堀小学校が、もし走水小学校を取り込んだとして、そこから5キロ6キロあるようなところにある観音崎一帯の教育環境をうまく活かすことはできません。走水の地域住民と長年にわたって築き上げてきた協力関係や教育環境、施設などを身近なところで、地域の協力を得ながら最大限活かせるのは、現在の走水小学校だけといえます。

イ 方策案2 走水小学校区を現状のまま存続し、定住促進策を講じる。

(ア) 方策の検討について

No.	内 容
1	上の子どもと同じ小学校に通わせたいと思っている方が多いです。1クラス10人程度から、中学校では1クラス40人程度となり心配ですが、子どもはすぐに慣れると思います。
2	本協議会の意見が審議会において、反映されるようにお願いします。
3	走水は人を呼び込める環境が整っています。市として、若い世代を増やすなどの対策を行ったほうが良いと思います。
4	3kmの通学距離に、急な坂道があるようなところでは、居住地として走水以外を選ぶケースが増え、走水地域が廃れていくリスクがあります。
5	京急バスに関しては、浦賀から観音崎を経由して走水に抜けるという形での経路をループ状にする改正をお願いできれば、人的な交流の拡大及び観光地としての活性化につながるのではないかと思います。
6	走水小学校には海と山といった、教育的に資するものがある中で、それをなくしてしまえば戻ることはありませんし、とてももったいないことだと思います。
7	横須賀市では、今後、どの小学校も小規模化していくことが統計学的にも予想されることから、複数の教育施設を整理統合して学区を広げていくという、風船を破裂するまで膨張させるような方策（現状でも馬堀小学校の学区はかなり広いとの指摘もあり）は、近い将来、地域と連携した教育が立ち行かなくなり、破綻することが予想されます。近隣した小学校間での連携教育を促進させ、各校それぞれの特色特長を活かしつつ、相乗的に教育効果を高めていく、既存の小学校を共存共栄させていくような方策が将来的には有効であり、必要性が高いといえます。そのような前向きな検討を早期に進めることが必要との意見が委員から出されております。世界的には、少人数教育を中心とした学校教育が主流となっており、学力レベルに関しても日本国は遅れをとりつつあります。全国的に小規模化が進んでいる中で、横須賀市でも小規模校ならではの良さを生かした教育の在り方、進め方に関する検討を行っていくことが望ましいといえます。

(イ) 地域や環境について

No.	内 容
1	走水小学校の教材の豊かさに感動しています。漁業、海の幸、歴史、神話、走水神社、水源地、美術館、観音崎公園、ホタルの里もあります。地域の皆さまと一緒にこの学習材を再発見していくことにワクワクしています。
2	他の地域では、地域住民が中心にホタルの里を作り上げた、という施設もあるようですが、走水地域に関しては、走水小学校があったからホタルの里ができた、という点を強く主張したいと思います。
3	基地政策課によると、来年度の入札リストに防衛大学の旧官舎と海上自衛隊の官舎部分が入るといいう情報を得ました。こうした動きがあるところなので、地域としては今後の成り行きを注視したいと考えています。また、このことについて市にもお声がけを行い、今後の経緯について追うようお願いしています。また、今後それらの土地にどのような建物が建つのか分かりませんが、ぜひ新規入居者、特に子育て世代に入っていただき、小学校の児童数が増加してくれたらという希望を持っています。現在少人数でも将来にわたってそうだとは言いきれないと思います。学童数などを基準に統廃合を検討するのではなく、教育環境施設をどこに設置するのが良いのか、それらをどう活かしていくのかを軸に教育環境整備は議論すべきです。
4	歩いて通える距離に小学校がなくなると、走水に住むのをやめるという家庭も出ると思いますし、実際にこの地域別協議会にて走水小学校の件が話題になっていますので、将来的に走水小学校がなくなるのであれば、今のうちから馬堀小学校に変更するという家庭も3～4世帯はいると思います。

(ウ) 学校規模について

No.	内 容
1	少人数での教育もメリットはたくさんあるので、走水小学校を市内全体ないし県外にアピールする場があっても良いと思いました。
2	新しい教育指導要領のもとでは、子どもたちが主体的になって意見を出し合いながら解決していく学び方になっていますので、少人数の学級では、このような学び方が難しくなります。
3	少人数の学校では、児童それぞれが何かしらの役回りを担当し、人前で発言する機会が与えられます。最初は、うまく発言できない生徒も、経験を重ねることで少しずつできるようになります。児童数が多くなると、そのような成長の機会もその分だけ少なくなるため、適切な人数についてはよく検討すべきです。
4	小規模校の出身ですが、大きなハンディキャップは感じませんでした。
5	小規模校出身者の個性や能力に関して、先入観を持って決めつけてしまうような発言、考えについては強く不満を覚えました。
6	少人数であることで一人一人の責任の所在が明確になる面がありますので、少人数だから教育環境が悪いとは言い切れないと思います。

ウ 方策案3 小規模特別認定校として走水小学校を存続する。

No.	内 容
1	小規模特別認定校制度を導入することで、走水小学校を不登校児童の居場所とすることができればいいと思います。
2	小規模校特認校制度について、海に近いことを活かした活動をしている学校がありますので、実験的ということではありませんが、走水小学校でも取り組んでみても良いと思います。
3	山梨県にて少人数のクラスを増やす取り組みを行っているのを見ました。まず1、2年生で試行し、次に3、4年生でも取り組むというものでしたが、横須賀でもこうした取り組みを行っても良いと思いました。
4	走水小学校が小規模特認校になったとしても、そこまではバスで来なければいけない問題が出ます。確かに走水小学校は自然環境などに恵まれています。こうした通学の部分でハードルが高いと思います。
5	走水小学校には学区外から通っているご家庭がありますが、どの家庭も児童を車で送っていただいている現状がありますので、仮に小規模特認校を導入することになった場合、このあたりについても必要になると思います。

(4) 答申内容に関する走水・馬堀地域小中学校教育環境整備検討協議会の意見（第7回）

ア 走水小学校区を馬堀小学校区に編入することについて

No.	内容
1	審議会の答申案について、これから意見を言って覆すというのは基本的には不可能だと思っているが、会議の進め方としては誤っていると思う。
2	教育上の工夫で連携等の話もしましたが、審議会でも検討していただいて、負担が大きく難しいだろうというご意見があり、審議会委員の方も納得されて却下されてしまったというのは非常に残念です。ただ、今後の進め方としては検討していく価値があるというように受け入れていただいたのはありがたいと思います。
3	編入という表現の話も出ていましたが、編入という表現はどうかと思います。編入という表現で、走水小学校をなくして馬堀小学校にしましょう、という書き方をされると、走水小学校に愛着のある方は多くいるので、その方々は不満を覚えると思います。統合と編入では意味が違うと思います。例えば、馬堀小学校の名前を馬堀走水小学校にできますか、という話だと思いますが、そのような点はのでしょうか。編入ではなくて統合であり、名前を残すことによって走水小学校側の思いを引き継ぐというような学校編制もあり得ると思います。
4	人数が少ないから統合し、クラス替えができる規模にするということは、審議会が始まった当初からあった方策と同じで、非常に単純な結論であると感じており、残念です。
5	新聞記事に出ていたように、廃止というような少し強めの表現がされていると、記事を見た方は残念に思っているのではないかと思います。どのような取材を受けたのかが分からないのでそれ以上のことは言いませんが、気になるところです。
6	審議会から答申が出ましたが、未解決の課題がたくさんあります。それらをスムーズに解決する方策や、また別のやり方というものを考えていかなければならないと思うので、答申が全てだとは思ってません。一つの方向性としては決まったかもしれませんが、この中で議論をしながら、子どもたちにとってより良い教育環境を構築していくことがこの会議の目的であり、教育委員会は真剣に取り組んで、ご検討いただければと思います。
7	先日、馬堀小学校の学校運営協議会が行われ、その際にもこの話が出ました。教育委員会もこれから検討していくと思いますが、現場の校長先生たちも、子どもたちが困らないように今からいろいろ考えていただいております、安心しています。
8	統合が決まった際には、子どもたちがスムーズになじめるようにということについては、すぐにも交流の場を考えて、何ができるかはまだ具体的には決まっていますが、馬堀小学校と走水小学校で連携をして、できるだけお互いの名前も顔も分かるようにし、仲良くなって、友達として一緒にやっていけるんだと思えるような活動をしていきたいと思います。学校名についても、馬堀小学校に来てもらうということではなく、二つの学校が合わさることで、どちらの子どもたちも気持ちよく一緒にやっっていこうと思えるように考えていかなければいけないという話を、学校運営協議会の中でしました。これからすぐにでも、できることを考えていきたいと思います。
9	児童、保護者、教職員、地域の方がよりスムーズにやっっていくという方向で進んでいただきたいなと思います。

No.	内 容
10	事務局から説明があったとおり、答申を受けたという報道発表だったと思います。しかし、記事はそうではないようなイメージの記事でした。報道発表の中でどのようなやりとりがあったのか、どうしてそのような記事になってしまうのかについて、お聞かせいただければと思います。
11	地域説明会の中で、説明会の目的を明確にお伝えしていただいてから、説明をしていただけたらと思います。答申をいただきました、決定は年明けです、という状況の中で、意見を言うのは非常に難しいと思います。11月20日という日程は微妙な中での説明会になると思うので、より良い教育環境に取り組んでいくということが目的となっているのであれば、いろいろな意見が出るし、言いやすくなると思います。ただ、決定はしていないので、そこまで踏み込めないという部分もあると思いますので、もらう意見はどこまでもらいたいのか、答申が出ている中で、戻ってという意見ではないのか、そこも踏まえての意見をもらいたいのか、その辺りを明確にした状態で説明会をしていただきたいと思います。地域の皆さまにとっても限られた時間ですので、その方がより良いご意見がいただけるのではないかと思います。
12	どのように資料がまとめられて市議会等に渡されるのかが気になります。資料の整理の仕方が非常に重要だと思います。全て載せるわけにはいかないと思うので、重要な部分を取りまとめて作成する必要がありますと思いますが、我々が本当に主張したかったところではないところがピックアップされてしまったり、本当に言いたかった部分が漏れてしまう可能性があるということが心配です。地域説明会等で出た発言や、それに対する回答などがあったとして、それを取りまとめる段階で全く反映されなかったとしたら、発言をした方は非常に不満だと思います。その発言内容が感情的なものだったらそれほど重視されないかもしれませんが、周りの方々から同意を得るような重要な発言だった場合には、しっかり見極めることができずにまとめられてしまい、市議会には伝わらなかったという話になるとよろしくないと思います。 地域の皆さまのご意見がしっかり伝わるように作っていただけるものと期待しています。
13	どういった結論が出ようと、納得していただけるかどうか重要だと思うので、丁寧に進めていただければと思います。
14	今後どうなるか分かりませんが、近い小学校なので、統廃合を抜きにしても小学生同士と一緒に交流できるような機会を設けていただけるとありがたいと思います。子どもが走水小学校に通っていますが、将来的に馬堀小学校と一緒になるかもしれないという話が先生からあったと言っていたので、少し意識はしているようです。今のうちから両校のイベントと一緒に参加したり、お互いに招待し合うなどの交流をする機会を設けていただきたいです。統廃合しなかったとしても、必ずプラスになることだと思うので、ご検討いただければと思います。馬堀小学校はサポーターズ、走水小学校はPTAがあるので、連携しながらやれることを協力できればと思います。
15	走水小学校にはプールがないので、毎年、馬堀小学校にプールの授業に来ていただいています。そのたびに、走水小学校の児童と関わる機会があります。これまでも、プールで来た際に少し時間を作って、一緒にレクをやったこともありました。また、総合学習でも、走水小学校の学区である水源地公園のオープンに関わったりもしています。近くにあるので、一緒に何か取り組むというような、学習の中で活動するといったこともできるのではないかなと思います。馬堀小学校も児童数が多いわけではないので、少しでも増えれば、子どもたちも学ぶモチベーションが上がると思いますし、いろいろと考えていきたいです。

イ 通学や通学路について

No.	内 容
1	<p>子どもたちの通学の安全性について、下校のリスクが大きいと思います。学年によって下校時間はまちまちになるので、バスに乗る時間がどうなるのか、乗れなかった場合はどうなるか等です。走水地域には学童保育がないので、あえて走水地域から馬堀小学校に通っている小学生も10人程度いるようです。その子たちを見ていると、通学路には暗いトンネルがあり、バスに乗り遅れたか何かで歩いている子がいたりして、注意することがあります。そういった場所についての下校の見守りというのは、徒歩での登下校を想定しているのであれば、かなりリスクが高いので、ご検討いただきたいと思います。この後の進め方というところで、走水小学校に通っている児童が不利益な状態にならないようにご検討いただくようお願いします。</p>
2	<p>通学はとても大切なところで、絶対に事故があってはいけないので、地域別協議会としても意見を出していければと思います。ただ、走水小学校と馬堀小学校の統合という件だけではなく、これからの横須賀のことを全市的に考えながら、民間のバスを使うのか、スクールバスを使うのかなど、議論していただければと思います。</p>
3	<p>仮に統合するとした場合、さまざまな課題が残っていますが、その解消レベルがどの辺りになったところで統合時期が決まってくるのでしょうか。例えば、通学の課題が解消されるまでは統合のプロセスに入らないのか。それとも、審議会でも走水小学校の教育環境は非常に素晴らしいというご意見がありましたし、地域別協議会でもこのような素晴らしい教育環境をなくしてしまうのは横須賀の教育環境整備としてはマイナスではないかという話がありましたので、これをどう活用するのかというところまで決まった上で、統合というプロセスに入っていくのか、その時期はどのような形になるのか教えていただきたいと思います。</p>
4	<p>今は走水小学校に歩いて通っていると思いますが、馬堀小学校にバスを利用して通うようになると、走水は信号がありませんので、その辺についても検討していただきたいと思います。</p>

ウ 跡地利用について

No.	内 容
1	<p>審議会でも、走水の教育環境をうまく活用できれば良いというご意見がありました。ですので、教育委員会の手を離れて、売り払われてしまったり、廃墟のようになってしまつては非常にもったいないと思います。学校がなくなって人気なくなると、防犯上危うい地域になりますし、通学の手段としてバス等の手配が行き届いて、見守りの体制が整えば良いですが、そうでない場合には、国道の下の細い路地を通ることになるので、人目が見つかりませんし、見守りの体制がとれない状況です。通学する人数は1学年2人や3人で帰ることになるので、かなり危ないのご理解いただければと思います。そこから先の地域は海岸沿いに行くところと、水源地公園と山に囲まれていたり、海がすぐ傍に迫っているようなところで、非常にリスクがある場所なので、通学の安全性は絶対に確保した上で、次のステップに進めていただくということは、絶対条件としてお約束いただければと思います。跡地については、素晴らしいところなので、みすみす潰してしまうようなことだけは反対させていただきたいと思います。うまく活用できるような方法や、馬堀の方に走水に来ていただくという形も良いと思うので、検討していただければと思います。</p>

エ 地域や環境について

No.	内 容
1	学校の人数が少なくなったので教育環境を整備する、そのため学区の見直しが必要だというのは理解できますが、走水の住民が一番懸念しているのは、学校が走水地区からなくなることによって地域の衰退に繋がることです。今まで伝統行事等を支えてきた小学校がなくなことは、地域の生活に大きな影響があります。そういったことが審議会の中では議論の対象にならないし、そういったことを話す場でないことは理解してますが、走水の文化、伝統を守るということを誰が担保するのかについて、教育委員会でなければどこに相談をすれば良いのか、そういった部分が欠けていると思います。そういった部分のフォローがない限りは、走水の人達は統廃合に関して、素直に賛成できない状況だと思います。
2	地域説明会において、住民の皆さまにしっかりと説明をしていただかないと、納得いただけないと思います。資料を渡すだけで、このような資料です、ご意見はどうか、という進め方では相当な反感が予想されますので、どのような議論がなされたのかというところは説明していただく必要があると思います。
3	協議会の中で、課題として通学路の安全性の問題や、児童同士が同じ学校になったときになじめるのか、などがありました。走水地域と馬堀地域を両方見ていて気になるのは、山と海で分かれた二つの地域であり、相当距離が離れているということです。生活している方々の文化も違います。走水地域の方の気質と馬堀地域の方の気質はかなり違うと思います。この二つを一つにしたときに、うまくやっていけるのかについては不安を感じます。審議会の中で議論されているように、多くの児童がいて、いろいろ考慮して意見交換ができるという非常に理想的な話がありますが、地域間での連携という部分は大きな問題だと思っています。
4	走水の方々は一生懸命子どもたちを支えており、先日の運動会にも地域の方にたくさん来ていただいて、児童を応援しながら一緒に盛り上げていただきました。また、再来週には地域の防災訓練を走水小学校で行います。その中で、PTAと合同でのイベントの企画があつたりしますので、そのような意味では走水地域における走水小学校の位置付けというのは非常に重要だと思っています。地域全体のコミュニティをつなぐ要になっていると思いますので、その要を取り去ることによって、地域の連携にインパクトがあるのではないかと思います。その代替に馬堀地区がなり得るのかというと、山と海に囲まれていて、陸の孤島のようなところなので、うまく連携させることができるのか疑問です。今回の議題は、教育環境の適正化という話なので、そこまで踏み込んだ議論ができるのか分かりませんが、地域コミュニティの中心に小学校があるという事実は、市議会にもお伝えさせていただきたいと思ひますし、市長にもご認識いただいた上で審議していただきたいと思ひます。
5	地域の方の思い入れが強い小学校の一つだと思うので、皆様のご意見をしっかりと市議会と教育委員会、市長にも伝えていただければありがたいです。
6	一番懸念されることは走水地域の衰退、地域のコミュニティについてです。通学区域の再編成という問題だけではなくて、地域の衰退に直結する、コミュニティの核を失うことになるので、その代わりになるものがあるのかを一番の論点として取り上げていただきたいです。

No.	内 容
7	<p>先日、PTAを交えてホタル鑑賞会をやりました。学芸員の方にご説明いただいたりして、そのようなイベントも小学校でやっています。これからの教育は、いわゆる中央集中型の教育ではなく、ネットワーク型だと思います。分散して、お互いに小さなコミュニティとして協力して盛り上げていくという形が理想的ではないかなと思っていて、そのような一つのモデルケースになると良いと思っているので、交流を進めていただければありがたいと思います。</p>
8	<p>走水小学校のPTA会長は、外に開いていこうという意思を強く持たれているPTA会長だと思っています。それを受けて、学校を開いていこうという姿勢で教育を行っています。その中で、昨年度は雨でプールが使えなくても馬堀小学校へ行って、体育館で馬堀小学校の子どもたちと交流することも行いましたし、6年生のボール大会では走水小学校の人数が少なく、対戦形式でやるのは難しい状況の中で、一緒に練習をして、合同チームで試合を行うという形をとりました。一緒に行動する時間を作ることができましたし、何度も一緒に活動しながら練習し、試合をするという経験をしました。中学校に進んだ今の一年生は、馬堀小学校の子と走水小学校の子が近い状態でスタートできたというところもありますので、両校の交流については、今後も取り組んでいく必要があると思います。</p>

2 地域説明会における意見

(1) 走水小学校区を馬堀小学校区に編入することについて

No.	内 容
1	これまで7回、地域の代表者が地域別協議会に参加して、いろいろな発言をされています。郷土愛、学校愛、子どもを愛する気持ちが溢れていて感動していました。走水小学校を廃校しないように、誠心誠意頑張っていることに敬意を表します。
2	この答申が新聞発表された際の記事についてです。答申には統合時期については記載がありませんが、新聞記事では、早ければ令和7年度に行うという記載がありました。このような断定的な記事が出てくるといことは、記者発表の際に、教育委員会としてそのような発言があったのでしょうか。このような記事が出ると、来年走水小学校に行こうと思っていた人が、別の学校へ行ってしまう、また複式学級ということになりかねません。このようなことを進めていくような新聞記事が出ましたので、どのように記者発表されたのか、その内容を知りたいです。
3	地域代表の方が地域別協議会でさまざまな発言をされました。その中で、地域別協議会は結論ありきで展開されてきたのではないかと趣旨の発言がありました。これに同感だと思っており、本日の資料でも、走水小学校の存続に関しては深いコメントがされていません。特に方策3については、学級数が基準に満たないとされています。児童数は非常に大事ですが、数が少ないということは以前から分かっているのですから、どうしたら存続できるかというところにも少しウエイトを置いた議事進行をしていただきたかったと思います。
4	私は埼玉から4年前に走水に来ましたが、森と海、自然に恵まれた走水小学校に子どもを通わせることができ、この上なく幸運でした。本日は、学区の変更に関する答申を伺い、残念な気持ちになりました。走水小学校とここに通う児童は、地域の宝物です。地域の神社やお寺の敷地に間借りしながら育った小学校は、150年の歴史を重ね、地域と深い絆で結ばれ、ここに住む人のアイデンティティとなっています。メディアに流れた廃校という言葉に触れた地域の方々の落ち込みはいたたまれないほどで、見ていてとても悲しくなりました。
5	小学校が地域の防災拠点として、地域の文化の担い手として機能していることを認識して、通学区域の再編によって、これらの機能が失われないような配慮をする用意があるのか、また、通学区域の変更によって、子どもの安全を損なわないような配慮を期待して良いのか、それを誰が、どの立場で約束していただけるのか、審議会委員や市長に伝えるだけではなく、我々の不安や疑問に対して、どなたか答えてくださるのか教えてください。
6	仮に統廃合ということになるとして、統廃合という言葉はやめてほしいです。統廃合というと、廃校になってしまいます。校歌もなくなってしまいますし、学校の歴史もなくなってしまうと思います。統廃合した際は馬堀小学校という名前になると思いますが、走水馬堀小学校だとか、馬堀走水小学校というように、形として残しておかないと歴史がなくなってしまうと思います。
7	方策2や方策3について、懸案で対応できないという記載のされ方になっており、統合ありきで進めているように解釈しました。

No.	内 容
8	<p>昨年の11月にも地域説明会があり、走水の人たちが大勢集まっていろいろな意見交換をしました。そのときに、走水小学校の廃校は地域の存廃に関わることだという意見が多く出ました。人の問題、住宅の問題、バスの問題等、いろいろな意見が出ました。本日もそれに類した意見が出ています。こういった意見を教育委員会だけでなく、自然体として議論や意見交換をされたのでしょうか。或いは、県のレベルの話も出ましたが、こういったことを把握した上で、このような方向が導き出されたのでしょうか。地域説明会で出た意見については、資料に記載がありません。これは、市が検討しなかったということなのか、した上で、資料に載せるまでもなかったということなのか、教えていただきたいと思います。</p>
9	<p>結論ありきだと思います。教育委員会の問題ではなく、広く検討して欲しいと思います。児童数の話をされると、次の議論がありません。そうではなく、もう少し先を見た考えを織り込んで欲しいと思います。統合時期を先送りできないか、ということも含めて検討して欲しいと思います。</p>
10	<p>田浦小学校の校舎は70年で走水小学校の校舎は50年ですから、耐震工事も含めると、4億円程度の価値があると思います。これはそれなりに生かさないといけないと思います。少人数でも問題ないと思っています。今後の20年の間で防衛大学の宿舎に係る売却の話もあり、人口増加が見込まれます。人口増加ができて、また立派な小学校として運営できると思います。長い目で見れば、急いで廃校にする必要はないと思っています。まだ価値のある校舎を捨ててしまうようなことはせず、もう少し様子を見てほしいです。20年あれば、南側に住宅ができますから、地域として変わると思います。横須賀市は全国でも人口流出が激しい町ですよ。子どもを大切に魅力的な町にするということがスローガンだったはずなのに、簡単に廃校というわけにはいかないと思います。</p>
11	<p>箱根町でがけ崩れがありましたが、箱根町にはレッドゾーンがありません。それは、箱根町という温泉地だから指定していないからであり、レッドゾーンはもともとでたらめなものです。そのようなものに気を付ける必要はないと思います。</p>
12	<p>小学校3年生と小学校1年生に入る子がいます。この状態でいると、小学校3年生の子は最後まで走水小学校に通います。新しい1年生は、小学校が変わるのであれば馬堀小学校に行きます。それが子どもの答えであり、親はどう答えて良いか分かりません。今まで、馬堀小学校から走水小学校を選んで通っていた方もいますので、そういったことも考えてあげてください。子どもたちは不安を感じています。走水小学校にいつまでいられるのか、どのように考えているのか、親や教育委員会のことではなく、児童のことを考えてほしいです。先生たちと一生懸命やっていることも、ずっとここで経験してきました。数日前にもジャズの演奏がありまして、そのときも、32名ではないような声でした。運動会でも、他のところでは経験できないことがたくさんあります。東京から臨海学校等で、夏に人が来るといったこともありました。そういった繋がりもたくさんあります。走水を守るということも、私は大切だと思います。登校できない子たちのこと、私たち住民がどのような思いで子どもたちに接して、今まで子どもたちと一緒に、一生懸命走水小学校に通ってきたことを考えると、また、走水小学校がなくなるということを考える、とても悲しいです。高齢者からも、走水小学校がなくなったらどうするの、といった声を聞きます。皆さんの声を聞いてあげてください。住民の声が教育委員会に届くようにお願いします。</p>

No.	内 容
13	<p>この説明会は形式的に開催しているだけでしょうか。本日と明日、両地域で意見が出たから、教育委員会がまとめて、25日に発展的な内容をやるのであれば行こうと思います。もう少し遅くやればいいと思います。皆さん、走水小学校が大事です。美智子妃殿下の関係で、地元の写真集を作って市に寄贈しました。上地市長から礼状がきましたが、美智子妃市も走水の伝統文化にも興味があるそうです。皆さま、走水について真剣になって考えています。これだけ一生懸命言っているのに、形式的に地域説明会を行い、最終的にはやったから良いだろうという感じが見えるので、そういったことがないようにしていただきたいと思います。25日にもう一度行って、発言したら何かが変わるのでしょうか。本日と明日の内容をまとめて25日にやるほうが良いです。馬堀小学校は260人いるので、走水小学校から行ったら転校のようなものです。1年生と2年生が3人しかいないというのがネックです。そこを突かれると何も言えなくなってしまいますが、走水の良さを訴えることで、馬堀小学校から走水小学校に来てくれる児童がいるかもしれません。走水が駄目だという雰囲気ではなく、走水は良い地域だという雰囲気にしたいです。横須賀市長に手紙も書きました。伝統を大切に、本当に走水は素晴らしいまちですね、という手紙が来ました。宮内庁にも連絡しています。走水の町を良くしようと思って、いろいろなことを考えています。皆さまの話は、ほとんどが走水小学校を良くして欲しい、学校の校歌はどうになってしまうのか、といった心配でした。安心していません。このような、安心していない中で統合をするのでしょうか。真剣に捉えていただきたいです。6年間校歌を歌った人にしか分からないと思います。皆さん、走水小学校が残ってほしいと思いませんか。</p>
14	<p>走水地域の方々について、地域の団結力が強く、祭事等の件もあり、昨年の地域説明会では走水小学校を残してほしいという意見が多かったです。今回の地域説明会では、意見の変化がありましたか。現在もそのような意見は出ているのでしょうか。</p>
15	<p>地域説明会で、走水小学校は地域の伝統行事等に児童も積極的に参加していただいております、地域の中心の一つである、という意見が出ました。これは、昨年の11月に町内会主催で行われた説明会の時と同じ熱量であり、統合は反対という意見でした。小規模特別認定校により走水小学校を存続する、という案について、12学級から24学級という基準に該当させずに運用する方法もあると思いますが、いかがでしょうか。教育委員会としては、学級数の基準が絶対的なものであるというように感じます。</p>
16	<p>10月28日に走水小学校で運動会がありました。参加した方から、素晴らしい運動会であったという声がありました。PTAの主催で未就学児童のかけっこというプログラムを組んでいただき、1歳から3歳の未就学児が17名程度参加しました。そういった子どもたちがいるということも加味して、時間的猶予が欲しいです。</p>
17	<p>教育委員会として、最終的にこの案に決めたいという意向はありますか。それとも、もう一段階設けて住民や保護者等の意見を伺いますか。住民本位で、反対が多い場合は統廃合は難しいという判断をするのか、するのであれば誰が判断するのか、といったところを提示してほしいです。</p>
18	<p>答申は尊重されるものだということですが、年明け以降に開催される総合教育会議や教育委員会議には、今回の地域説明会で新たに出た意見は反映されるのでしょうか。</p>

No.	内 容
19	<p>最終的に教育委員会で決定されるということですが、そこまでに考えていただきたいことは教育面だけではなくて、災害の部分、通学の安全性等であり、通わせている保護者の不安は最後まで払拭されないとします。教育委員会だけではなく横須賀市、神奈川県、国全体の問題として考えるのであれば、お話にならない方が参加して座っているのではなく、他の部署の方にも参加していただきたいとします。その上で納得ができれば、仕方がないと結論付けるしかないと思いますが、このままの話の進め方であれば、納得できません。資料の29ページから記載してある第7回協議会での意見について、その裏にある思いを考えていただきたいです。他の部署の方に参加していただき、馬堀地域の方にも意見を言っていただいて充実した地域説明会になって欲しいと思いますが、このままでは走水地域の方々は納得いかないまま進んでいってしまい悲しく思うので、そここのことを考えていただきたいと思いました。</p>
20	<p>子育てを担当する部署や定住促進を担当する部署にも地域説明会に参加していただきたいということです。統廃合をする前に、そういったところも審議していただければと思います。</p>
21	<p>地域でも、小規模の課題は共有しています。近隣の三校で連携し、共存共栄の道を議論すべきだという話が、地域別協議会でありました。柔軟な発想をして、例えば審議会でも話があったように、大学のように走水小学校と馬堀小学校で受けたい授業を選んで行き来するような方策もあると思いますが、教育委員会はそういったことは考えていないと感じます。今後児童数が減少した場合、際限なく統廃合を繰り返すというのは、策がないと思います。馬堀小学校も人数が少なくなったら望洋小学校とまた統合するのでしょうか。高台まで坂を登って登校するのは大変です。</p>
22	<p>当事者である子どもたちの意見をいつ聞くのか、ということは気になっていました。実際に少人数学級で授業を受けている子どもたちから、少人数学級の良さを学ぶという意味でも、子どもたちの意見を聞く場を設けていただきたいです。走水小学校ではない学校に通っている小学校6年生の子に、走水小学校では海水浴をやったり、蛍の里があったり、地域で井戸水のことを学んだりといった、地域に密着した素晴らしい教育環境がある、ということをお伝えしました。すると、うらやましい、すごく遠いけど通いたいぐらいだ、という意見が出ました。また、5人に1人はHSCだといわれている中で、徒歩10分の中学校に通うだけでとても疲れてしまう中学生の子もいます。そのような子からすると、少人数でゆったりした環境は必要だと思います。不登校の子がたくさんいる状況において、教室に通えない子で保健室が満杯になり、別の教室を作っている学校もあります。5人から6人程度の教室であれば通えるという子もおり、走水小学校のような小規模校の方が通いやすいという子もいます。横須賀市では、令和4年に猿島のトイレを2億円以上かけて改修しました。走水小学校の少人数のために老朽化した校舎を直すのはお金がもったいないという意見もあるでしょうが、お金の使い方の優先順位を考えてほしいです。</p>

No.	内 容
23	<p>統合について、走水小学校保護者のアンケート調査があります。賛成7人、反対14人、保留11人という結果です。賛成の方の意見は、長期的、経済的な面から横須賀市の状況を見るとやむを得ない、児童数が少なすぎるというものです。個人的な意見としては統合に賛成ですが、将来の走水の子どもや、先人から積み上げてきた町のことを考えると、統合が決定するまでは反対しようと思っています。馬堀中学校へ通っている走水小学校の卒業生に話を聞きました。統合は残念ですが中学校は人数が多くて楽しい、大好きな海での水泳など良い思い出があるが仕方がない、という意見でした。走水小学校の児童にも話を聞きました。走水小学校が大好きで嫌なことはありませんが、統合することになった際には、精一杯頑張って友達をたくさん作る、という意見でした。今後、アンケートのような形で意見を聞くということですが、光洋小学校と鴨居小学校の統合の際にも保護者や教職員にアンケートを行いました。賛成が0、反対が30%、どちらでも良いが70%という結果でした。光洋小学校や鴨居小学校の教職員が、誠実に考えているからこそその結果だったと思います。統合によるメリットは非常に多いですが、学習が遅れている子への対応が難しくなるといったデメリットもあるということを考えて、どちらにも傾かなかったのだと思います。本質的なアンケートを行い、統合して良かったと思う方が増えると良いと思います。</p>
24	<p>20日に走水小学校で、21日に大津コミュニティセンターで地域説明会が開かれ、21日は馬堀小学校の校長、教頭を含めて出席者が6人でした。その際に、12学級から24学級という基準に該当せず、小規模特別認定校として存続するという案についての話が出ました。再度、学級数のハードルをなくし、前向きに検討していただきたいです。子どものアンケートについては、統合されてからでは意味がないと思います。</p>
25	<p>走水でビーチクリーンをしています。また、よこすかプレーパークという子どもの体験活動に長年携わっています。その中で、子どもたちの今後のことが大変気になっております。それと同時に、不登校に関する相談が多くなっています。横須賀市のデータでは、小中学校の不登校児童生徒数が1,000人を超えたということで、この人数に対して、教育委員会は喫緊の課題として捉えていないように感じます。</p>
26	<p>地域別協議会において、意見の集約と整理を行って、三つの方策案にまとめ、審議会に報告しました、ということになっていると思いますが、方策案というのは、地域別協議会で作成した方策案ということになるのでしょうか。また、地域別協議会はある程度の方向を決定する場なのでしょうか。方策案の中に、馬堀小学校区を走水小学校区へ編入という案がないのはなぜですか。また、方策案の中に、望洋等の近隣地区を考えた案がないのはなぜですか。それが方策案にならなかったのはなぜでしょうか。他の地域を含めて検討する案とともに、方策案に乗っていない意見が、審議会に届いていないように見受けられます。</p>
27	<p>審議会では、方策案の3点についてしか話をしていないように感じます。</p>
28	<p>地域別協議会で方策案として上げてほしいと言わなければ、方策案としては審議会に上がらないということだと理解しました。それであると、やはり地域別協議会はある程度の方向性を決める会だということのように感じます。</p>

No.	内 容
29	審議会では、委員長から大学のように二つの学校で授業を選択して行き来するような案も出ましたが、小学校ではそういった方策は難しいという事務局の見解でした。また、走水小学校は教室数が足りないということでしたが、全児童ではなく、授業によって走水小学校と馬堀小学校を行き来する方法もあると思っており、地域別協議会でもそのような意見が出たと記憶しています。そういった意見が審議会に伝わっているのか疑問に思います。良好な教育環境を生かして、共存共栄で活用することが良いという意見です。
30	地域別協議会の機能としては、審議会から意見を求められ、意見を出す場であり、方策を出す場ではなかったという認識です。その意見をどう取りまとめるかというのが審議会の機能であると思いますが、地域別協議会で出た意見が上がったとしても、結局は学級数、児童数が課題であるということになってしまっており、これは最初から最後まであまり変わりません。地域別協議会の意見に基づいたご発言がされても、あまり議論されることなく、その場が収束してしまっており、地域別協議会委員としては残念でした。審議会委員の真剣味については疑問です。また、会議の進め方として地域別協議会の意見がどのように伝えられたのでしょうか。資料をあらかじめメールで送ってにおいて、それを見た前提で進めていたのでしょうか。地域や地域別協議会の意見が、審議会に理解していただけなかった中で審議会が進んでいったのであれば、最初から最後まであまり変化しなかったというのは当たり前だと思います。
31	一番気になっているのは、市議会や市長への説明の段階で、こういった形で伝えられるのかということです。審議会や教育委員会で検討した結果、方策案1で決まりました、という伝え方ではなく、統合という案も他の案もあって、その中で協議した結果、方策案1に決まりました、という流れが妥当だと思います。市議会等の意思決定機関で適切にご判断いただくための資料を提示するのが、教育委員会や地域別協議会の任務だと考えています。
32	市議会や市長への説明の際、資料を渡すだけではなく、重要な部分だけでも直接読んでお伝えする等のご配慮をお願いします。
33	走水小学校は本当に良い教育をしていると思います。この答申を読むと、最初から統合ということが頭にあったように思えます。方策案3の小規模特別認定校というものができれば良いと思います。近隣の法人としても、何かできることがあれば協力したいと思っています。

(2) 通学や通学路について

No.	内 容
1	通学路の安全確保についてです。走水小学校が廃校になった場合、走水は貧困家庭が多く、小学生1人で、徒歩で30分以上かけて馬堀小学校へ通学せざるをえず、事故や事件に巻き込まれる可能性が高いと思います。通学路は、走水第1トンネルと第2トンネルを通る方法と、海岸の幹線道路沿いを通行する方法があると思いますが、トンネルは日中でも人通りが少なく、大人でも通る気持ちになりません。また、海岸からの通学も、海岸線は津波ハザードマップで、津波警報3メートルが発表された場合の津波浸水想定区域に指定されているので、災害に巻き込まれることが想定されます。
2	走水小学校では、通学路に立って小学生を見守っており、何かあっても対応できるような状況になっています。そういったことが、馬堀小学校まで行くと対応できないのではないかと懸念しています。小学生を1人で登校させるのは、世界各国の常識として、児童虐待です。教育委員会は、こういった児童虐待を公然と行うつもりなのでしょうか。
3	クラブ活動等もある中で、一緒に帰るということは難しいと思います。
4	お金の問題だけではなくて、バスの本数や運行間隔を認識して下さい。走水に住んでいる人も非常に困っており、子どもたちにとってはより困ることだと思いますので、単なる補助ということではなく、もう少し突っ込んだ検討をしてほしいです。
5	感情の部分はさておき、学区の再編について、質問をさせていただきます。前提となる児童と地域の安全、コミュニティについて認識を同じくしていただきたいと思います。通学区域を馬堀小学校区に編入し、通学先が馬堀小学校となると、児童の通学には海岸沿いの道を歩かなければなりません。強風のときに児童が歩くには非常に困難が伴い、危険です。それを避けるには、必然的にトンネルを通ることになります。トンネルから走水方面に歩いていくと、国道16号の路側帯は十分な幅がなく、横断歩道也没有ありません。バスで通学すれば問題ないとお考えになるかもしれませんが、スクールバスにせよ、京急バスを利用するにせよ、同じ時間が生じて、歩くことを選択する児童が出てくるでしょう。高学年ならいざ知らず、1年生や2年生が上級生の真似をして、歩道のない場所を歩いたり、横断しないとは言いきれません。交通事故をなくすことはできないかもしれませんが、現在の交通事情を考えた場合、安全を図る方策もないまま、簡単に通学区の再編を行うべきではないと思います。
6	通学路が遠くなるということが心配であり、地域の協力やバス利用といった方策について、まだ具体化していないという部分が気になります。
7	走水小学校区の児童のうち、10名程度が馬堀小学校へ通っているという話でしたが、2か所あるトンネルについての安全性や、現状どのように登校しているのか、徒歩なのかバスなのか、バスの場合は交通費の補助はあるのかといったことを教えてください。また、答申のとおり統廃合した際には、通学の安全や交通手段についてどのような対策があるのかを教えてください。
8	バスの本数が減っていることで、自家用車で通学している家庭もあると聞いています。また、帰りの時間がバスの時間と合わないときには、歩いて帰っている児童を見かけたことがある、という話を聞いたことがあります。その場合、歩道がない道があります。通学の安全確保がクリアできなければ、統合に動かないということでもよろしいですか。

No.	内 容
9	通学距離が3キロというのは小学生には大変だと思いますし、スケジュールどおりに進めるのではなく、保護者や地域の方々の意見を聞く耳を持っていただきたいと思います。
10	馬堀小学校の通学区域が馬堀町1丁目になっています。馬堀小学校まで2.1キロです。走水の防衛大学官舎や立花住宅からは3キロを少し超えます。徒歩では1時間程度かかります。
11	通学の問題に関しても、バス代の補助やスクールバスを検討しているということですが、財政的な理由でバスが出せないということになったり、京急バスの通学便を増やしてもらうことができなかつたり、実施が難しいとなった場合に、方策案1しか示していないと、それが否決される可能性があります。それに対してどのような腹案を持たれているのかというところは、気になります。

(3) 学校規模について

No.	内 容
1	<p>少子化が急激に進んでおり、市内のほとんどの小学校において児童数が減っています。浦郷小学校や夏島小学校はやや増えています、5年程先には減少します。そうすると、全小学校の児童数が激しく減少します。そのような状況の中で、12学級から24学級という基準を15年以上変更していないということについて、もう少し弾力的に考えた方が良いと思います。例えば、12学級ではなく10学級にするといったことです。単学級の小学校が8校、12学級になっていない小学校が14校あります。4年のスパンで2校ずつ減っていく計画だと思います。そうすると、8校について環境整備をしても、他の学校の児童数が減少するので、同じことの繰り返しになると思います。12学級だとクラス替えができるという考え方ですが、それで良いのかどうか疑問です。10学級でも、半分はクラス替えができます。これは基準だということは理解していますが、先を見越して検討していただきたいと思います。</p>
2	<p>2年生が1人になったという話があります。走水小学校は、50人程度で推移しており、これ以上減らないという素晴らしい状況でした。しかし、統合問題が出たところ、廃校になって途中で転校することになるかもしれないということで、指定変更をして馬堀小学校に通わせている方がいます。それは4人程度ですが、走水小学校の児童数減少の一因になっていると思います。</p>
3	<p>教育委員会では、12学級から24学級という基準ありきで、それを満たさないと統合だというような言い方をされているようで、大変に残念に思います。児童数が少なくて教育の機会が失われることや、適切な規模の学校で勉強した方が良いという話は、頭では理解できますが、走水小学校がなくなるというのは感情論として残念です。</p>
4	<p>昨年の11月に地域説明会があったときにはまだ52名いまして、今は32名ということで、数字を出されてしまうと何も言えなくなります。毎日子どもの見守りをしていますが、30分程度で登校が終わります。それを見て本当に少ないと思いますが、子どもたちはとても元気です。運動会等のいろいろな行事に住民が関わっていて、素晴らしい運動会でした。走水が離島であれば小学校を残していただけるのに、離島であれば良かったと思います。それぐらい価値のある学校だと思います。先生方にとっても、とても良い教育の場になっているのではないかと思います。このような小さい学校で子どもたちを教育するという、良い体験になるのではないかと思います。多くのお金をかけて32名を見ていただいているということは重々分かっていますが、そういった学校があっても良いと思います。それを横須賀市の売りにできないでしょうか。</p>
5	<p>人数が少ないことが良いとは思っていません。人数を増やすために、横須賀市も力を入れていただいて、空いているアパート等を活用し、若い人を呼び寄せるといったことも考えていただきたいです。子どもを増やすことは日本中の問題ですが、絶対にそう思います。ですが、走水小学校をなくしてしまったら、もう1度作ることはできません。毎日見ていて、この人数ではサッカーをクラス対抗でできなかったりといったこともありますが、馬堀小学校と交流を深めて一緒にやったり、春の潮干狩りを馬堀小学校から来て一緒にやるといった交流を深めていけば、人数が少ないという課題は解決できると思います。個性を育てる良い学校だと認識して、走水小学校を残すように、横須賀市は考えていただくことを希望しています。</p>

No.	内 容
6	<p>適正学級数が12学級から24学級という基準は、15年以上変化していません。少子化が非常に激しく、ほとんどの小学校で児童数が減少している中では、この基準の見直しを議論すべきだと思います。例えば、9学級から18学級を適正とするといったことです。現在の横須賀市では、一番多くても24学級ですので、基準を下げるべきだと思います。1年生から6年生までクラス替えができないのは問題ですが、9学級であれば半数はクラス替えができます。暫定的にそのようなことも可能ではないかと思っており、議論をして欲しいと思います。追浜小学校と鷹取小学校のように、走水小学校と馬堀小学校の規模の関係に近い学校があるので、検討するべきであると指摘します。</p>
7	<p>走水小学校の児童数が少ないから適正配置のために統合ということですが、適正、という言葉はどこから生まれているのか疑問です。全市の見ても適正ということは理解できませんが、大人数に取り込めない子どもたちが多くいます。そこに当てはめようとする教育より、文科省が推進しているように、多様性や小規模特別認定校ということを検討してほしいです。走水は良いところであり、走水小学校はバス停が目の前です。通学距離が3キロを超える地域もあります。それを馬堀小学校に統合するのではなく、馬堀小学校から走水小学校に通わせるという方策もあると思います。方策案2と3は良い案だと思っており、教育環境整備においては、適正規模が12学級から24学級であるという懸案は答えになっていないと思います。走水小学校を生かす方向で考えていただきたいと思っています。</p>
8	<p>小規模特別認定校について、大きな学校に行きづらい子を受け入れるというところで、不登校の方の受け皿として走水小学校を使おうという意見がありましたが、もう少し前向きなことを考えて、走水の魅力的な教育資源や環境、他に類を見ない地域のサポート体制をとっている走水小学校をもっと魅力的にして、小規模だからこそできる、新しい教育手法の開発ができると思います。例えばICT教育や、自然観察、実験といった教育技術の研究開発を推進するような学校として特例指定するという方法もあると思います。将来ビジョンを見据えて、いかに良い教育環境を実現するかという視点で、前向きにご検討いただきたいと思っています。今は小規模かもしれませんが、児童数は変化します。防衛大学官舎や県営住宅に若い世帯が入らないとは限りませんし、横浜サイエンスフロンティア高校のように先進的な教育を行ったり、子どもたち一人一人に目を配りながら教育することもできると思います。そういったことを実践、検証して、教育のノウハウにまとめあげていくというプロセスが必要なわけですが、そういった実践を児童数の多い学校で行うのは難しいしやるべきではないので、小規模である走水小学校を活用するという方法もあると思います。統合というのは一番平凡でつまらない結論だと思っており、審議会からは教育環境を生かすことや、複数校連携してのネットワーク型教育といった案が出てくることを期待していました。中央集中で進めてもいずれ破綻します。全市からそのような環境を求めてくる子を集められるような体制を整えていただけるような意見が、市議会等では出ると嬉しいです。</p>

(4) 跡地利用について

No.	内 容
1	跡地利用について、地域別協議会においては廃校舎を利用して宿泊施設ができないか、という意見がありました。

(5) 地域や環境について

No.	内 容
1	<p>都市計画方針のとおりだと思いますが、そのようにやっても横須賀市の人口は決して増えないと思います。それは市政としてやってきて、人口が減っていることから分かります。最近までは走水小学校も90人以上という児童数でしたが、あっという間に30人程度になりました。同じような状況の学校が10校程度あり、なおかつ、50年以上経過した学校が多くあるという状況の中で、人口を増やすためには、他の県から人を呼ぶ必要があります。走水小学校は、他の小学校と比べて大変特徴のある小学校です。走水小学校を使って、他の地域から人を呼べるような施策を行ってほしいです。これだけ自然環境に恵まれた小学校は他にはないと思うので、それをもって他の地域から人を呼べば、小学校に入ってくるのではないかと思います。横須賀市の他の小学校は、全国にある学校と差がない、特徴のない学校だと思っています。ここまで海から近い小学校はなく、そのような小学校が廃校になるという記事が新聞やインターネットにも載っています。これを武器として、もう一度、走水に人を呼び寄せることができなければ、横須賀市の人口を増やすことは難しいと思います。基本方針の作成はコロナ禍の前だと思いますが、コロナ禍で時代が変わり、リモートワーク等により、東京に通わなくても仕事ができるようになりました。東京で学校に行きたくない児童等が、地方の環境の良い地域に住みたいと思うと思います。こんなところに住んでみたい、という話を聞きますし、小学校の人数が減っている分、住宅はあります。それを生かして、走水にもう一度人を呼び寄せることができると良いと思います。</p>
2	<p>横須賀は大変魅力的な土地です。急傾斜やレッドゾーンは多いですが、海が綺麗ですし、夏は東京からたたら浜に泳ぎに来て、店を利用していただいている方が多くいます。3年程かけて、たたら浜が綺麗だという話をお客様にお伝えしたところ、それを広めていただき、たたら浜で泳ぐ方が増えています。それと同じように、横須賀市と教育委員会、横須賀市民が努力して人を呼ぶことが、走水に限らず大切だと思っています。人を呼ぶに当たっては、走水は良い材料であり、走水小学校は人を呼ぶことができる小学校だと思っています。こういった意見を、教育委員会から横須賀市へ伝えてほしいです。</p>
3	<p>資料に記載の意見は、とても良い意見です。走水小学校を大事に思い、心配してくださる方が非常に多いと感じます。課題も指摘されていますし、良さも十分認められています。4年のスパンではなく、もう少し長期的に見てほしいです。県営住宅は2年のうちに新築されて、とてもモダンな住宅ができると思います。しかし、少子高齢化により70%程度の入居率で、空きが50戸程度あるといった課題がありますが、国防についての日本の課題というものもあり、防衛大学でも4大隊から5大隊にする計画があります。そうすると、今は学生が1,800人ですが、プラス500人になり、教職員も増える可能性があると思います。勤務状況のスパンが短くなり、今まで4年務めていた人が2年で転勤するといったり、子どもが高学年になると引っ越してしまうといったこともあるので非常に難しい問題ではあると思いますが、もう少し余裕を持って、5年や10年スパンでやっていく必要があります。多くの課題がある中で、答申が出ました、統合します、といったことで良いのか疑問に思います。</p>
4	<p>走水小学校の教育資源は半端ではないです。横須賀市で一番だと思っています。学区の周りに地層、水源地、福祉施設、赤檜群生、竹林の群生があり、三浦半島の植物が分かります。同心町の意味について、子どもたちが自分たちの考えで問題解決をしています。さまざまなことを発見、学習できます。関所や台場もあります。</p>

No.	内 容
5	走水の土地の状況を理解してください。2,000年近く馬堀と走水は交流がありません。トンネルは明治29年にできて、用があっても許可を取らなければ通ることができません。防衛大学、水源地、旗山崎公園、御所ヶ崎公園もあります。防衛大学の訓練所もあります。住むところがありません。これは明治時代からずっと続いてきています。横須賀市が観光や文化スポーツを推進していますが、走水には恩恵がありません。もう少し、慌てずに検討してほしいです。
6	小学校が地域の防災の拠点となっている点についてです。昨日も地域の皆さんが参加する防災訓練を小学校で実施しましたが、災害発生時には小学校が重要な拠点となります。仮に小学校を移転させた場合は、この場所を防災センターや公民館として活用すれば良いとの意見もあるでしょうが、なじみのある場所だから、住民は集合もするし活用もします。普段から誰も使わない場所には来ないし、そのためだけに施設を維持するのは不経済になります。山と海に隔たれた走水の住人が避難する場所として、走水小学校が機能しているのは、地域の小学校として、住民が認識しているからであり、ただ、施設を作っただけでは、住民の心理的な障壁も高く、緊急時の利用に大きな障害があると思います。
7	小学校は地域の文化や伝統の担い手として、地域ぐるみで交流を活発に行っていました。神社の神事に限らず、事あるごとに、小学校では地域と密接に繋がった活動をしてきました。通学区域が再編となった場合、こうした、祭礼や行事にこれまでとおりに児童を参画させることができるのか不安を覚えます。今年の祭事をお手伝いして、横須賀地区のお祭りがこれほど楽しく、子どもも大人も一体となって行っていることに驚きました。こうした祭事は小学校設立以前からあり、小学校の協力がなくても実行は可能でしょうが、走水やその周辺地区のように、老若男女が一体となっている神事はなかなか目にすることはありません。
8	審議会のご発言で、走水や田浦を特別とする理由についてのお話がありましたが、地域の伝統とともに150年の歴史を積み重ねるのは容易なものではありません。公正公平な観点から、特別な事情として斟酌するには及ばないような趣旨の発言もありましたが、それは走水の住人にとって、地域の誇りが否定され、知識さえあれば、経済を回せば、それで教育が事足りるとした浅い意見のように感じます。走水小学校が実施している、地域の繋がりや誇りを感じるさまざまな教育環境は、何物にもかえがたい貴重な財産だと思います。この素晴らしい、宝物のような小学校と環境が失われようとしていることが、非常に残念でなりません。
9	学校運営協議会という、学校の活動をより良くして将来につなげていこう、という話し合いを行っている会があります。その中で、小学校が地域の核として、中心的な存在であるべきだという言い方をされています。走水小学校は、まさしく地域の活性化に繋がる拠点だと思っていますので、そこがなくなるということは、大変寂しく思います。
10	記事で出たように、令和7年ということで決着をつけようというお考えに聞こえました。懸案として、将来的に多くの若年層に経済的負担を強いる額の設定になります、という意見が記載されていますが、現状として走水地区は少子高齢化しており、多くが高齢者です。児童も、防衛大学の官舎から通学している児童が多いです。小学校がなくなると、若年層は入ってきません。歩いて通える小学校があるからこそ、近くに移住しようと思う方がいると思います。学校が廃校になるというニュースが出た段階で、来年から走水小学校に通わせようと思っていた保護者が、馬堀小学校に通わせようと思う、ということはありません。もう少し猶予をいただいて、様子を見ていただきたいと思います。走水は大変魅力のある地域であり、海が近くて良い環境だから、アパートを借りるという方が多いそうです。これは、走水だからこそであり、他の地区のアパートではありえません。そういった定住促進は教育委員会の管轄ではないと思いますが、市のどこの部署で積極的に行っていたのでしょうか。

No.	内 容
11	<p>昭和51年に大津小学校がマンモス化し、馬堀小学校が新設されました。その際、馬堀小学校の通学区に馬堀町1丁目が入りました。走水小学校が統合した場合の3キロメートルよりは短いですが、子どもが歩いて40分以上の距離です。目の前に大津小学校があるにも関わらず、遠くの馬堀小学校に通学するのか、ということで大反対があり、新聞にも載りました。走水小学校と馬堀小学校にはお互いの良さがあり、両地域にもそれぞれの良さがあるので、学区の区切りを広めるといったシミュレーション等を丁寧にやっていただきたいと思います。例えば、馬堀海岸4丁目や鴨居4丁目を走水小学校の学区に入れるなどです。課題が多くあることは承知していますが、それ以上に、走水小学校の教育や走水の町は素晴らしいです。学習教材は溢れるほどあり、140年以上の間小規模校でやってきました。走水小学校の歴代の教員はよくやってくれていました。走水小学校はほとんどの児童が健康です。50年間にわたって、市、県、国から表彰されています。教える教育から自主性を重んじ、自らが考えて問題解決をしていくという新しい教育に基づいたときに、走水小学校の6年生は8人ですが、素晴らしい教育をしています。湧水の研究から商品化もしました。子どもたちが自主的に調べ、実験し、そして問題解決をしました。それが町の活性化に繋がりました。近所の喫茶店でも、子どもたちのそういった活動の中で、おいしい水をコーヒーに入れて売っています。8人という少人数であっても、主体的な学習をしています。今までは、140年以上の間、1学年の児童数が1名でなければ教員が加配されていました。そういったことも含めて、学校の良さを本当に理解しているのか、地域の良さをどれだけ理解しているのか疑問です。</p>
12	<p>地域別協議会においては、代表の方が一生懸命発言していて、とても伝わってきます。しかし、統合ありきで、話し合いが平行線で流れています。走水の風土、歴史、文化と共存して、経済が豊かになっています。昨年と今年で観光客が5万人増えています。しかし、走水の町はどんどん衰退していきます。走水へ引っ越してくる人たちも、遠くにある学校には危なくて通わせられません。これは、子育ての環境を悪化させることであり、国の政策にも反することです。仮に、馬堀小学校に行くようになった際は、通学補助に関して、公共性等の議論にもなるでしょうが、負担を軽減すべきです。</p>
13	<p>全国的に人口が減っているということで、横須賀市も増える見込みがないという状況では、今回の統合だけでなく、今後についても長期的な統合の計画があるのだと思います。小学校区の地域活動の在り方にも関係すると思うので、そこは気になります。小学校がなくなったら地域の活動はどうなるのか疑問です。児童が減っていくことに応じて、適正規模の在り方も変わるのではないかと思います。小規模の課題については説明がありましたが、良さもあります。今は1学級30人程度だと思いましたが、1学級60人の頃から少人数学級が理想だという話がありました。その理想に近づいたと思ったら今度は少なすぎて統合という問題になり、難しいと思います。</p>
14	<p>走水小学校は地域で一か所しかない災害時避難所であり、重要な防災施設です。また、各地域で小中学校をコアとした自主防災組織を立ち上げて、災害時の対応、運営を地域で行うような仕組みになっています。</p>
15	<p>市の施策によって観光客が増え、経済力が高まっています。しかし、走水小学校を失うことによる、走水の町の衰退は目に見えています。これは、科学的に見ても、経済学的法則で当たり前のことだということで、日本中、世界中で起こっている問題です。走水の歴史、文化、生活が衰退していくことを大変心配しています。特定の町への援助にかかる公平性の問題等もありますが、自分の町を本当に愛していて大事にしたいと思っています。将来を見据えて走水のことを深く考えています。</p>

3 メール、FAX等での意見

(1) 方策の検討について

No.	内容
1	これまで、様々な観点から協議してこられた中間報告として各協議会ごとに統廃合のメリット、デメリット、課題について整理されていると思うので公表してもらいたい。
2	統廃合問題が協議されていることは走水の住民は十分承知しており、今の状況では6年間、走水小学校に通学できるかどうか不安に思っている。途中で転校させるくらいなら初めから転校の心配のない学校にいかせているのが現実である。そのために走水小学校の児童数はさらに減少することになっている。この不安を払拭する方法はないのでしょうか。
3	学校の統廃合が児童数だけで決められるのであるなら、小規模校の統合はやむを得ないかもしれない。しかし、ますます少子化の進む中では、いつでも、どこでも児童数の減少は起こりうることで、その都度、統廃合を続けていかなければならなくなる。1学級の人数を減らすことも考えられている中で、少人数は本当に良くないのか。行政効率が良くないことはわかるが、教育は将来に向けての先行投資である。 そこで、教育面から小規模校の存在意義を十分検証し、存続させる方策はないものか、その可能性や条件について議論されることを期待したい。 なお協議会ニュースや会議録では統合後の校舎の利用方法や通学方法が協議されており（これも大事なことである）、すでに統廃合が決まったかのような印象を強く受けています。
4	走水小学校を馬堀小学校へ統合した場合でも、馬堀小学校は走水小学校よりも校舎が古いので建て替えが必要になるのではないのでしょうか。また、馬堀小中学校を一貫校とする計画があるとの話が出ましたが、小中一貫校にする計画も馬堀小中に決まったのでしょうか？その際は小中の敷地のどこに建てるのか、校舎の建て替え中の子どもの学びの環境への配慮についてもまだ明確になっていないのに、小中一貫校が好条件になるかのような話を持ち出されていたと聞いているが、走水小学校を統合する好条件にはあたらないのではないかと思います。
5	協議会の開催の仕方についてです。「走水小学校は子どもの人数が少ないから廃校」へ向かっているかのような風潮を生み出し地元住民の生活に不穏な空気をもたらしています。 公の場で統合に反対賛成だけの意見の聴取だと後々の地区での風評を懸念して意見を出しにくいです。まずは走水地区全体のことを考えるワークショップ（参加希望市民が参加できる・司会進行は横須賀市の誘導ではなく）の開催を求めます。
6	「廃校、売却へ向けて動いている。」との噂が有るようで、更に「形だけの協議会、説明会で収めようとする意向が透けて見える対応。」との感想を聴きました。過去から今迄の横須賀市の動きを見ると、「さもりなん」と感じます。真摯に「市民が主役」である行政と対応を望みます。一昔前の考えから脱却して、地域資源を有効活用するアイデアを醸成、実現する協議会、説明会にして戴きたい。
7	日本で一番海に近い学校がある横須賀市の走水小をなくさないで欲しい、という意見が児童を通学させている走水学区の人だけでなく全市的に多数あります。走水小学校は横須賀市の財産として地域や民間団体と連携した環境学習の場にするなど、もっと活用の方法があると思います。

No.	内 容
8	<p>実際子どもが海の生き物が好きで環境が良いので転校したいぐらい、という保護者もいます。</p>
9	<p>全市的に不登校児童・生徒が多く（937人）（この数字は1年間に30日以上登校できていない児童・生徒）喫緊の課題課と思われますが、魅力ある学校づくりや少人数クラスの達成には時間がかかりそうです。フリースクールも人気があるが横須賀市は少なく空きがない状況です。そこで走水小学校のような魅力のある学校・すでに少人数クラスが達成されているので、走水小学校への転入を促進してはどうでしょうか。</p>
10	<p>走水小学校をこどもの人数が少ないから廃校する、という考え方で終わらせないでもらいたいです。スペシャルな場所ではない、と言う方が協議会の委員の中にいたと聞いていますが、そのような考え方で走水小学校を廃校に導くことは許しがたい気持ちでいっぱいです。走水を市民レベルで活性化したいという団体や市民もいますし、走水海岸でビーチクリーンする団体も複数あります。</p>
11	<p>走水小学校からバスで馬堀小学校へ通わせれば良いとの話が協議会であったようですが、逆に目の前に京急バス停のある走水小学校への通学区を解放してもらい少人数の走水小学校に通いたい家庭を募る、という手段もあるのではないのでしょうか。</p>
12	<p>小学校の廃校は単に学校がなくなるというだけでなく、現在でも高齢化が進み、若者が定住せず、空き家が続出している現状に拍車をかけ、走水の消滅につながりかねない。 走水小学校の廃校は教育委員会の範囲をこえた問題を含んでいる。まさに地域の将来に関わる大きな問題であり、政治的判断が必要と思われる。</p>
13	<p>現在走水小に通っている子どもや卒業した地域の子どもの意見を反映する場がない、と話していました。地区の子どもたちは統廃合に向けて少なからず不安を感じているようです。地域説明会のような大人向けの堅苦しい場ではなく、子どもたちも気軽に未来を語れるようなワークショップの開催はできないのでしょうか。</p>
14	<p>平成11年に坂本小と青葉小の統合、平成18年に陽光小（昭和50年創立）が廃校、平成22年に光洋小（昭和48年創立）が廃校、平成25年に平作小を廃校にした。廃校された学校は昭和48年～昭和50年の間の創立で、高度経済成長によって学校がマンモス化した頃です。走水小学校は明治6年の創立です。大規模校から分離独立で出来た学校と明治時代に創立された走水小学校では、児童数が減少したこととはいえ、創立事情や地域性、特色性等に違いがありますので、それらを考慮して検討すべきです。</p>

No.	内 容
15	<p>町民対象住民説明会が、令和4年11月16日に走水小学校で開催されました。レッドゾーン（土砂災害特別警戒区域）を指定するのは、走水小では必要がないのではないかという男性の意見です。県から土砂災害防止法により指定されているとの回答がありました。走水小学校は風水害時・震災時避難所になっています。走水の地域は土砂災害特別警戒区域が沢山指定され、学校の裏山も指定されています。確かに急傾斜の山で落石や土砂など危険が予想されます。走水小の体育館は警戒区域内に指定されています。走水小の裏山は破崎と呼ばれていて、現在は破崎公園となっています。現在は、裏山からの登道はありません。外観では分かりにくい地質についてです。この岩盤は、三浦層群・池子層と言われているもので出来ています。約400万年～250万年前に海底でできたもので泥岩と火山の噴出物が積もって固まった凝灰岩の互層からできています。岩盤がかなりしっかりしているので大きな災害はないと思われます。小学校坂上のシャローム付近がむしろ危険性が高いと思われます。この付近の岩盤は、池子層・逗子層の強固な地盤の上に水を通しやすい小原台砂礫層・走水砂礫層がおおっているからです。約10万年～15万年前、現在の東京湾内を、利根川を含む古東京川が流れていて、走水付近は古東京川の河口付近にあったと推定され、土砂が堆積したのです。この層に含まれている礫の種類は、砂岩が最も多くついでチャート等です。層の厚さは、10メートル以上になります。戦後砂利の採取が行われたこともありました。住宅団地の話も出て会社が造成を始めましたが、許可がありませんでした。その地質のため小原台地の麓の走水に地下水（腐りにくい良質な水・化石水）が多量に湧き出ているのです。他には土石流の危険地域が3箇所あります。走水の町は急斜面の山と海に囲まれているので日頃から災害から身を守ることを心掛け、走水第16消防分団の協力で町民は防災訓練を毎年実施しています。</p>
16	<p>正規模校は、小学校では、12～24学級となっています。走水小学校ではそれを満たしているのは、創立してから150年間のうち、昭和55年～昭和60年のわずか6年間だけです。全学年1クラスが平成11年から現在まで24年間続いています。学校の小規模化による問題点が指摘されていますが、学校の小規模化によって生じることの問題の予想はあって当然です。それでも、学校の先生方の努力で、とても素晴らしい教育をして下さっています。その成果は、100周年記念誌の「走水小学校の歴史」等に紹介されています。走水小は明治時代からずっと超小規模校でした。学校の正規模について、令和の時代になって適正かどうか論じることが、その視点が乖離していて、時代背景・地域性・学校の特性などの違いもありその正当性に疑問が生じます。その意味で、今取り上げている適正規模の学級数は現実的でなく、期待目標・理想目標にすぎません、学校制度が実施されて151年が経過しています。昭和40年以降の創立の学校だったら規模の適正化を論じることが出来ると思います。</p>

No.	内 容
17	<p>統合問題は、児童、卒業生、保護者、地域住民にとっても大きな問題です。それぞれの思いは勿論、未来を生きる人々や町に大きな影響を与えるからです。廃校反対、これは感情論や一時の感傷ではありません。町や学校の将来を考えてのことです。少子化・児童数の少人数化に対し、教育行政による、対処療法的対策によって統合を考えるだけでなく、未来に向けて、少人数であっても、より良い教育をしていくためには、今どうするか。また、現在の状況を考えるだけでなく、走水小学校を拠点にした学校が、なくなった後どうなっていくのか。将来の子どもたちがどう育っていくのか。現在の危機だけでなく、未来を見据えた冷静な判断と適切な将来像を描いていくことが求められています。光洋小学校を鴨居小学校に統合したように、小規模校を大規模校に吸収すること、過去にあった追浜小と鷹取小等の統合問題のように反対のための反対でもいけません。大家族から核家族し、生活基盤になっていた、漁業の衰退により、若者が町から出ていきました。その後少子高齢化が進み、空地・空き家が増え、後々に人口が減って地域が活力を失い衰退していく中で地域をどう活性化していくのか、今後、増加していく少人数の学校の教育をどう充実させ、より良い教育を進めていくのか、財政が厳しいからと単に統廃合するだけでは、やがては伝統や特色ある良い学校がなくなってしまいます。走水に住む未来の子供たちのためにも、150年の伝統と歴史ある学校が、これからも在り続けて欲しいと思います。</p>
18	<p>少子化の進展と学校の維持にかかる財政負担を考えると、統合もやむをえないという意見があります。学校があまりにも少人数化していて理解はできますが、財政負担を軽減するためだけに統合するのでなく、長期的財政負担をも考慮して、これからの未来の子どもたちの教育環境をどのようにしたらより良くしていけるのかという観点でも検討を進めていくべきです。統合すべきか、やめるべきか、走水の地域に応じた適切な未来像・将来像を描いて議論していくことが重要だと思います。</p>
19	<p>議事録を拝読しております。議事録の後に意見募集をしていますが、提案された意見はあると思いますが協議会で議論された形跡がみられません。ちなみに第6回の協議会で委員の一人が12月に学校教育研究所（正式名称は不明）の方が教育委員会あてに意見書を出しているようですが、事務局に配布したと、議事録に記載されていましたが、協議会で議論した様子が見られません。提案された意見を公にしていらないとすれば、問題ではないですか。このようなことは他にないですか。何のための意見募集でしょうか。</p>
20	<p>走水に住む者です。20日に走水地域に向けて説明会が行われますが、この件については教育委員会だけの問題ではないと考えています。これから県営団地も建て替えられ、空き地もたくさんあります。小学校がなくなってしまったら子育て世代が移住しにくい要因の1つになると思います。現に高齢者が多い地域です。若い世代に移住して頂かないと走水が廃れてしまいます。現に子どもは少なからず居ます。子供会も休止状態で小学校の運動会と同時開催される県民運動会ですらなくなってしまいます。教育委員会ではなく、地域福祉課としてはこの問題をどう捉えていますか？走水地域だけの話ではないとは思いますが。しかし「子どもがいないから廃止」ではなく「何か策を考えてそれでもダメなら」なら町民も納得すると思います。走水は独特な町です。トンネルで分けられた小さな町です。小さい町だから無くなってもいいのですか？走水にとって今回の統合の問題は町内の問題と捉えています。その事をずっと環境整備委員会でも訴えてきましたが、地域福祉課からの言葉は何もありません。</p>

No.	内 容
21	<p>走水馬堀教育環境整備についてです。カナロコと毎日新聞より、走水小が廃校になるような内容の記事が出されました。まだなにも解決していないですよ？話し合いの場もまだ持たれる前だというのに、このような対応は地域住民としてとても憤りを感じますし、とても悲しく思います。このまま強行突破されるおつもりですか？教育委員会だけでは話が進まないのではないかと考えます。11月9日に協議会が行われますよね？その際に教育委員会だけではなく、地域課の方も参加を求めます。走水小は地域に根付いている貴重な資源です。以前は小規模を推奨されていたとも聞きました。なぜこのような結果になったのでしょうか？財政が苦しいなら直接的に言えばいいと思うし、なぜそうなったかを考えて失敗だったと認めないのですか？このままだと完全に地域より反発を食らいますよ。とにかく、9日の協議会と20日の地域に向けての説明会は教育委員会だけでなく、地域課の参加と意見を求めます。話が進みません。</p>
22	<p>先日（11月20日）の上記説明会に参加した者です。当日の資料を再度、見返したところやはり今回の協議会の進め方や、諮問のあり方に納得がいきませんので意見を申し上げさせていただきます。長い時間かけて協議会で検討してこられた結論が方策案1、2、3とあり、これをもとに審議会が答申をされたのだと思います。方策2,3については「懸案」事項としていずれも適正規模12～24学級に対応できないからこれらの方策は適切ではないと解釈できます。しかし、適正規模を満たさないことは初めからわかっていることであり、それでも存続させたいということから検討を行ってきたのではないのでしょうか。適正規模を満たさないダメであるなら、このような検討を行う必要はなかったと思います。特に方策案3の小規模特別認定校は小規模だからこそその制度であるのに適正模にならないからダメであるということは制度の趣旨と矛盾してないのでしょうか。これでは結論ありきで検討してきたとみられても仕方ないと思います。事務局の考えが色濃くでたこのような資料では諮問委員会の結論も委員会開催前から予測できます。もっと小規模校の存続の方策に重点をおいた検討をすべきだと思います。以上、説明会に参加した者としてスッキリしないものがありましたので意見を述べさせていただきました</p>
23	<p>走水馬堀教育環境整備についてです。20日21日に説明会が行われました。そこでの出た意見に対してもその場で回答されていましたが、なぜあのような強気な態度での答え方になるのでしょうか？答えられていた主宰の方に対し、かなり不快に感じました。なぜあのような方が教育委員会にいるのかと思うだけで不快に感じました。子供たちにもこれからの横須賀市の教育に悪影響です。また、説明会には正直あまりこれまでの話し合いについて、あまり理解というか、準備されないで質問や意見を述べられていた方もいたかとは思いますが、普通は質問をなんでも、積極的に、と仰っていたのに、あんな態度で返答されたら気分を害すると思います。完全に上から目線での回答の仕方と感じました。25日の走水馬堀合同の説明会には来ないで頂きたい。かなり不愉快でした。通学補助や仮の小規模特認校に対しての市からの補助等に対しても“バラマキ”と答えたり、感情的に答えたり。あなたはどこかのお偉いさん？面接官ですか？裁判官ですか？と感じました。即刻退任を求めます。誰も金をくれなんて一言も言ってないでしょう。解決してほしいところが決まっていのに、決定事項の報告、決定ありきの話し合いになるからこういうことになるんですよ。皆が納得のいく話し合いを目指してないですよ。しているとと言われてもそれは全く感じられませんでした。誠意を持ってない。</p>

(2) 通学や通学路について

No.	内 容
1	<p>走水地域から年間を通して馬堀までよく歩いています。県立立花住宅からおよそ4kmあります。途中で坂があったり、急カーブがあったり、人家がない道を通ったり、壁のそばを歩いたり、土石流があった場所を通ったり、横断歩道を渡ったり、海岸沿いを歩きます。特に秋や冬になると、強風や暴風雨の日に合う事も珍しくありません。「湯楽の里」の温泉施設そばのガソリンスタンドの近くの海岸に高波・高潮対策の設備・広場や歩道がありますが、馬堀地区にあり、走水地区の海岸は高波を防ぐための設備がありません。強風や暴風雨の時には、大人でも体が飛ばされそうで、傘もさせません。ここを通学路にすることは無謀です。体験した人なら誰でもその危険性が分かります。台風時に車でそこを通っただけの人でも分かります。安全上、近くのトンネルを使いたいのですが、安全上無理です。仮に走水小学校が廃校になると、通学方法はスクールバスと路線バスの併用しかありません。公平性等問題点が指摘されますが、安心・安全の確保のため、どうしても支援が必要になり、利用するしかない場合は、市民にきちんと丁寧な説明をし、理解していただく努力をするしかありません。すべての子どもを大切にすることを念頭にやむ負えず支援が必要と判断した場合は、通学にタクシーを使う、スクールバスを使う、自家用車を使う、介護員をつける、ボランティアをつける等必要な支援を可能な限りすべきです。安全第一そして教育の機会的等、また誰もが教育を受けることができるのが原則です。義務教育は保護者にあまり経済的負担を掛けないように努力もすべきです。そのためにも全員がバス通学は避けるべきです。一人一人を大切に、誰もが大切にされ、人として生きていくために、またその人らしく生きられる社会の実現のために、支援が必要な場合はその必要に応じて、出来る範囲で行政は支援をしてあげることが大切だと思います。なぜなら廃校は行政の施策のためにするのですから、馬堀小までが通学路になったら、安心・安全確保を最優先に十分な支援や配慮、環境整備するのは当然のことなのです。</p>
2	<p>町民対象住民説明会が、令和4年11月16日に走水小学校で開催されましたが、児童の通学について最長で通学距離が4kmもあることです。高潮・高波対策がされていない海側を500メートルほど通学路にしていること等が課題になっています。女性の方から「トンネルはなぜ通学路にしないのですか。」と質問がありました。これについて丁寧な説明がありませんでした。走水・観音崎に至る道路は国道16号線及び県道として使用されています。以前は旧陸軍が明治25年12月18日に起工・26年7月8日に開通させた幅員4メートル40センチ・延長3404メートルの軍道でした。昭和32年に道幅を広げる工事が始まり現在に至っています。軍道がもとになっているため、国道16号は県営立花住宅入口までになっていて、観音崎までにはなっていません。走水軍道トンネルは、生活道路ではなく、軍のための道路であったため道幅も狭く、電灯もなく、トンネルの中途に明かり取りがあるだけでした。住民が暗いので電灯をつけるよう何度もお願いしましたが、許可されなかったようです。大正時代の末期にようやく電灯をつけてもらいました。おおむね現在もそのような「つくり」になっています。電灯がありますが、現在でもトンネル内は暗くて、トンネル内の歩道も狭く、通行人もほとんどいません。トンネルを出てしばらく歩道がありますが、海岸道路と接続する付近になると歩道はなくなり、横断歩道もなく渡ることはできなくなり、外灯も民家もありません。通学路として利用することは現状ではあまりにも危険すぎるのです。</p>

No.	内 容
3	<p>通学バスを利用となった場合、問題が多くあります。走水小の全員がバス通学になります。今年の11月になって1日42本あったダイヤが32本にと10本も本数が減ってしまいました。児童の登校・下校時の本数も1本ずつ減り、特に朝は遅刻が心配され、帰りはバスの待ち時間が20分ほど長くなっています。さらに、バス代も大幅に増額され、保護者の経済的負担も増えることとなります。番通学距離が長いのは県立立花住宅と防大官舎の地域ですが、これらの地域が走水小児童の7割～8割を占めています。京浜急行のバス会社に増便をお願いできるのではとの市からの回答がありました。</p>

(3) 学校規模について

No.	内 容
1	子供達だけの事を思うと、なるべくある程度の同学年の生徒数があり、その中で色々な考え方に接する事でコミュニケーション力が身についていくのではないかと思います。もちろんそれを苦手とする子供もいると思いますが。少人数では、得意な生徒の意見に他の生徒がうながされる事もあるのではないのでしょうか。
2	高学年になればキャンプや修学旅行など集団活動はある程度の人数がいるからこそ盛り上がった活動ができ思い出作りになると思います。
3	馬堀小では9月に5年生がデイキャンプを行いました。5年生担任生徒全員が子供達がデザインしたクラスTシャツで揃え走水小前の海で貝広いでワクワクした事や肝試しをやってドキドキしたなど子供達から楽しかった話をいっぱい聞きました。保護者の方達からもキャンプ良かったねクラスTシャツみんな揃って凄く良い感じだねと言う声をいっぱい聞きました。色々な問題が解決し走水・馬堀の子供達が一緒になりこのような集団活動など楽しい学校生活をおくれる日がくると良いと思いました。
4	地域説明会もあったそうですが、地域説明会では走水小学校が人数が少ないことをデメリットにあげている内容について、卒業生の中学生が「デメリットに感じたことはない」「説明会では役所の人や地域の大人に対面で言える雰囲気ではなく声をあげられなかった」と会のあとに話していたそうです。
5	学校の適正規模・適正配置の基準についてですが、適正規模とは標準的な規模のことで、適正規模以外の学校が不適正ということではありません。国は小規模校を切るつもりはないと見解を出しています。（ただし対応は各自治体の判断による）学校にはある程度の規模も必用ですし、市の財政負担も考慮することは理解できます。しかし、「児童が減少し、財政も厳しいから学校を減らす。」このことが本音にあって、より良い学校教育を進めるために建前では困ります。そんなことは決してないと思いますが・・・学校の財政について一番の負担は、人件費で全体の7割を占めています。教員は県費の負担です。管理費の水道代等の使用料は変わりません。市職員の人件費、消耗品、修繕費等は必要です。各学校が節約、緊縮、無駄を省くなどの努力と工夫が必要です。しかし、教育は世界に役立つ人材の育成です。国のため、未来のためになる宝です。子どもの将来に向けた、学校教育への積極的な投資が必要です。横須賀市の教育施策の充実と地域の魅力や特性を活かした取り組みが継続して必要だと思います。明治政府の初期、財政不足であっても、学校制度の実施による読み書きそろばんの出来る子どもの育成は、とてつもないほどの長い間の庶民の夢でした。250軒しかない小さい集落であっても全員が納得しお金を出し合い学校を運営したのです。このように、地域が学校づくりにずっと関わってきて今があるのです。学校の廃止反対が地域のエゴや個人の感傷ではありません。走水の地域にとっては、近くにある学校が必要なのです。

No.	内 容
6	<p>11月20日走水小学校での説明会を聞きました。適切な規模の集団を組み多様な教育活動を展開する必要がある事はよく分かりました。しかし、今は走水小学校、田浦小学校の小規模化が論議されていますが、横須賀市が学校の適正規模の範囲を12学級～24学級とし、11学級以下を小規模校とし続けると、市内の小学校は今後も近隣の望洋小学校ほか、この基準に入り統合する小学校が増えるだけになるように思います。どこの地域でも、地域住民は地域の小学校に対する思いは計り知れない程あるはずです。統合の話が出るたびに地域住民は不安になり、若者はそんな話が出る地域に、子どもと住みたく無いと思うでしょう。適正規模範囲だけを基準に統合を進めて行くには、少子化が進む日本、人口減少が進む横須賀市の解決策にはなりません。</p>

(4) 跡地利用について

No.	内 容
1	寺子屋 日本人として本当に必要な事を教えます。例えば、歴史と衣食住、不登校児童の問題解決に繋がると思っています。子供だけではなく、大人も学べるのが理想です。
2	簡易宿泊施設 まずは横須賀市立小、中学校の林間学校。校庭でテント泊、キャンプファイヤー海遊びなどいづれは横須賀市外からの宿泊客を受け入れる（日本人に限る）
3	地産地消のマーケット ポートマーケットは横須賀市民の為のマーケットではなくなってしまったので…農家さんの廃棄野菜を格安販売
4	コミュニティセンター 赤ちゃんからお年寄りまでが自由に集まれるような…
5	子供食堂 横須賀は子供の貧困が多くてびっくりです。地域に1つあるべきだと思います。
6	走水小学校を馬堀小学校へ編入する案ですが、小学校を現在の場所に残しつつ、高齢者施設と複合的な形で、超少子高齢化の横須賀の先進的なモデルにして欲しいです。
7	都心のシニアが海のそばの温暖で気候もよく、東京湾を見渡せる場所で、若い子どもたちから刺激を受け、また、交流をしていける施設にして欲しいです。
8	あんなに海のそばの学校はありませんが、歩いて0分で海釣り出来る老人保健施設とか、まるで、ポニョの舞台のような学校とか、広報宣伝の仕方がいくらかでも出来る立地だと思います。宣伝はUSJを復活させて刀のような、斬新で振り切った民間のマーケティングを活用した方がいいと思います。
9	廃校となった場合走水小学校跡をどうするのかという協議がないようです。走水小学校も学校跡地も何もかもなくしてしまうことに関しては走水地区の住民全体が反対なのではないでしょうか。学校の統廃合の話と同時に、学校がなくなった後のことも協議内容に入れていただきたいです。

(5) 地域や環境について

No.	内 容
1	走水小学校について、市民向けの見学会をお願いします。特に子供達対象。もっと素晴らしい意見がもらえると思います。
2	走水・馬堀の地域別協議会の日程の周知をHPだけでなく、まちこみメールや学校から保護者あての通知文で周知してほしい
3	傍聴定員を10人以上に増やしてほしい。
4	オンラインによる開催を希望する。
5	走水・馬堀地域小中学校教育環境整備検討協議会には走水の一部の人だけしか参加していませんし、協議会の発足や趣旨がきちんと伝わる場が少なく、協議会ニュースについても管轄の大津コミュニティセンターにも置いてありませんでした。協議会の発足により、「走水小学校は廃校になる」との誤解を生み走水小から馬堀小へ子どもを転校させた家庭もあります。
6	都内や横浜などから山村留学でなく海洋留学のような形態も検討できないでしょうか。環境学習に適し、すぐにも先進的な環境教育の実践ができるなど少人数校ならではの魅力をもち、先進的な学校モデルを創る良い機会として考えられないでしょうか。
7	走水小学校に通わせる児童がいなくても、走水地区では学校がなくなることへの懸念が強い、と聞いています。小学校がなくなるということは、地区での行事が圧倒的に減る。走水地区の活性化を失速させることにつながる。横須賀市は定住促進を図っていると思いますが、学校がなくなる地区へ若い世帯は定住しないと思われます。一方、走水地区は横須賀中央などの都市部にも海岸にも近く、馬堀海岸の直線道路から走水水源地公園がオープンし横須賀美術館までをつなぐ風光明媚な場所でもあり、海洋都市横須賀市として象徴的な存在にもなりえるかと思います。
8	走水小学校に通わせている保護者の方がビーチクリーンに来られ、走水小学校統廃合について不安感や協議会のお話を伺いました。現在走水小学校に通っている子どもたちは走水小学校に愛着を感じていて、教員と児童の距離が近いこと、つりクラブなどの環境の良さなどをあげていました。さらに子どもが走水小学校に通い続けることができなくなるのでは、と話をしていました。

No.	内 容
9	<p>走水の町は今、閉塞感・停滞感が蔓延となり、空地・空き家の増加、人口減少・少子高齢化の進行によって後々に衰退しているように思われます。また、コロナもあって経済活動の停滞を招き町の活力の低下も感じています。しかし、今年の7月、4年ぶりに走水神社及び走水連合町内会による祭礼が、子ども、青年、老人、その他住民のみんなが一つになって協力し合って盛大に挙行されました。また老人福祉施設が複数あり地域との交流を深めています。走水福祉部も活発に活動しています。連合町内会は祭のほかにゲートボール大会や避難訓練・納涼祭等の行事に力を入れています。最近では、走水神社の参拝者も増加してきています。釣り客も多く来ています。数軒の喫茶店も新しくでき、国道沿いにある食堂も数人が毎日並んでいます。そのほかのレストラン、県立観音崎公園・ファミリーマート等も客でにぎわっています。カヤックの店もあります。宿泊のための旅館もあって活力になっていると思います。横須賀美術館やボードウオーク、御所ヶ崎の低砲台跡地、伊勢町の水源池も徐々に観光客が訪れるようになりました。さらに、京急ホテルからラ・ビスタ・ホテルエンドスパが8月からリニューアルして営業を始めます。横須賀テラスのアウトドア風のモダンなバンガローハウスが出来て、宿泊やバーベキューも楽しめます。このように、町の衰退が心配される中、走水は住民が安心して楽しく暮らせるよう、元気で活力ある町づくりを市や県の力をいただいて、少しずつ進めてきています。学校が存在することも、子どもの姿や元気な声が聞こえる事で町の活力になります。</p>
10	<p>教育委員会では、今後も超小規模の学校の意見を聞き、児童数を保持する。また増やす対策など、さまざまな支援をお願い致します。また地域の野球・柔道・剣道・空手の子どもクラブも中止等の影響が出ますので、地域でスポーツ等できるよう応援して欲しいです。さらに、共働きの環境にいる子どものため、放課後に教室で過ごせる支援や子どもを預かってくれる支援など必要に応じて検討していただけるとありがたいと思います。今一番必要なのは、市が少子化対策や小規模校の児童数を増やすための支援を強力に進めて下さることです。子どもを育てるのに少しずつでも良い環境・働く親を助けられる住みよい地域でありたいと思います。そして、お年寄りの笑顔と子どもの声が響き渡る地域は元気が出ます。</p>
11	<p>走水小学校は環境に恵まれた素晴らしい学校です。走水のことを知らない市民もたくさんいます。「走水は良いところだね」と言ってくださる方はたくさんいます。まずは県外ではなく市民に走水を知ってもらいたい。しかしどう発信したら良いのですか？なかなか学校に通えない子どもが山ほどいます。その子どもが「走水なら行ってみたい」と言ってくれるなら、残すべきではないのかな？とおもいますが、方法が分かりません。今学校に通えない1000人+αの子どもが大人になった時、横須賀はどうなりますか？心配です。それが少人数の学校を残して解決する問題とは思いませんが、10人でも子どもが家から出られるのなら、今の何もしない環境より私は良いと思いますが、どうでしょうか。こういう学校がありますよと発信するのはどうしたら出来ますか？横須賀市で取り組んでいることと、その取り組みに適した学校を廃校するのは矛盾していると思います。地域福祉課としてどう考えているのか聞きたいので、20日の地域説明会で話を聞きたいです。走水にとって小学校が無くなることは重大なことです。横須賀市が思ってる何百倍も住民は不安に思っています。</p>

No.	内 容
12	<p>地域については別問題になるでしょうね。教育についてお話になっているのですから。現実的な部分としては厳しいと思っていますよ。実際に人が少なくなって若い人がどんどん居なくなっているのはここだけの話ではないですから。そんな簡単な問題にはなりません。この話をすると泣いてしまう子もいます。子供の中には学校が無くなる事での不安は常にあるようです。子供たちは子供たちなりに考え、悩んでいます。その辺りまで考えておられますか？確かに大人数で出来ることは大いに良いことですし、楽しみも増えるかもしれませんね。実際にクラス替えしたいって子もいます。学童も無いですし、預けられない保護者の方のお気持ちも分かります。地域から何も声が上がらない？意見が出ない？何を言ってるんですか？これまで協議会でも話し合って意見を伝えてこられていたはずですよ？その意見が何も反映されないまま、審議会にも持っていかれましたよね？だから会議の進め方がおかしいと記されてるんじゃないんですか？他の課の方を説明会で出してくれとお願いしましたよね？なぜいらっしゃらずに、何も発しないお偉いさんのような方が来るんですか？それこそバラマキのような経費の、税金の無駄です。仕事で来ているんですよ？端の方で居眠りしてまで居る必要はありませんよ。文化を壊し、地域のコミュニティを壊し、信頼を無くし、人を物のように1つにまとめ、全てやりたいように、意見を聞かずに押し通し強行突破されるというお気持ちなのが良く分かりました。横須賀市の生まれ育ちの市民として、横須賀は好きであるのに、本当に残念です。</p>
13	<p>誰も1人にさせない横須賀、地域との繋がりを強めていこうとしている横須賀市の動きがあるのなら、横須賀市から新しい発想で、どんなに小規模であっても地域に根付いた小学校を、地域住民、地域の企業、地域産業、NPO法人や、福祉施設等の力も借りて、小規模校を近隣の小学校と一緒に教育出来るカリキュラムを作り、校舎の活用は地域住民や地域企業や地域福祉施設などに協力してもらおうような、新しい発想で考え、未来ある子ども達が誇りを持って地域から育つ事ができる、地域作りを行って欲しいです。ぜひ、小規模校をいかに地域に残し行くか、新しい発想を横須賀市から発信して欲しいです。</p>